使いこなす本

B3FH-5531-01

ハード編

FMV-DESKPOWER

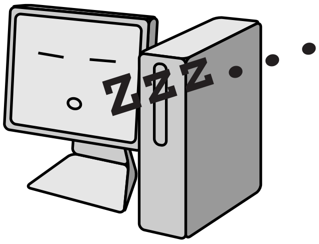
C2/55L, C2/50L, C2/507, C2/46L, C2/465



FUJITSU

こんなことがやりたい！

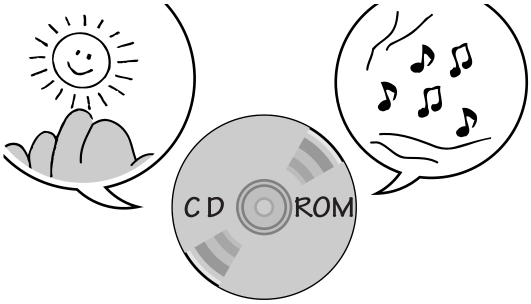
スタンバイ（省電力）機能で節電したい！



ちょっと休憩…そんなときはスタンバイ（省電力）機能で電力消費を抑えましょう。

☞P.20

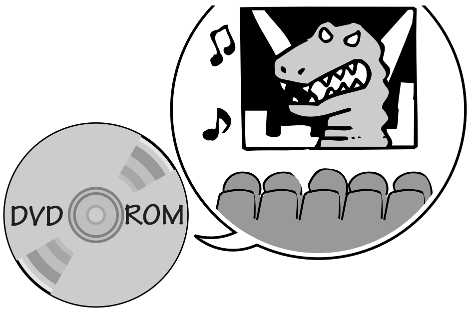
CD-ROMや音楽CDを使いたい！



パソコンでCD‐ROMの映像や音楽CDの音声を楽しむことができます。

☞P.26

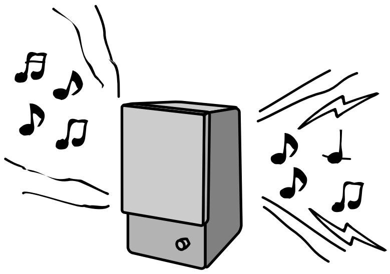
パソコンで映画を見たい！



DVDプレーヤーを使うと、パソコンで映画も楽しめます。

☞P.30

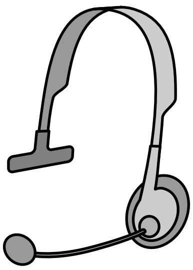
スピーカーで音を聞きたい！



音が大きすぎる、あるいは小さくて聞こえない…そんなときはスピーカーの音量を調節しましょう。

☞P.40

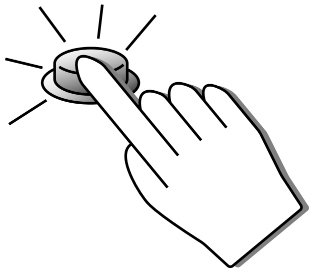
ヘッドセットを使いたい！



添付のヘッドセットを接続して、自分の声で文章を入力したり、いろいろなアプリケーションを使ってみましょう。

☞P.45

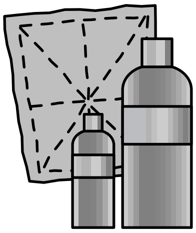
ワンタッチボタンでらっくらく！



キーボードのワンタッチボタンを使うと、簡単に音楽CDの操作や音量調節、メールソフトの起動が行えます。

☞P.49

なんだか汚れてきちゃった…お手入れの方法が知りたい！



パソコンを毎日使っていると、だんだん汚れてしまいますよね…まめにお手入れをしましょう。

☞P.56

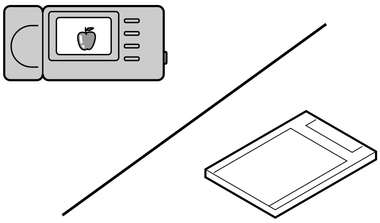
パソコンで作ったものを印刷したい！



年賀状、カード、企画書…作ったものを印刷したいときは、プリンタを接続します。

☞P.64

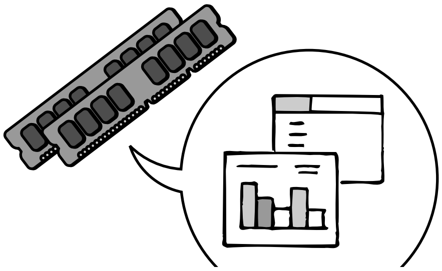
デジタルカメラを使いたい！



お気に入りの写真を取り込んで、オリジナルの画像を作りたい…そんなときはデジタルカメラを接続します。

☞P.72

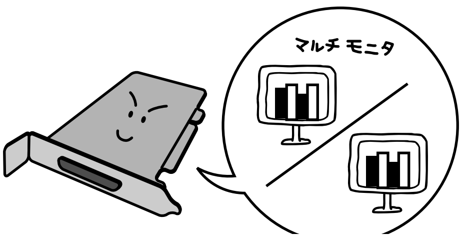
パソコンの処理をもっと快適にしたい！



たくさんのアプリケーションを同時に使いたい、「メモリ容量の不足」のメッセージがよく出る…そんなときはメモリを増設します。

☞P.80

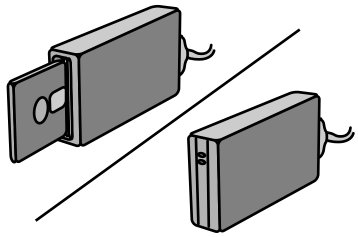
パソコンでもっといろいろやってみたい！



ビデオの編集をしたり、マルチモニタ機能を使ったり…拡張カードを取り付けると、さまざまなことができるようになります。

☞P.87

もっとたくさんのデータを保存したい！



あれもこれもとっておきたい…MOドライブやハードディスクを増設すると、大容量のデータを保存できます。

☞P.92, ☞P.97

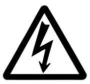
本書の表記について

安全にお使いいただくための絵記号について

本パソコンおよびその他のオプション機器を安全にお使いいただくために、以降の記述内容を必ずお守りください。
本書では、いろいろな絵表示をしています。これは装置を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々に加えられるおそれのある危害や損害を、未然に防止するための目印となるものです。その表示と意味は次のようになっています。内容をよくご理解のうえ、本文をお読みください。

⚠警告	⚠注意
この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡する可能性または重傷を負う可能性があることを示しています。	この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性があること、および物的損害のみが発生する可能性があることを示しています。

また、危害や損害の内容がどのようなものかを示すために、上記の絵表示と同時に次の記号を使っています。

	記号の例とその意味
	△で示した記号は、警告・注意をうながす内容であることを告げるものです。記号の中には、具体的な警告内容（左図の場合は感電注意）が示されています。
	⃠で示した記号は、してはいけない行為（禁止行為）であることを告げるものです。記号の中には、具体的な禁止内容（左図の場合は接触禁止）が示されています。
	●で示した記号は、必ずしたがっていただく内容であることを告げるものです。記号の中には、具体的な指示内容（左図の場合は一般的な強制事項）が示されています。

画面例および入力例について

- 表記されている画面およびイラストは開発中のものです。実際とは異なる場合があります。また画面は一例です。お使いの機種やモデルによって、画面が若干異なる場合があります。
- お客様に入力していただく文字列（コマンドライン）などは、入力例の文字上にアミ　　をかけて表しています。
- 特に指定がない場合、英数字、記号は半角で入力します。また、大文字と小文字の区別はありません。
- 入力時に空白を入れる必要がある場合は、以下のように表しています。

  dir c:

  この場合は、「dir」と入力したあと、［　］（空白キー）を１回押し、続けて「c:」と入力してください。

イラストについて

- FMV-DESKPOWER C2/55L（縦置き）を例にしています。他の機種では若干異なる場合があります。
- 本来接続されている縦置き用フットやケーブルなどを省略している場合があります。

本文中の記号について

本文中に記載されている記号には、次のような意味があります。

重要	お使いになるときに注意していただきたいことや、してはいけないことを記述しています。必ずお読みください。
アドバイス	操作に関連することを記述しています。必要に応じてお読みください。
	知っていると便利なことを記述しています。必要に応じてお読みください。
	手順が分かれる場合などに、次に進む箇所を示しています。
	参照先を記述しています。
	ご覧になっていただきたいマニュアルを記述しています。
	CD-ROMを表しています。
	フロッピーディスクを表しています。
用語	覚えていただきたい用語を解説しています。パソコンを初めてお使いになる方はぜひお読みください。

製品の呼びかたについて

製品名称を、次のように略して表記しています。

製品名称	本書での表記
Microsoft® Windows® 98 operating system SECOND EDITION	Windows98
Microsoft® Internet Explorer 5.00.2614.3500	Internet Explorer
Microsoft® Outlook® Express	Outlook Express
VirusScan for Windows 95/98	VirusScan
情報処理機器の省エネルギー化推進に関する法律	省エネ法

機種名の表記について

次のように略して表記しています。

製品名称	本書での表記
FMV-DESKPOWER C2/55L, C2/50L, C2/507, C2/46L, C2/465	本パソコン
FMV-DESKPOWER C2/55L	C2/55L
FMV-DESKPOWER C2/50L	C2/50L
FMV-DESKPOWER C2/507	C2/507
FMV-DESKPOWER C2/46L	C2/46L
FMV-DESKPOWER C2/465	C2/465

目 次 Contents

FMV DESKPOWER

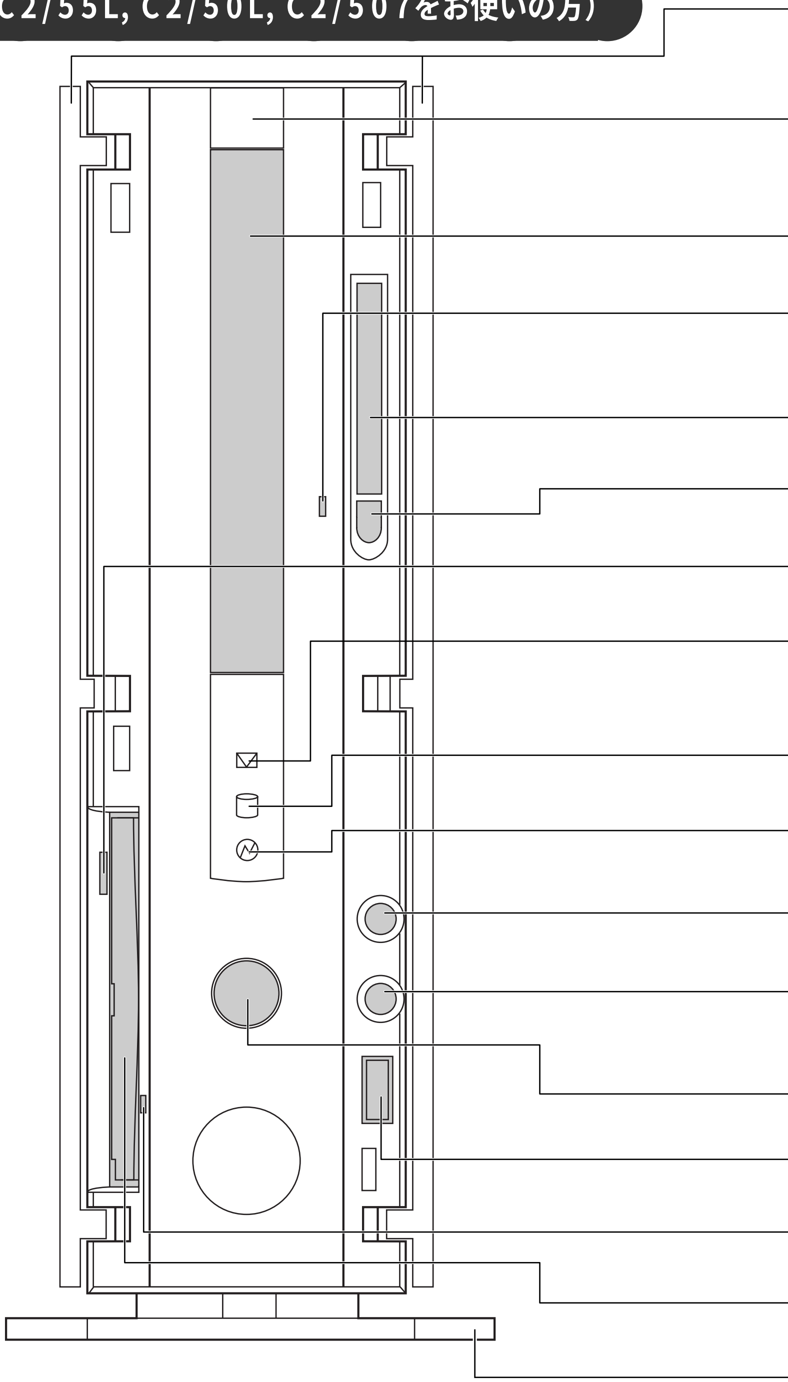
第 1 章
パソコンの各部はこうなっている

パソコン本体やキーボードなどの各部の名称について説明しています。

1 各部の名称と働き

ここでは、パソコン本体前面、背面、内部、キーボード、マウスの各部の名称と働きを説明します。

パソコン本体前面（C2/55L, C2/50L, C2/507をお使いの方）



（イラストはカバーを開いた状態です）

用語

USB（ユーエスビー）

Universal Serial Bus という規格の略称です。USB規格に対応している機器には、次のようなものがあります。

- マウス
- キーボード
- プリンタ
- ターミナルアダプタ
- スピーカー
- デジタルカメラ
- スキャナ

カバー
フロッピーディスクドライブやPCカード、ヘッドセット、USB機器、MDレコーダーを使用するときに開きます。

EJECTボタン
DVD-ROMドライブに、CD-ROMやDVD-ROM、音楽CDをセットする、または取り出すときに押します。パソコン本体の電源が入っているときに使えます。

DVD-ROMドライブ（☞P.26）
CD-ROMやDVD-ROMのデータやプログラムを読み出したり、音楽CDを再生したりします。

BUSYランプ
CD-ROMやDVD-ROMからデータを読み込んでいるときや、音楽CDを再生しているときに点滅します。

PCカードスロット（☞P.68）
別売りのPCカードをセットするためのスロットです。

PCカード取り出しボタン
PCカードを取り出すときに押します。

フロッピーディスク取り出しボタン
フロッピーディスクを取り出すときに押します。

メール着信ランプ
FM便利ツールと連携してEメールを受信した際に点滅します（省電力機能がACPIモードのときのみ有効です）。

ハードディスクアクセス表示ランプ
ハードディスクのデータを読み書きしているときに点灯します。

電源ランプ
パソコン本体に電源が入っているときに点灯します。

マイク端子
添付のヘッドセットのマイクプラグを接続します。

ヘッドホン端子／光デジタルオーディオ出力端子
添付のヘッドセットのヘッドホンプラグまたは市販のヘッドホン（☞P.47）、市販の光デジタルオーディオケーブル（☞P.77）を接続します。

電源スイッチ（☞P.16）
パソコン本体の電源を入れるときと、切るときに押します。

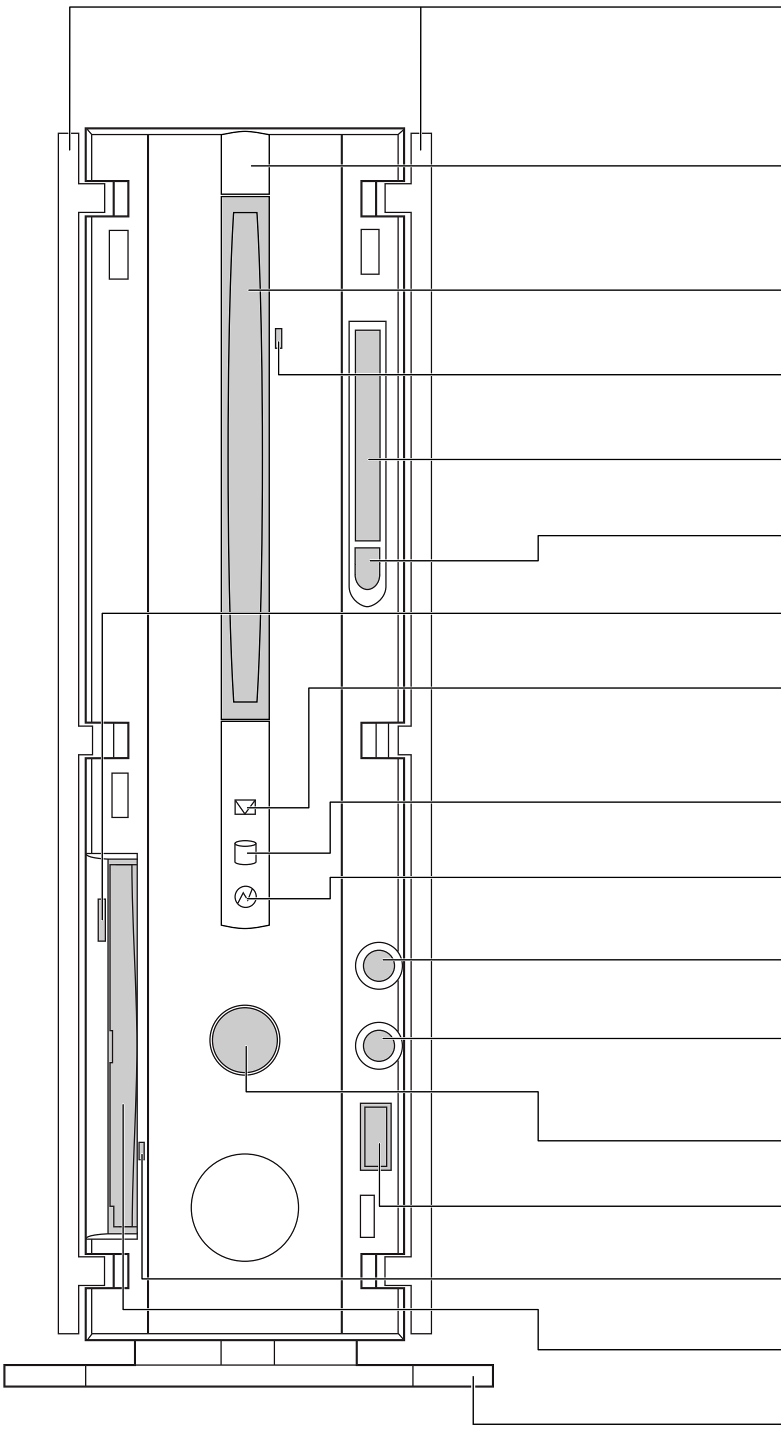
USBコネクタ
USB機器（☞P.75）を接続します。

フロッピーディスクアクセス表示ランプ
フロッピーディスクのデータを読み書きしているときに点灯します。

フロッピーディスクドライブ（☞P.23）
フロッピーディスクをセットし、データを読み書きします。

縦置き用フット
本パソコンを縦置きでお使いになる場合、転倒防止用として取り付ける台座です。
両側面にある通風孔（パソコン本体内部の熱を逃がすための開孔部）は、ふさがないでください。

パソコン本体前面（C2/46L, C2/465 をお使いの方）



（イラストはカバーを開いた状態です）

用語

USB（ユーエスビー）

Universal Serial Bus という規格の略称です。USB規格に対応している機器には、次のようなものがあります。

- マウス
- キーボード
- プリンタ
- ターミナルアダプタ
- スピーカー
- デジタルカメラ
- スキャナ

カバー
フロッピーディスクドライブやPCカード、ヘッドセット、USB機器、MDレコーダーを使用するときに開きます。

EJECTボタン
CD-ROMドライブに、CD-ROMや音楽CDをセットする、または取り出すときに押します。パソコン本体の電源が入っているときに使えます。

CD-ROMドライブ（☛P.26）
CD-ROMのデータやプログラムを読み出したり、音楽CDを再生したりします。

BUSYランプ
CD-ROMからデータを読み込んでいるときや、音楽CDを再生しているときに点滅します。

PCカードスロット（☛P.68）
別売りのPCカードをセットするためのスロットです。

PCカード取り出しボタン
PCカードを取り出すときに押します。

フロッピーディスク取り出しボタン
フロッピーディスクを取り出すときに押します。

メール着信ランプ
FM便利ツールと連携してEメールを受信した際に点滅します（省電力機能がACPIモードのときのみ有効です）。

ハードディスクアクセス表示ランプ
ハードディスクのデータを読み書きしているときに点灯します。

電源ランプ
パソコン本体に電源が入っているときに点灯します。

マイク端子
添付のヘッドセットのマイクプラグを接続します。

ヘッドホン端子／光デジタルオーディオ出力端子
添付のヘッドセットのヘッドホンプラグまたは市販のヘッドホン（☛P.47）、市販の光デジタルオーディオケーブル（☛P.77）を接続します。

電源スイッチ（☛P.16）
パソコン本体の電源を入れるときと、切るときに押します。

USBコネクタ
USB機器（☛P.75）を接続します。

フロッピーディスクアクセス表示ランプ
フロッピーディスクのデータを読み書きしているときに点灯します。

フロッピーディスクドライブ（☛P.23）
フロッピーディスクをセットし、データを読み書きします。

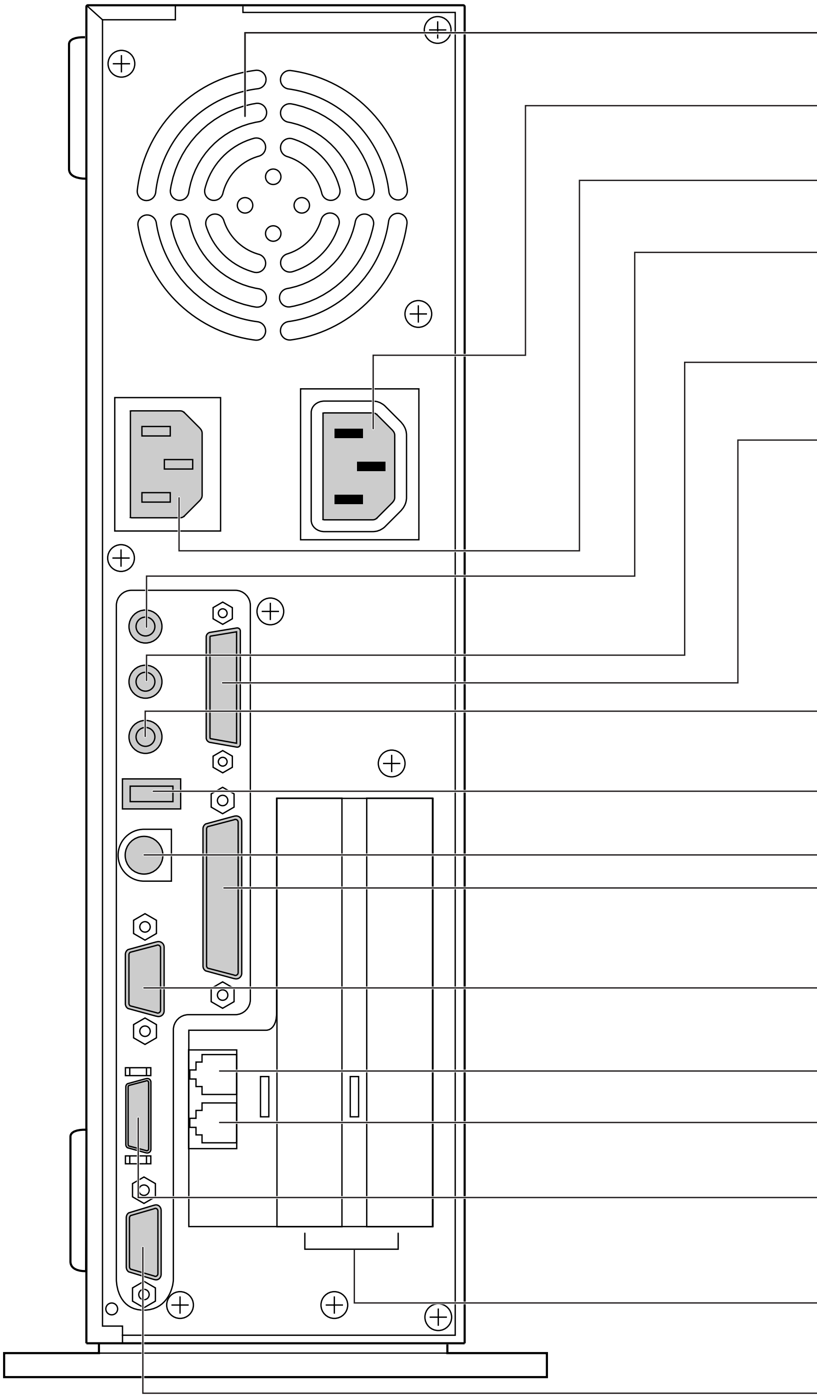
縦置き用フット
本パソコンを縦置きでお使いになる場合、転倒防止用として取り付ける台座です。
両側面にある通風孔（パソコン本体内部の熱を逃がすための開孔部）は、ふさがないでください。

パソコン本体背面

アドバイス

お使いになるときの注意

- 本パソコンでは、デジタルディスプレイコネクタとディスプレイコネクタを同時に使用することはできません。
- ディスプレイは、必ずパソコン本体の電源を入れる前に接続してください。



通風孔
パソコン本体内部の熱を逃がすための開孔部です。ふさがないでください。

アウトレット
ディスプレイの電源ケーブルを接続します。

インレット
パソコン本体の電源ケーブルを接続します。

SPK OUT端子
C2/46Lはディスプレイに内蔵のスピーカー（☛P.40）を、C2/55L, C2/50L, C2/507, C2/465は添付のスピーカー（☛P.40）を接続します（☛『取扱説明書』）。

LINE OUT端子
オーディオ機器などの音声入力端子を接続します。

MIDI/JOYSTICK端子
MIDIケーブルやジョイスティックを接続します。

LINE IN端子
オーディオ機器などの音声出力端子を接続します。

USBコネクタ
USB機器（☛P.75）を接続します。パソコン本体前面のものと同じ規格です。
C2/55L, C2/50L, C2/46Lはディスプレイに添付のUSBケーブルを、C2/507, C2/465は添付のキーボードのUSBケーブルを接続します（☛『取扱説明書』）。

キーボードコネクタ
別売りのPS/2キーボードを接続します。通常は使いません。PS/2マウスはお使いになれません。

パラレルコネクタ
プリンタ（☛P.64）やスキャナ（☛P.73）などのケーブルを接続します。パラレルポートともいいます。

シリアルコネクタ（COM1）
デジタルカメラ（☛P. 72）、ターミナルアダプタ（☛P.74）などの、RS-232C規格に対応した機器のケーブルを接続します。D-SUB9ピンのケーブルがお使いになれます。シリアルポートともいいます。

LINE端子
電話回線とつながるモジュラーケーブルを接続します。

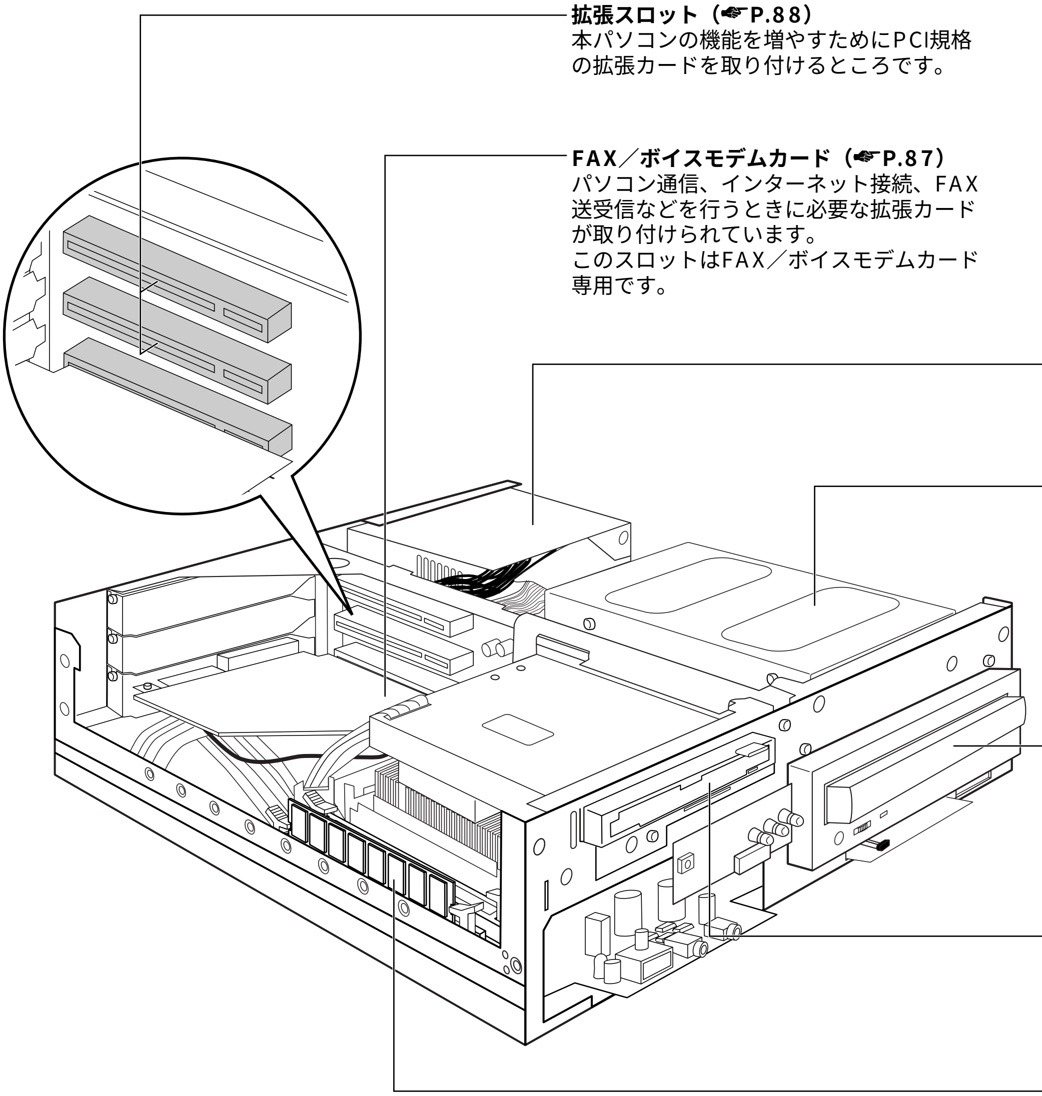
PHONE端子
電話機とつながるモジュラーケーブルを接続します。

デジタルディスプレイコネクタ
デジタル液晶ディスプレイのケーブルを接続します。
C2/55L, C2/50L, C2/46Lはディスプレイケーブルを接続します（☛『取扱説明書』）。

拡張スロット
拡張カード（☛P.87）を取り付けると、コネクタがここに見えます。

ディスプレイコネクタ
アナログRGBインターフェースのディスプレイケーブルを接続します。
C2/507, C2/465はディスプレイケーブルを接続します（☛『取扱説明書』）。

パソコン本体内部



拡張スロット（☞P.88）
本パソコンの機能を増やすためにPCI規格の拡張カードを取り付けるところです。

FAX／ボイスモデムカード（☞P.87）
パソコン通信、インターネット接続、FAX送受信などを行うときに必要な拡張カードが取り付けられています。
このスロットはFAX／ボイスモデムカード専用です。

（イラストは、C2/55 Lです）

用語

IDE（アイディーイー）
ハードディスクやDVD-ROMドライブ、CD-ROMドライブなどの内蔵ドライブを接続する規格のひとつです。

ATAPI（アタピー）
DVD-ROMドライブやCD-ROMドライブなど、ハードディスク以外のドライブをIDE規格のコネクタに接続して使うための規格です。

電源ユニット

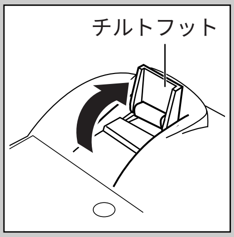
内蔵ハードディスク
IDE規格のハードディスクが取り付けられています。

DVD-ROMドライブ（☛P.26）
C2/55L, C2/50L, C2/507はATAPI規格のDVD-ROMドライブが取り付けられています。
C2/46L, C2/465はATAPI規格のCD-ROMドライブが取り付けられています。

フロッピーディスクドライブ（☛P.23）
3.5インチ3モードフロッピーディスクドライブが取り付けられています。

メモリスロット（☛P.81）
増設するメモリを取り付けられます。
C2/55Lには128MBのメモリが、C2/50L, C2/507, C2/46L, C2/465には64MBのメモリが、あらかじめ1枚取り付けられています。

キーボード

> **アドバイス**
>
> **キーボードに角度をつけて置くには**
>
> キーボード底面にあるチルトフットを起こすと、キーボードに角度をつけて置くことができます。使いやすいほうをお選びください。
>
> 
>
>
> **他のUSBハブではお使いになれません**
>
> 添付のキーボードは、本パソコンのUSBコネクタ、またはディスプレイのUSBコネクタ（C2/55L, C2/50L, C2/46Lをお使いの方）に接続してお使いください。
>
> **C2/55L, C2/50L, C2/46Lをお使いの方は**
>
> 添付のキーボードは本パソコンのUSBコネクタにも接続できます。

キーボードは、パソコンに対して指示を与え、実行させるためのものです。
C2/55L, C2/50L, C2/46Lでは、ディスプレイのUSBコネクタに接続します（☛『取扱説明書』）。
C2/507, C2/465では、パソコン本体背面のUSBコネクタ（☛P.7）に接続します（☛『取扱説明書』）。

使用するアプリケーションによって動作が異なることがあります。ここでは、各キーを押したときの一般的な動作を説明しています。

マウスポート（裏面）
添付のマウスを接続します（☛『取扱説明書』）。
添付のマウス以外は接続しないでください。

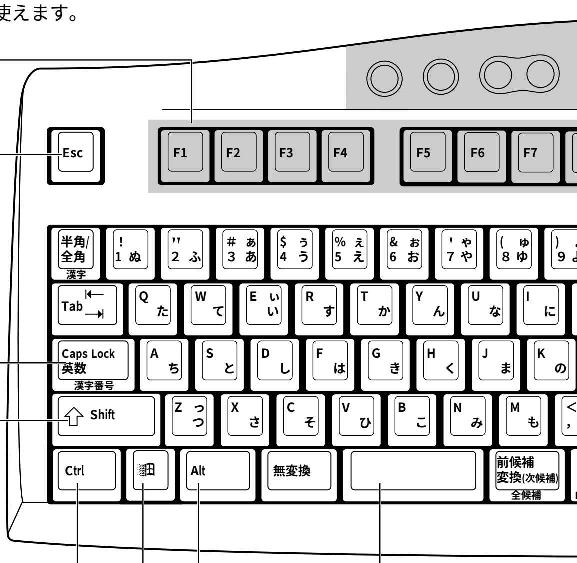
ワンタッチボタン（☛P.12）
音楽CDの操作や音量調節、メールソフトの起動を直接行えるボタンです。
パソコン本体の電源が入っているときに使えます。

F（ファンクション）キー
アプリケーションごとにいろいろな役割が割り当てられます。

Esc（エスケープ）キー
作業を取り消すときに使います。

Caps Lock（キャプスロック）英数キー
アルファベットを入力するときに、[Shift]を押しながらこのキーを押すと、大文字／小文字入力が切り替わります。

Shift（シフト）キー
他のキーと組み合わせて使います。
このキーを押しながら文字キーを押すと、キーの上段に刻印されている文字や記号が入力できます。



空白（スペース）キー
空白が入力されます。

Alt（オルト）キー
他のキーと組み合わせて使います。

Windows（ウィンドウズ）キー
「スタート」メニューが表示されます。

Application（アプリケーション）キー
右クリックと同じ役割をします。

Ctrl（コントロール）キー
他のキーと組み合わせて使います。

Back space（バックスペース）キー
カーソルの左側の文字が削除されます。

Insert（インサート）キー
入力する文字の挿入／上書きを切り替えます。

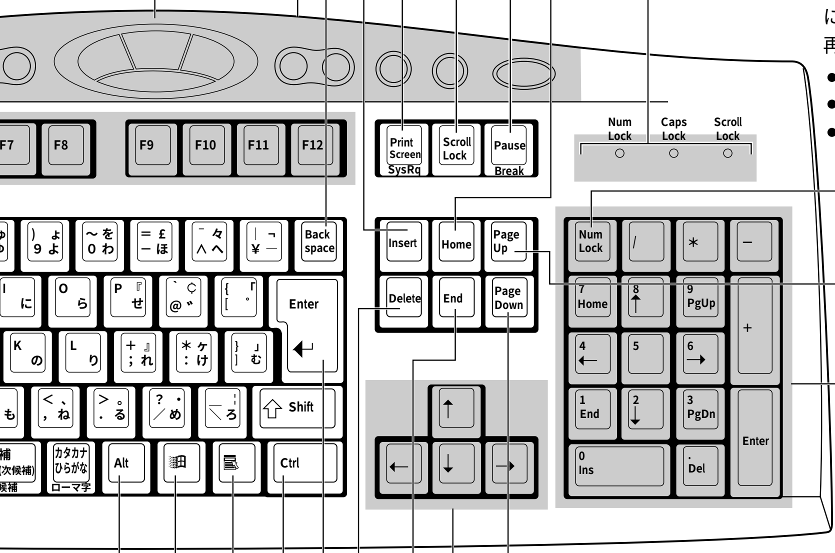
Print Screen（プリントスクリーン）キー
画面表示をビットマップファイルとして保存するときに押します。
[Alt] を押しながらこのキーを押すと、アクティブウィンドウだけをビットマップファイルにできます。
キーを押したあとにペイントソフト（ペイントなど）を起動し、「編集」メニューの「貼り付け」などを選ぶことで編集、保存、印刷ができます。

Scroll Lock（スクロールロック）キー
画面がスクロールしないようになります。

Pause（ポーズ）キー
画面のスクロールが、一時的に止まります。

Home（ホーム）キー
カーソルが行の先頭に移動します。
[Ctrl] を押しながらこのキーを押すと、カーソルが文書の最初に移動します。

インジケータ
次のキーを押すと点灯し、各機能が使えるようになります。
再び押すと、消灯します。
- Num Lock ：[Num Lock]
- Caps Lock：[Shift]を押しながら[CapsLock 英数]
- Scroll Lock：[Scroll Lock]



Num Lock（ニューメリカルロック）キー
テンキーの機能に切り替わります。

Page Up（ページアップ）キー
前ページに切り替わります。

テンキー
Num Lockインジケータ点灯時に、数字や記号が入力できます。
Num Lockインジケータ消灯時は、キー下段に刻印された機能が使えます。

Page Down（ページダウン）キー
次ページに切り替わります。

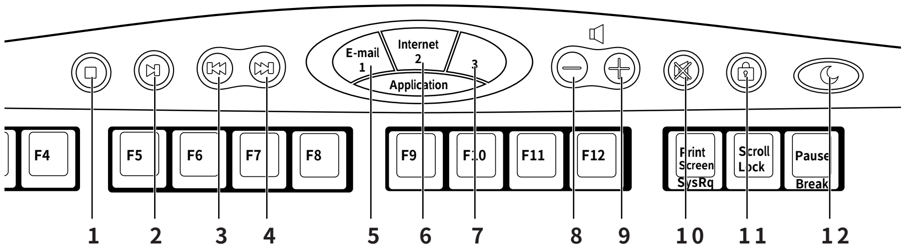
カーソルキー
カーソルが上下左右に移動します。

End（エンド）キー
カーソルが行の最後に移動します。
[Ctrl] を押しながらこのキーを押すと、カーソルが文書の最後に移動します。

Delete（デリート）キー
カーソルの右側の文字が削除されます。

Enter（エンター）キー
入力した文字を確定するときなどに押します。
リターンキーまたは改行キーとも呼ばれます。

ワンタッチボタン



重要

CD操作ボタンは、音楽CD以外では使わないでください

パソコンの動作が不安定になる場合があります。特に「停止／取り出しボタン」を押すとEJECT機能が働いてしまい、エラー画面が表示される場合があります。

詳しくは、『トラブル解決Q&A』の「CD-ROMを取り出したら青い画面になった」をご覧ください。

1～4　CD操作ボタン

1　停止／取り出しボタン　：音楽CDの再生を停止します。
停止しているときに押すと、C2/55L, C2/50L, C2/507ではトレーが、C2/46L, C2/465ではCDがスロットから少し飛び出します。

2　再生／一時停止ボタン　：音楽CDの再生をはじめます。
再生しているときは、一時停止します。

3　巻き戻しボタン　：音楽CDの再生する曲順をひとつ前にします。

4　早送りボタン　：音楽CDの再生する曲順をひとつ次にします。

5～7　Application（アプリケーション）ボタン

FM便利ツールで設定されているアプリケーションは変更できます。詳しくは、「ワンタッチボタンを使う」（☛P.49）をご覧ください。ご購入時は、次のように設定されています。

5　Applicationボタン1／E-mailボタン　：らくらくメールBOXが起動します。

6　Applicationボタン2／Internetボタン：Internet Explorerが起動します。

7　Applicationボタン3　：インターネット無料体験が起動します。

8～10　音量調節ボタン

スピーカーの音量を調節します。詳しくは「音量を調節する」（☛P.42）をご覧ください。

8　ボリュームボタン（－）　：音量が小さくなります。

9　ボリュームボタン（＋）　：音量が大きくなります。

10　Mute（消音）ボタン　：音が消えます。
もう一度押すと、元の音量に戻ります。

11　スクリーンセーバーボタン　：スクリーンセーバーが起動します。

12　スタンバイボタン　：本パソコンがスタンバイ状態（☛P.20）になります。
もう一度押すと元の状態に戻ります。

アドバイス

ワンタッチボタンをお使いになるときの注意

1～7、11のボタンは、FM便利ツールが起動しているときのみお使いになれます。

アドバイス

CD操作ボタンをお使いになるときの注意

「Jet-Audio Player」などのアプリケーションで音楽CDを再生するときは、CD操作ボタンは使えません。

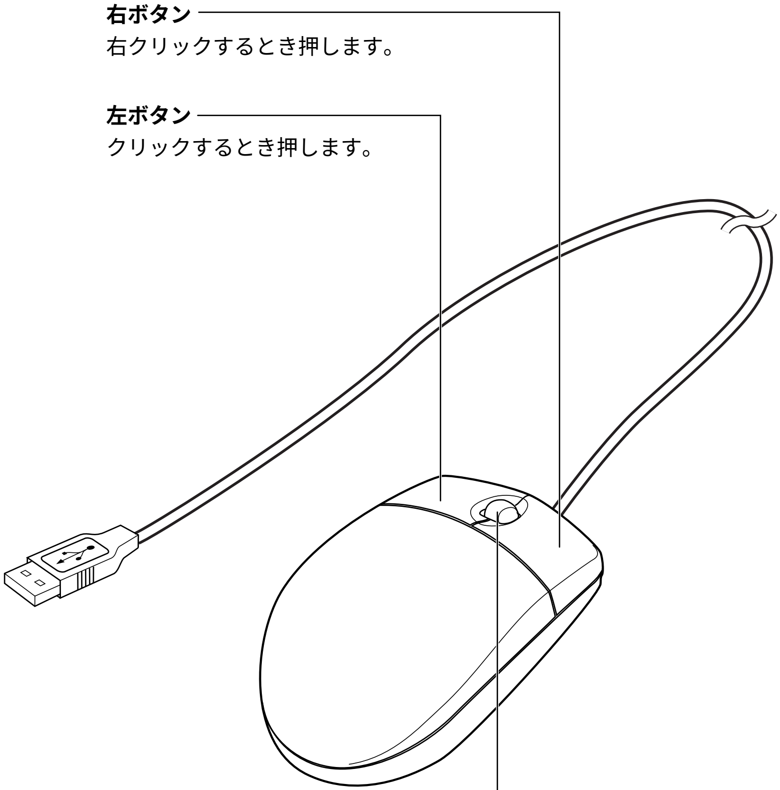
アドバイス

「Application」と書かれている部分は

ボタンではないので押せません。

マウス

マウスは、画面の中の絵や文字を指して、パソコンに情報を伝えるための道具です。キーボードのマウスポート（☛P.10）に接続します。
マウスの使いかたやスクロールについて詳しくは、『かるがるパソコン入門』をご覧ください。
また、スクロールボタンについて詳しくは、「スクロールボタンを使う」（☛P.51）をご覧ください。



アドバイス

マウスの設定を変えるには

「コントロールパネル」ウィンドウの（マウス）で変更できます。
マウスポインタの速度を変えたり、左右ボタンの役割を入れ替えることができます。
詳しくは、画面マニュアル『パソコン情報ランド』の「解決！Q＆A」をご覧ください。

マウスのすべりが悪くなったら

マウスの裏にあるボールが汚れていると、すべりが悪くなります。マウスのボールはクリーニングできます。詳しくは、「マウスのお手入れ」（☛P.56）をご覧ください。

第 2 章
基本的な機能を使おう

本パソコンの基本的な取り扱い方法や、お手入れのしかたについて説明しています。

1 電源を入れる／電源を切る

ここでは、電源の入れかたと切りかたについて説明します。

注意

けが

・フロッピーディスクをセットまたは取り出すときには、フロッピーディスクドライブの差し込み口に指などを入れないでください。
けがの原因となることがあります。

・CD-ROMやDVD-ROMなどをセットまたは取り出すときは、DVD-ROMドライブのトレーやCD-ROMドライブのスロットに指などを入れないでください。
けがの原因となることがあります。

電源を入れてパソコンを使おう

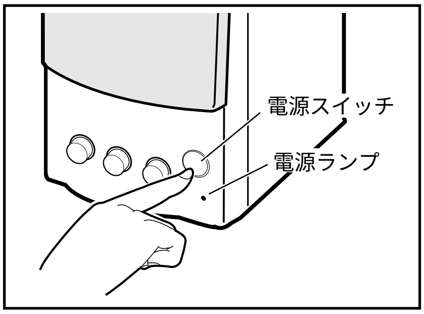
重要

電源を切ったあとに再び電源を入れるときは、10 秒ほどお待ちください

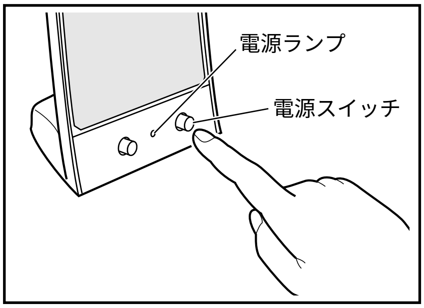
1 本パソコンに接続されている機器の電源を入れます。

2 C2/55L, C2/50L, C2/507, C2/465 でスピーカーをお使いになるときは、右スピーカーの電源スイッチを押して、スピーカーの電源を入れます。

<C2/55L, C2/50L, C2/507をお使いの方>



< C2/465 をお使いの方>



アドバイス

先にパソコン本体の電源を入れてしまったら

接続されている機器を、Windows98 が正常に認識できないことがあります。Windows98が完全に起動するのを待ち、次の手順に従って操作してください。

1 本パソコンに接続されている機器の電源を入れます。

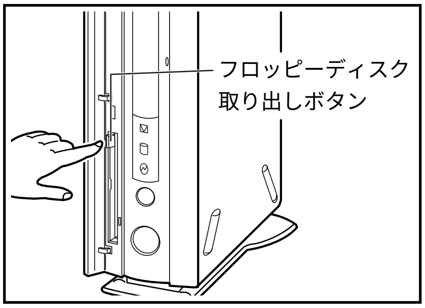
2 「スタート」ボタンをクリックし、「Windows の終了」をクリックします。

3 「再起動する」をクリックし、「OK」をクリックします。
本パソコンが再起動し、接続されている機器が認識されます。

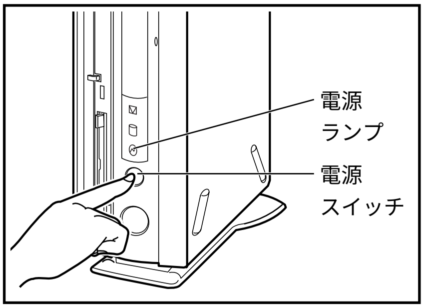
電源スイッチのついているディスプレイをご使用の場合は

『取扱説明書』の記載どおりに本体に接続しているときは、一度ディスプレイの電源を入れると、そのあとはパソコン本体と連動するようになります。

3 **フロッピーディスクがセットされていないことを確認します。**
セットされているときは、フロッピーディスクを取り出してください。
☛「フロッピーディスクをセットする／取り出す」（P.24）



4 **パソコン本体の電源スイッチを押します。**
ディスプレイとパソコン本体両方の電源ランプが点灯します。
しばらくすると、Windows98の画面が表示されます。



電源スイッチを押してもWindows98が起動しないときは

Windows98が起動せず、画面にメッセージが表示されたままになっているときは、「BIOSが表示するメッセージ一覧」（☛P.121）をご覧ください。

今日はおしまい。電源を切るには？

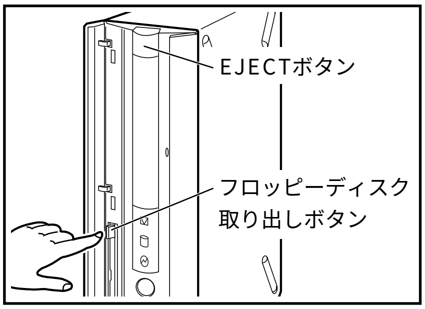
重要

必ずアプリケーションを終了してください

本パソコンが正常に終了できなかったり、次に起動するときに正常に起動できなくなることがあります。

1 **本パソコンで行っていた作業を終了します。**
必要に応じて作業中のデータを保存し、アプリケーションを終了してください。

2 **フロッピーディスクやCD-ROM、DVD-ROMがセットされていないことを確認します。**
セットされているときは、取り出してください。
☛「フロッピーディスクをセットする／取り出す」（P.24）
☛「CD-ROM／DVD-ROMを使う」（P.27）



アドバイス

その他の電源の切りかた

次の方法でも電源を切ることができます。

1. **「今日はおしまい。電源を切るには？」の手順2までの操作を行います。**
2. **「スタート」ボタンをクリックし、「Windowsの終了」をクリックします。**
3. **「電源を切れる状態にする」をクリックし、「OK」をクリックします。**
   しばらくするとWindows98が終了し、ディスプレイとパソコン本体両方の電源ランプが消えます。
4. **本パソコンに接続されている機器の電源を切ります。**

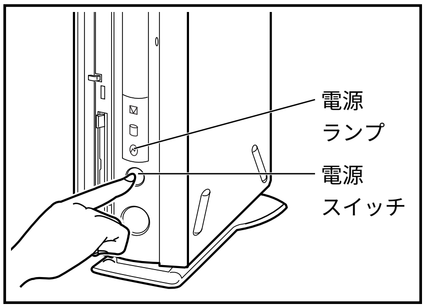
アドバイス

「フロッピーディスクが入っています。Windowsの終了を中止します。」というメッセージが表示されたら

「閉じる」をクリックし、手順2から操作し直してください。

3　パソコン本体の電源スイッチを押します。

しばらくするとWindows98が終了し、ディスプレイとパソコン本体両方の電源ランプが消えます。



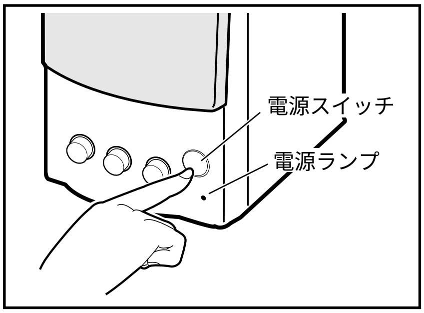
重要

電源スイッチは押し続けないでください

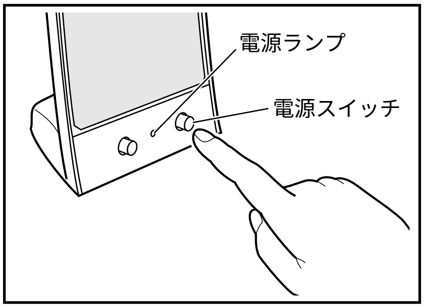
電源スイッチを押し続けると、強制的に電源が切れ、故障などの原因となります。

4　C2/55L, C2/50L, C2/507, C2/465でスピーカーをお使いのときは、右スピーカーの電源スイッチを押して、スピーカーの電源を切ります。

<C2/55L, C2/50L, C2/507をお使いの方>



<C2/465をお使いの方>



5　本パソコンに接続されている機器の電源を切ります。

アドバイス

電源スイッチのついているディスプレイをご使用の場合は

『取扱説明書』の記載どおりに本体と接続しているときは、パソコン本体に連動して、ディスプレイの電源も切れます。ディスプレイの電源を切る必要はありません。

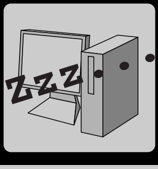
電源が切れないときは

使用中のアプリケーションが何らかの理由で動かなくなり、強制終了もできなくなったときは、パソコン本体の電源スイッチを 4 秒以上押し続けて、本パソコンの電源を切ってください。このあと、パソコン本体の電源ランプが消えている（電源が切れている）ことを確認してください。
オレンジ色に点灯しているときはスタンバイ状態になっていて、電源が切れていません。もう一度電源スイッチを 4 秒以上押し続けて電源を切ってください。
通常は「今日はおしまい。電源を切るには？」（☛P.17）の手順に従って本パソコンの電源を切ってください。

アドバイス

強制終了について

『トラブル解決Q&A』の「操作中に動かなくなった」をご覧ください。



2 スタンバイ（省電力）機能を使う

ここでは、本パソコンの省電力機能について説明します。

スタンバイ（省電力）機能とは？

本パソコンの電力消費を抑えるための機能です。この機能が働くと、パソコン本体が省電力の状態になり、画面の表示が消えて真っ暗になります。
長時間作業をしないときなどは、この機能を使って節電を心がけましょう。
スタンバイ状態になると、パソコン本体とディスプレイの電源ランプの点灯が、緑色からオレンジ色に変わります。
スタンバイ機能には、標準（ACPI S1）と高度（ACPI S3）のモードがあります。ご購入時には標準（ACPI S1）に設定されています。
☛「ACPIのスタンバイモード設定の変更について」（P.150）

スタンバイ（省電力）機能を働かせるには

本パソコンをスタンバイ状態にするには、次の方法があります。

- キーボードのスタンバイボタン（☛P.12）を押す
- 一定時間操作しなかったときに、自動的にスタンバイ機能が働くように設定する
  ☛「電源の管理」（P.21）
- 「Windows の終了」ウィンドウで、「スタンバイ」に設定する
  ☛ アドバイス「その他の電源の切りかた」（P.17）の手順 3 で「スタンバイ」をクリックします。

重 要

次のときは、スタンバイ状態にしないでください

スタンバイ機能が正しく働かなかったり､本パソコンが正常に動作しないことがあります。

- Windows98 の起動中
  （パソコン本体の電源を入れてから画面が完全に表示されるまで）
- ハードディスクアクセス表示ランプや BUSY ランプの点灯中
- 動画の再生中や音楽の録音／再生中
- ゲーム、音声認識ソフトの使用中
- 通信中
- ネットワーク接続中（LAN カード増設時）
  （TCP/IP またはIPX/SPX 互換プロトコル設定で省電力に対応したアプリケーションを使用している場合は、スタンバイ状態にできます。ただし、通信中や他のパソコンのファイルを使用しているときを除きます）
- マウスの操作中
- ACPI に対応していないオプション機器を増設した場合

連続してスタンバイボタンを押さないでください

スタンバイ機能が正しく働かなかったり､本パソコンが正常に動作しないことがあります。

アドバイス

メッセージが表示されたときは

スタンバイ状態にしようとして、「デバイスドライバかプログラムが原因で待機モードに入れません。すべてのプログラムを終了してからもう一度やり直してください」というメッセージが表示されたときは、プログラムが動作中でスタンバイモードに入れません。動作中のアプリケーションなどを終了してからスタンバイ状態にしてください。

スタンバイ状態から元の状態に戻すには

本パソコンをスタンバイ状態から元の状態に戻すには、次の方法があります。

・もう一度キーボードのスタンバイボタンを押す
・キーボードの[↑][↓][←][→]や[Shift]を押す
・マウスを動かす

しばらく（5～10秒）すると、パソコン本体とディスプレイの電源ランプが緑色に点灯し、再び画面が表示されます。
スタンバイ機能を高度（ACPI S3）に設定している場合は、「ACPIのスタンバイモード設定の変更について」（☛P.150）をご覧になり、元の状態に戻してください。

アドバイス

元の状態に戻したときは

画面が表示されても、ハードディスクアクセス表示ランプが完全に消えるまでは操作を行わないでください。

電源の管理

Windows98では、一定時間操作しなかったときにスタンバイ機能が働くように設定したり、その他の簡単な省電力機能が設定できます。
変更は次の手順で行います。

1 「スタート」ボタンをクリックし、「設定」にマウスポインタを合わせ、「コントロールパネル」をクリックします。

「コントロールパネル」ウィンドウが表示されます。

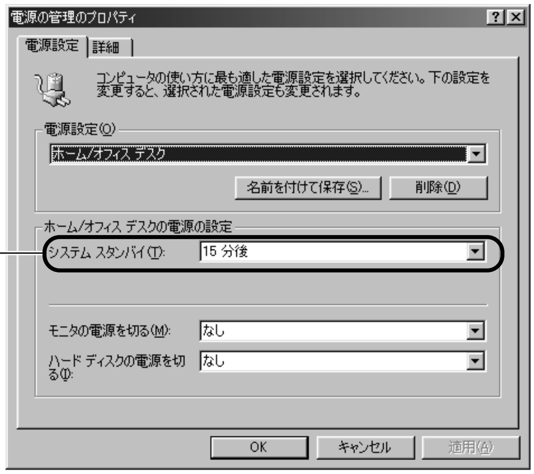
2  **（電源の管理）をクリックします。**

「電源の管理のプロパティ」ウィンドウが表示されます。

3 設定を変更します。

本パソコンのご購入時には、次のように設定されています。

<電源設定タブ>



自動的にスタンバイ機能が働くまでの時間を設定します。

<詳細タブ>



パソコン本体の電源スイッチを押すと、シャットダウン状態になります。

キーボードのスタンバイボタンを押すと、スタンバイ状態になります。

アドバイス

スタンバイに設定すると

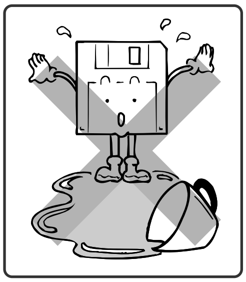
設定したボタンを押すと、スタンバイ状態になります。

3 フロッピーディスクを使う

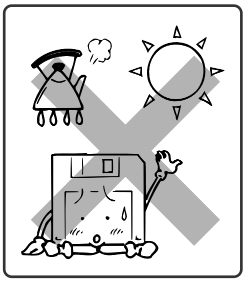
フロッピーディスクドライブは、フロッピーディスクにデータを保存したり、フロッピーディスクからデータを読み出したりするための装置です。
ここでは、本パソコンのフロッピーディスクドライブでお使いになれるフロッピーディスク、フロッピーディスクのセットのしかたや取り出しかたなどについて説明します。

気をつけてください～フロッピーディスクを使うとき

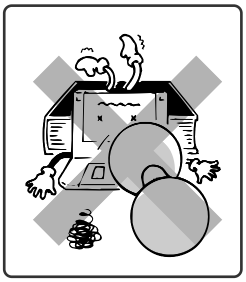
フロッピーディスクをお使いの場合に、誤った使いかたをすると、データの読み書きができなくなることがあります。フロッピーディスクをお使いになるときは、次の点にご注意ください。



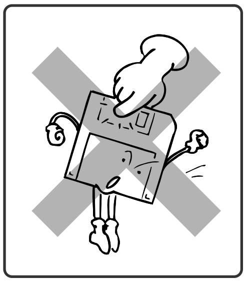
コーヒーなどの液体をかけないでください。



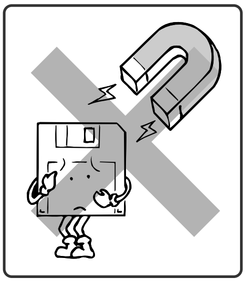
湿度の高い場所や直射日光の当たる場所には置かないでください。



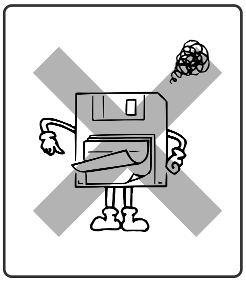
曲げたり、重い物をのせたりしないでください。



シャッタを開いて、中のディスク面に絶対に触れないでください。



磁石など磁気を帯びたものを近づけないでください。



ラベルを重ねて貼らないでください。
ドライブから取り出せなくなる原因となります。

使えるフロッピーディスクは？

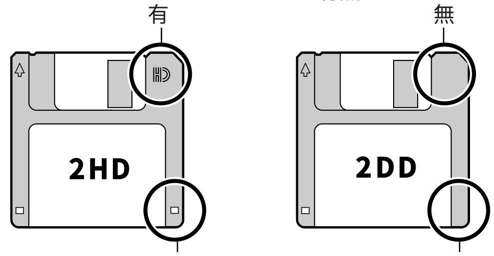
本パソコンのフロッピーディスクドライブは、3モードドライブです。次のような種類、記憶容量のフロッピーディスクが使えます。

・**2HD**
1.44MB、1.2MBの記憶容量のものです。

・**2DD**
2HD（1.44MB）の半分の、720KBの記憶容量のものです。

上記の2種類のフロッピーディスクの外見は、下図のような違いがあります。

HDのマークの有無



穴の有無

なお、本パソコンでは1.2MBにフォーマットすることはできません。フロッピーディスクのフォーマット方法については、画面マニュアル『パソコン情報ランド』の「解決！Q&A」をご覧ください。

フロッピーディスクをセットする／取り出す

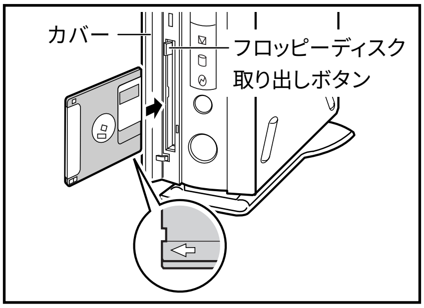
注意

けが **フロッピーディスクをセットまたは取り出すときは、フロッピーディスクドライブの差し込み口に指などを入れないでください。けがの原因となることがあります。**

セットする

1 カバーを開け、矢印のある面を左にして、フロッピーディスクドライブに差し込みます。

「カシャッ」と音がして、フロッピーディスク取り出しボタンが飛び出すまで差し込んでください。



用語

MB（メガバイト）

バイトとは、パソコンで扱うデータの大きさを表す単位のことです。M（メガ）は100万を表します。1MBとは、約100万バイトのデータということです。
パソコンで使われる単位には、他にKB（キロバイト）、GB（ギガバイト）があります。1KBは約1000バイト、1GBは約10億バイトのデータを表します。

アドバイス

データを読み出せないこともあります

フロッピーディスクをフォーマットした環境（メーカー、機種、ソフトウェア）が違うと、データを読み出せないなど、正しくお使いになれないことがあります。

フロッピーディスクをご購入のときは

「DOS/V用フォーマット済み」と書かれたものをご購入ください。

取り出す

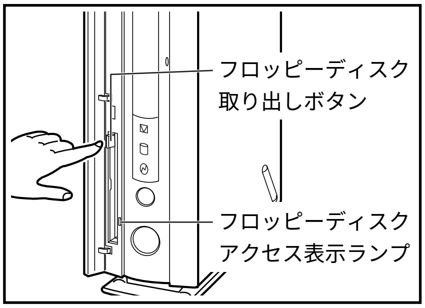
重要

データが壊れるおそれがあります

フロッピーディスクアクセス表示ランプの点灯中に、フロッピーディスクを取り出さないでください。

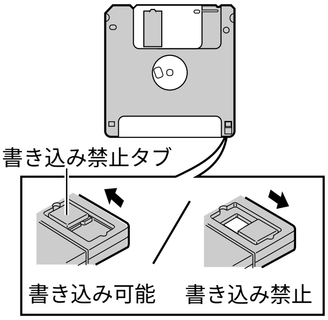
1 **フロッピーディスクアクセス表示ランプが消えていることを確認し、フロッピーディスク取り出しボタンを押します。**

フロッピーディスクが出てきます。



フロッピーディスクのデータを守るには

フロッピーディスクに保存してある情報を誤って消さないようにするには、フロッピーディスクの書き込み禁止タブをスライドさせ、穴があいた状態（書き込み禁止の状態）にします。
再び情報を書き込みたいときは、書き込み禁止タブをスライドさせ、穴が閉じた状態にします。
また、「気をつけてください〜フロッピーディスクを使うとき」（☛P.23）の注意事項を守ってお使いください。

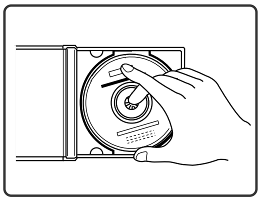


4 CD-ROM ／ DVD-ROM を使う

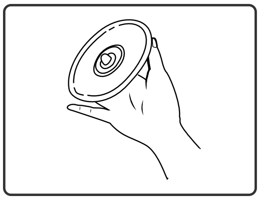
ここでは、DVD-ROMドライブ（C2/55L, C2/50L, C2/507をお使いの方）やCD-ROMドライブ（C2/46L, C2/465をお使いの方）でお使いになれるディスクの種類と注意事項、DVD-ROMドライブやCD-ROMドライブの使い方を説明します。
DVD-ROMドライブでは、CD-ROM／DVD-ROMの映像や音声、音楽CDなどを再生できます。また、パソコンのプログラムやデータの読み込みができます。
CD-ROMドライブでは、CD-ROMの映像や音声、音楽CDなどを再生できます。また、パソコンのプログラムやデータの読み込みができます。

気をつけてください〜 CD や DVD を使うとき

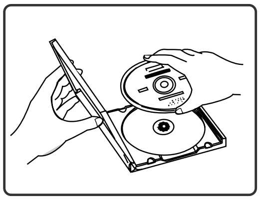
CD-ROMや音楽CD（以下、まとめてCDと呼びます）、DVD-ROMやDVD-VIDEO（以下、まとめてDVDと呼びます）をお使いになるときは、次の点にご注意ください。



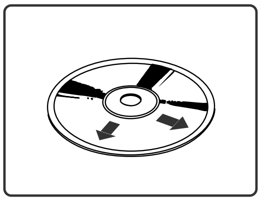
ケースからCDやDVDを取り出すときは、ケースの中央を押しながら取り出してください。



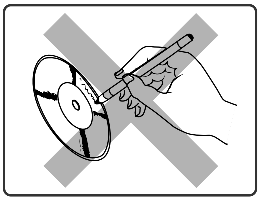
データ面（裏面）に触れないように、CDやDVDのふちを持つようにしてください。



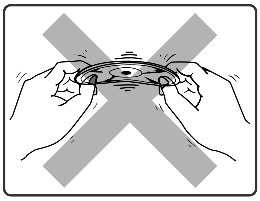
使わないときは、ケースに入れて保管してください。



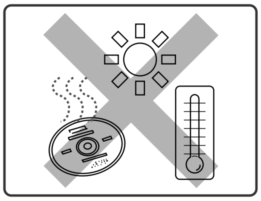
汚れたり水滴がついたりしたときは、乾いた柔らかい布で、中央から外側へ向かって拭いてから、自然乾燥させてください。
ヘアードライヤーなどで無理に乾燥させないでください。



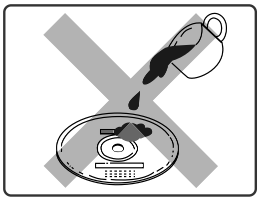
ラベルを貼ったり、ボールペンや鉛筆などで字を書いたりしないでください。また、傷をつけたりしないでください。



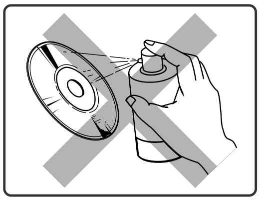
曲げたり、重い物をのせたりしないでください。



高温・低温の場所に保管しないでください。



コーヒーなどの液体をかけないでください。



ベンジン、シンナー、水、レコードスプレー、静電気防止剤、シリコンクロスなどで拭かないでください。

アドバイス

CD-ROMクリーニングディスクは使わないでください

CD-ROMクリーニングディスクをお使いになると、逆にゴミを集めてしまい、DVD-ROMドライブやCD-ROMドライブのレンズが汚れてしまう場合があります。

使えるディスクは？

本パソコンでは、次のマークがついたCD-ROMや音楽CD（12cm、8cm）がお使いになれます。

COMPACT disc / COMPACT disc DIGITAL AUDIO / COMPACT disc+ DIGITAL AUDIO / COMPACT disc DIGITAL VIDEO

また、C2/55L, C2/50L, C2/507では、DVD-ROMやDVD-VIDEOもお使いになれます。

> **アドバイス**
> **C2/55L, C2/50L, C2/507では、本体を縦置きにすると、8cmの音楽CDはお使いになれません**
> 8cmの音楽CDをご使用になる場合は、本体を横置きにしてご使用ください。

CDやDVDをセットする／取り出す～C2/55L, C2/50L, C2/507をお使いの方～

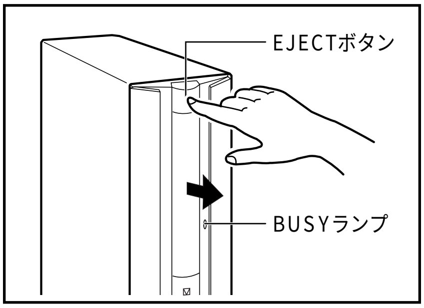
CDやDVDは、パソコンの電源が入っている状態のときにセットや取り出しができます。

> **注意**
> けが　**CDやDVDをセットまたは取り出すときは、DVD-ROMドライブのトレーに指などを入れないでください。けがの原因となることがあります。**

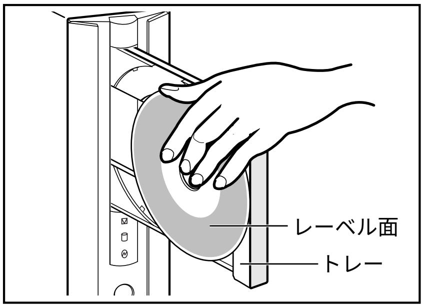
セットする

1　EJECTボタンを押します。

CDやDVDをセットするトレーが出てきます。
トレーは自動で出てきます。無理に引き出したりしないでください。

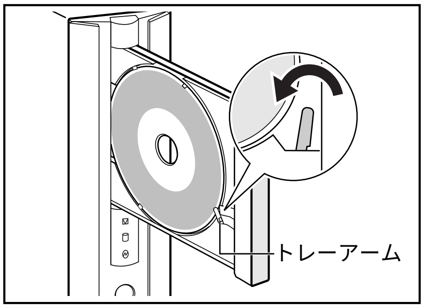


2　CDやDVDのレーベル面（印刷面）を左にして、トレーの中央にセットします。



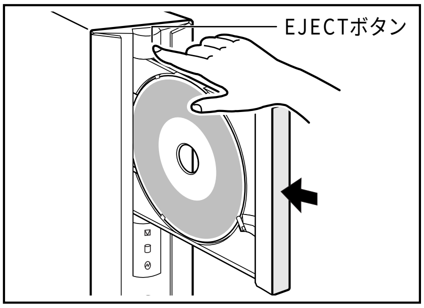
> **アドバイス**
> **ディスクは正しい位置にセットしてください**
> 位置がずれると、ディスクが落ちる可能性があります。
> **ディスクを入れたままトレイを開閉すると**
> CDの位置がずれることがありますので注意してください。

3 **トレーアームでディスクをロックします。**



4 **EJECT ボタンを押します。**

トレーが戻ります。CD や DVD がセットされ、BUSY ランプが点灯します。BUSYランプが消えたことを確認してから、次の操作に進んでください。



アドバイス

自動で起動するディスクもあります

DVD-ROM や CD-ROM によっては、セットすると自動的に起動するものもあります。
また、音楽 CD はセットすると自動的に再生が始まります。

取り出す

1 **CD や DVD を使っているアプリケーションがあれば、終了します。**

2 **BUSY ランプが消えていることを確認し、EJECT ボタンを押します。**

CD や DVD がセットされたトレーが出てきます。

3 **トレーアームのロックを外し、CD や DVD を取り出します。**

4 **EJECT ボタンを押します。**

トレーが戻ります。

CDをセットする／取り出す～C2/46L, C2/465をお使いの方～

CD は、パソコンの電源が入っている状態のときにセットや取り出しができます。

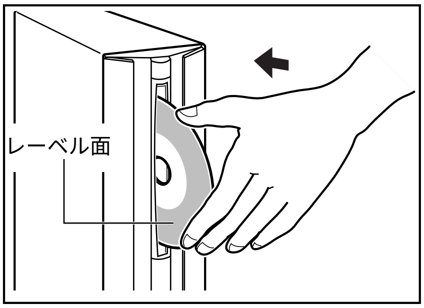
注意

けが　**CDをセットまたは取り出すときは、CD-ROMドライブのスロットに指などを入れないでください。**
けがの原因となることがあります。

セットする

1　CDのレーベル面（印刷面）を左にして、スロットに差し込みます。

CD が自動的に吸い込まれます。
CD がセットされ、BUSY ランプが点滅します。BUSY ランプが消えたことを確認してから、次の操作に進んでください。



アドバイス
自動で起動するディスクもあります
CD-ROMによっては､セットすると自動的に起動するものもあります。
また、音楽 CD はセットすると自動的に再生が始まります。

取り出す

1　CD を使っているアプリケーションがあれば、終了します。

2　BUSY ランプが消えていることを確認し、EJECT ボタンを押します。

CD が少し出てきます。

3　CD を取り出します。

2
基本的な機能を使おう（CD-ROM／DVD-ROMを使う）

5 DVD プレーヤーを使う

C2/55L, C2/50L, C2/507 では、DVD プレーヤーをお使いになると、本パソコンで映画などを楽しむことができます。ここでは、DVD プレーヤーを起動し、DVD-VIDEO を再生する方法を説明しています。

気をつけてください〜 DVD プレーヤーを使うとき

DVD プレーヤーをお使いになるときは、次の点に注意してください。

- 画面の解像度、発色数、リフレッシュレートは、次の表の数値以下になるように設定してください。画面の解像度や発色数の変更のしかたについて詳しくは「画面の解像度や発色数を変える」（☛P.53）をご覧ください。
  また、DVD プレーヤーの起動中は画面の解像度、発色数、リフレッシュレートの変更はしないでください。

	256 色	16bit 色	24bit 色
640 × 480	85	85	85
800 × 600	85	85	85
1024 × 768	85	75	75
1280 × 1024	—	—	—

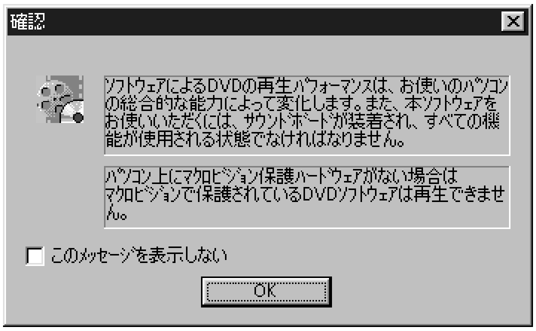
- メディアプレーヤーなど、他のアプリケーションと同時に使用しないでください。
- マルチモニタ機能を使用している状態では、DVD プレーヤーはお使いになれません。

DVD プレーヤーを起動する

DVD プレーヤーをお使いになるときは、次の手順に従ってください。

1 「スタート」ボタンをクリックし、「プログラム」、「Inter Video WinDVD」の順にマウスカーソルを合わせ、「Inter Video WinDVD」をクリックします。

「確認」ウィンドウが表示されます。



アドバイス

このウィンドウを表示させないようにするには

「このメッセージを表示しない」の□をクリックして☑にしてから「OK」をクリックします。次に起動したときからこのウィンドウは表示されなくなります。

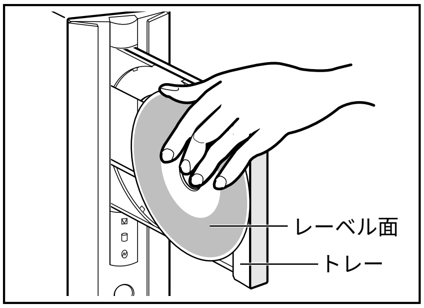
2　「OK」をクリックします。

DVD プレーヤーが起動します。



DVD-ROM を再生する

1　DVD-ROM ドライブに DVD-ROM をセットします。



2　[▶]（再生ボタン）を押します。

再生が始まります。

DVD-ROM を終了するときは

DVD-ROM を終了するときは、画面左上の [—]（終了ボタン）を押し、DVD-ROM を取り出します。

アドバイス

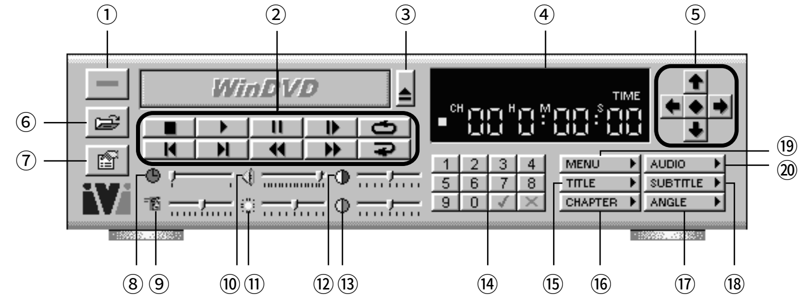
順番は逆になっても問題ありません

DVD プレーヤーの起動と、DVD-ROM をセットする順番が逆になっても、特に問題はありません。

自動で再生するディスクもあります

DVD プレーヤーが起動していない状態で、DVD-VIDEO ディスクをセットした場合、使用するディスクによっては自動で DVD プレーヤーが起動し、再生を開始するものもあります。

操作パネルの各部の名称と働き



① 終了ボタン ：DVD プレーヤーを終了します。

② 停止ボタン ：再生を停止します。

再生ボタン ：再生を開始します。

一時停止ボタン ：再生を一時的に停止します。通常の再生に戻すには再生ボタンを押します。

後ろスキップボタン ：1つ前のチャプターまたはファイルの先頭にスキップします。

前スキップボタン ：1つ先のチャプターまたはファイルの先頭にスキップします。

早戻しボタン ：巻戻しをします。

早送りボタン ：早送りをします。

こま送りボタン ：コマ送りをします。

リピートボタン ：繰り返し再生します。

レジュームボタン ：メニューボタンで音声等を設定してからこのキーを押すと、再生を中断した部分から再開します。

③ イジェクトボタン ：DVD-ROM を取り出します。

④ カウンタ ：再生された時間とチャプターが表示されます。

⑤ カーソルキーと決定ボタン ：メニューのハイライトをカーソルキーで動かし、中央の（決定ボタン）でメニューを選択します。

⑥ ファイル選択ボタン ：VIDEO CD などのファイルを指定して再生するときに使用します。

⑦ 設定ボタン ：各種設定をします。

⑧ タイムスライダ ：再生時間が進むと左から右にが移動します。

⑨ 速度調整スライダ ：再生する速度を変更します。を左にドラッグするとスロー再生に、右にドラッグすると、早送りになります。このスライダを使用中は音声は出力されません。

⑩ ボリューム ：出力される音声の大きさを設定します。を左にドラッグすると音が小さく、右にドラッグすると音が大きくなります。

⑪ 輝度調整 ：画面の明るさを調整します。を左にドラッグすると暗く、右にドラッグすると明るく表示されます。

⑫ 色調整 ：画面の色を調整します。を左にドラッグすると黄色が強調され、右にドラッグすると青色が強調されます。

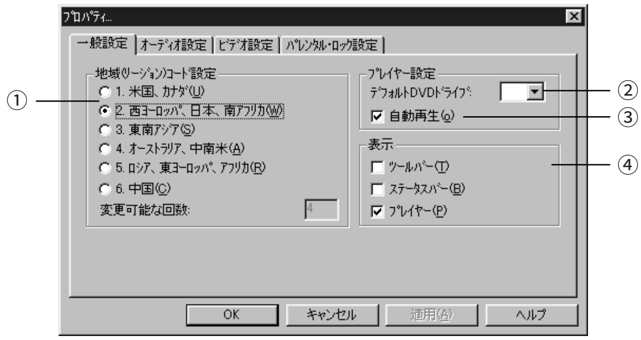
⑬ 色調整 ：画面の色を調整します。を左にドラッグすると緑色が強調され、右にドラッグすると赤色が強調されます。

⑭ テンキー　：数字を入力して［✓］をクリックすると決定します。
⑮ タイトルボタン　：指定したタイトル（ファイル）の先頭から再生します。
⑯ チャプターボタン　：指定したチャプターにスキップします。
⑰ アングル切り替えボタン　：再生するアングルを選択します。
⑱ 字幕切り替えボタン　：表示する字幕を選択します。
⑲ メニューボタン　：タイトルメニュー、ルートメニューに戻ります。
⑳ オーディオ切り替えボタン　：再生する音声を選択します。

詳細を設定する

（設定ボタン）を押すと、DVD プレーヤーの詳細を設定することができます。設定したいタブをクリックして変更してください。

一般設定タブ



① 地域（リージョン）コード設定　：再生する地域コードを設定します。出荷時には2（西ヨーロッパ、日本、南アフリカ）に設定されています。この設定を変更すると、お手持ちのDVDソフトが再生できなくなる場合があります。通常は変更しないでください。

重要

地域（リージョン）コードの設定は 4 回までです

4 回変更すると、以降は地域コードの変更はできません。

② デフォルト DVD ドライブ　：CD-ROM ドライブや DVD-ROM ドライブを増設した場合に、通常使用する DVD-ROM ドライブを設定します。
③ 自動再生　：☐ をクリックして☑ にすると、ディスクをセットした際自動で再生が開始されます。
④ 表示　：ツールバー、ステータスバー、プレーヤーをそれぞれ表示するかを決めます。☐ をクリックして☑ にすると、表示されます。

オーディオ設定タブ



グレー表示の項目はお使いのハードウェア環境では選択できません。

① 2 スピーカーモード：ご購入時の設定です。

- モノラル：オーディオはミックスして 1 チャンネル（モノラル）で出力されます。
- ステレオ：ディスクのすべてのオーディオは2チャンネルにミックスダウンされて出力されます。
- ドルビーサラウンド：2 チャンネルの出力と、ドルビープロロジック（Dolby Pro Logic Surround）によるサラウンド効果が出力されます。
- 3D オーディオ：標準の 3D オーディオによる出力を行います。

② 4 スピーカーモード：4スピーカーでの出力に対応したサウンドボードが装着されている場合に選択できます。4 つのスピーカーにそれぞれの音声を出力し、サラウンド環境を提供します。

③ 6 スピーカーモード（5.1 チャンネル）：6スピーカーでの出力に対応したサウンドボードが装着されている場合に選択できます。6 つのスピーカーを自動的に5.1チャンネル出力用のスピーカーに割り当て、DVD 本来のサウンドを再現できます。

④ S/PDIF 出力を有効にする：S/PDIF出力をサポートしたサウンドボードをお使いの場合に選択できます。S/PDIF 出力を介して、外部の機器へデータを出力することができます。

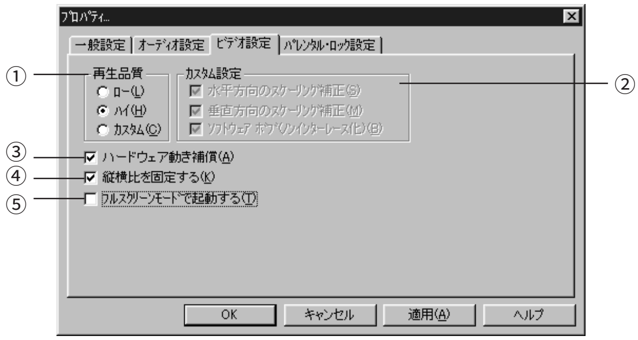
⑤ オーディオトラック情報：現在のオーディオトラック情報の方式と形式を表示します。

- 方式：現在のオーディオトラックの録音方式を表示します。
- 形式：現在のオーディオトラックのサンプリングレートなどの情報を表示します。

⑥ ボーカルオプション：カラオケやボーカルタイプのディスクの音声の出力方法を設定します。

- ボーカルなし：ボーカルとして記録されている音声は出力されません。
- 左のボーカルのみ：左チャンネルにボーカルとして記録されている音声だけを出力します。
- 右のボーカルのみ：右チャンネルにボーカルとして記録されている音声だけを出力します。
- 両方：ボーカルとして記録されている音声を両チャンネルに出力します。

ビデオ設定タブ



表示に関する設定を行います。

① 再生品質：再生時の画質を設定します。

- ・ロー：画質は低くなりますが、CPU にかかる負担が低くなります。
- ・ハイ：画質は高くなりますが、CPU にかかる負担が高くなります（推奨）。
- ・カスタム：カスタム設定の項目が選択できるようになります。

② カスタム設定

- ・水平方向のスケーリング補正：この項目をチェックすると、ソフトウェアでの水平方向のスケーリングによる画像補正を行います。
- ・垂直方向のスケーリング補正：この項目をチェックすると、ソフトウェアでの垂直方向のスケーリングによる画像補正を行います。
- ・ソフトウェアボブ（インターレース化）：本来インターレースで表示されている映像をノンインターレースの環境で表示する場合に発生するクシ状の映像（ジッタ）の発生を押さえ、滑らかでシャープな映像を再生します。

③ ハードウェア動き補償：グラフィックチップの機能を使用して再生を行います。この場合、一部の処理をグラフィックチップで行うため、CPU の使用率が下がります。通常はチェックした状態でお使いください。

④ 縦横比を固定する：再生のウィンドウの大きさを変更した際、ウィンドウの縦と横の比率を固定したままにします。

⑤ フルスクリーンモードで起動する：DVD プレーヤーを起動した際、再生ウィンドウをフルスクリーンで起動します。

パレンタル・ロック設定



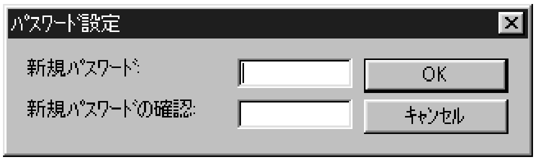
お子様に対する視聴制限をすることができます。パスワードを設定すれば、お子様がこの設定を変更することはできません。
詳細については、DVD プレーヤーのヘルプをご覧ください。

① 無効	：視聴制限をしません。
・G:	：G 指定のプログラムを制限します。
・PG:	：PG 指定のプログラムを制限します。
・PG-13:	：PG-13 指定のプログラムを制限します。
・R:	：R 指定のプログラムを制限します。
・NC-17	：NC-17 指定のプログラムを制限します。
② パスワード	：次の③でパスワードを設定した場合は右の欄にパスワードを入力します。
③ パスワードの設定	：お子様が①の設定を変更できないようにパスワードを設定できます。

パレンタル・ロック設定のパスワードの設定

1 「パスワードの設定」ボタンをクリックします。

次の画面が表示されます。



2 「新規パスワード」の欄にパスワードを入力します。

パスワードは半角英数字 10 文字以内で入力してください。

3 「新規パスワードの確認」の欄に手順 2 で入力したのと同じパスワードを入力し、「OK」をクリックします。

次の画面が表示されます。



4 「OK」をクリックします。

パスワードが設定されました。パスワードを入力しなければパレンタル・ロック設定は変更できません。

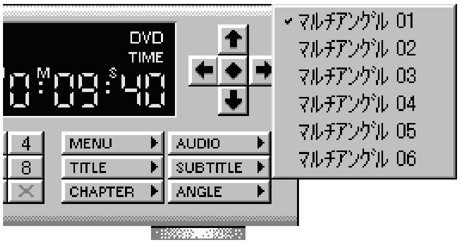
その他の機能

アングルを切り替える

お使いになる DVD-ROM によっては、再生するアングルを変えることができます。

1　アングル切り替えボタンをクリックします。

現在再生されているアングルと、選択可能なアングルが表示されます。
チェックマークがついているところが、現在再生されているアングルです。



2　選択したいアングルをクリックします。

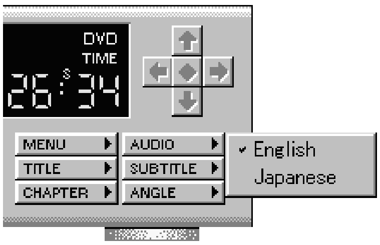
再生するアングルが切り替わります。アングルを選択してから切り替わるまでに多少時間がかかります。

音声を切り替える

お使いになる DVD-ROM によっては、複数の音声を切り替えることができます。

1　オーディオ切り替えボタンをクリックします。

現在再生されている音声と、選択可能な音声が表示されます。
チェックマークがついているところが、現在再生されている音声です。



2　選択したい音声をクリックします。

再生する音声が切り替わります。音声を選択してから切り替わるまでに少し時間がかかります。音声と映像が一瞬停止します。

字幕を切り替える

お使いになる DVD-ROM によっては、複数の字幕を切り替えることができます。

1 字幕切り替えボタンをクリックします。

現在再生されている字幕と、選択可能な字幕が表示されます。
チェックマークがついているところが、現在再生されている字幕です。



2 選択したい字幕をクリックします。

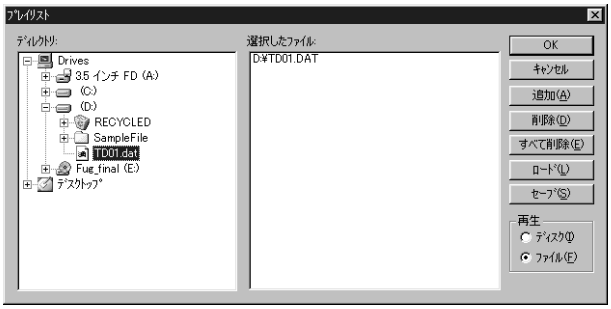
再生する字幕が切り替わります。字幕を選択してから切り替わるまでに少し時間がかかります。

VIDEO CD などを再生する

VIDEO CD などのデータを再生することもできます。

1 ファイル選択ボタンをクリックします。

「再生するファイルを開く」ウィンドウが表示されます。



2 再生するファイルをクリックして選び、「追加」をクリックします。

選んだファイルが「選択されたファイル」に表示されます。

3 「OK」をクリックします。

4 操作パネルの再生ボタンをクリックして、再生を開始します。

手順 3 のあと、自動的に再生が開始される場合もあります。

DVD プレーヤーの再インストール方法について

ここでは DVD プレーヤーをインストールし直す方法について説明します。

1 **それまで本パソコンで行っていた作業を終了します。**
必要に応じて作業中のデータを保存し、アプリケーションを終了してください。

2 **「アプリケーション CD 2」を DVD-ROM ドライブにセットします。**

3 **「スタート」ボタンをクリックし、「ファイル名を指定して実行」をクリックします。**

4 **「名前」に次のように入力し、「OK」をクリックします。**
e:\update\display\windvd\setup.exe
└ e には、お客様がお使いの DVD-ROM ドライブ名を入力してください。
セットアップが起動し、「ようこそ」ウィンドウが表示されます。

5 **「次へ」をクリックします。**
「製品ライセンス契約」ウィンドウが表示されます。

6 **「はい」をクリックします。**
「ユーザーの情報」ウィンドウが表示されます。

7 **「名前」、「会社名」、「シリアル番号」を入力し、「次へ」をクリックします。**
「インストール先の選択」ウィンドウが表示されます。

重要

シリアル番号は本体の底面（WinDVD と書いてあるラベル）にあります

シリアル番号はDVDプレーヤーを再インストールするときや、バージョンアップを行うときに必要なものです。汚したり破損したりしないようにご注意ください。

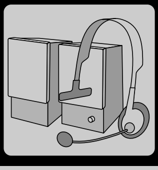
8 **「次へ」をクリックします。**
「セットアップ方法」ウィンドウが表示されます。

9 **「標準」を選択し、「次へ」をクリックします。**
「プログラムフォルダの選択」ウィンドウが表示されます。

10 **「次へ」をクリックします。**
インストールが始まります。
インストールが終了すると、「セットアップの完了」ウィンドウが表示されます。

11 **「完了」をクリックします。**
メッセージが表示されます。

12 **「はい、直ちにコンピューターを再起動します。」を選択し、「完了」をクリックします。**
本パソコンが再起動します。

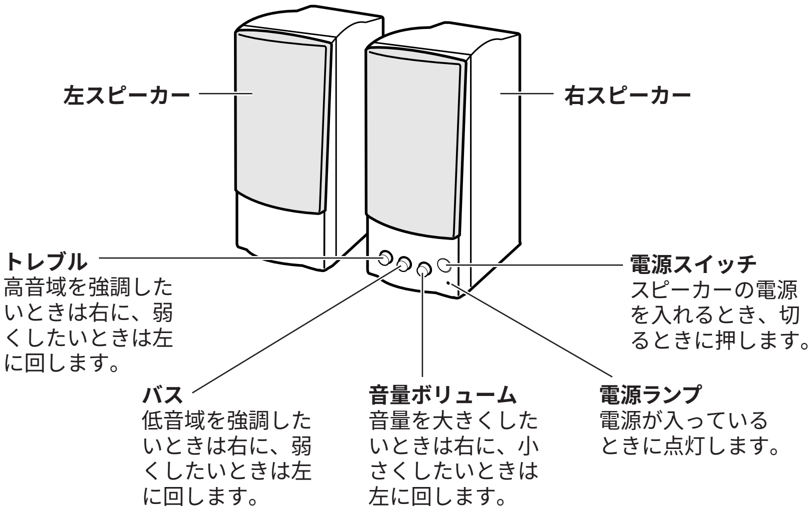


6 スピーカー／ヘッドセットを使う

ここでは、スピーカーやヘッドセットの取り扱い上の注意や、音量を調節する方法、ヘッドホンを使う方法について説明します。
スピーカーやヘッドセットの接続方法について詳しくは、『取扱説明書』をご覧ください。

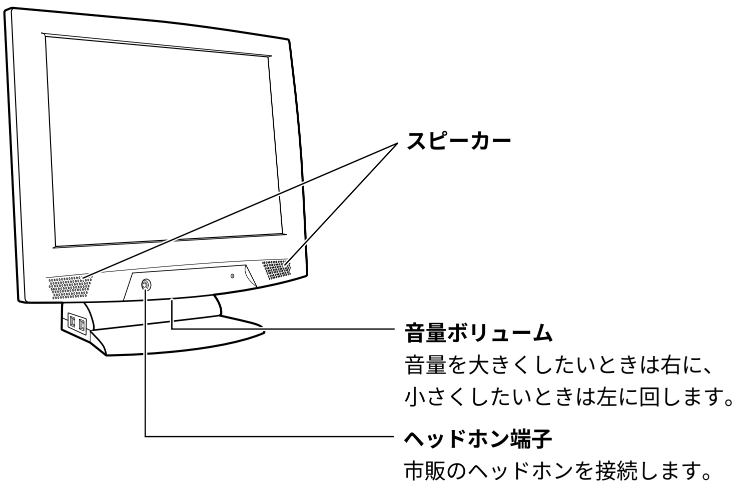
スピーカーを使う

C2/55L, C2/50L, C2/507 をお使いの方は

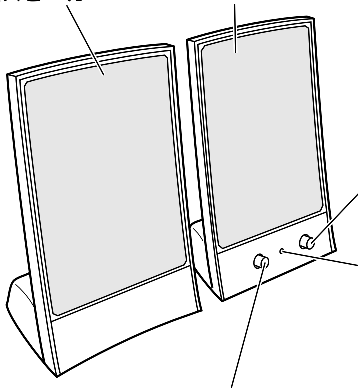


C2/46L をお使いの方は

スピーカーは、ディスプレイに内蔵されています。



C2/465 をお使いの方は



気をつけてください〜スピーカーを使うとき

スピーカーをお使いになるときは、次の点にご注意ください。

- スピーカーを使うときは、スピーカーの電源を入れてください。また、使わないときは、電源を切っておいてください。
- 左スピーカーは、必ず右スピーカーの端子に接続してください。直接パソコン本体に接続すると、本パソコンが故障する原因となります。
- スピーカー用の AC アダプタは、風通しのよいところに、ディスプレイから離して設置してください。
- AC アダプタは、必ずスピーカーに接続してからコンセントに接続してください。
- AC アダプタをスピーカーの近くに置くと、スピーカーに雑音が入る原因となることがあります。スピーカーに影響が出なくなるところまで離してお使いください。
- スピーカーの前面のパネルは、爪で引っかいたり、硬いものを当てたりしないでください。傷や音質の劣化の原因となります。また、パネルを鋭利なもので突き刺すと穴があくおそれがあります。
- スピーカーの前面のパネルにスプレーなどの揮発性のものをかけないでください。また、ゴムやビニール製品などを長時間接触させないでください。変質したり、塗料が剥げる原因となります。

C2/55L, C2/50L, C2/507 をお使いの方は、次の点にもご注意ください。

- スピーカーをディスプレイの近くに置くと、ディスプレイの画像が乱れる原因となることがあります。
  スピーカーから音が出ている状態で、ディスプレイに影響が出なくなるところまで離してお使いください。
- スピーカーの上に重いものをのせないでください。

音量を調節する

音量は、次の方法で調節できます。

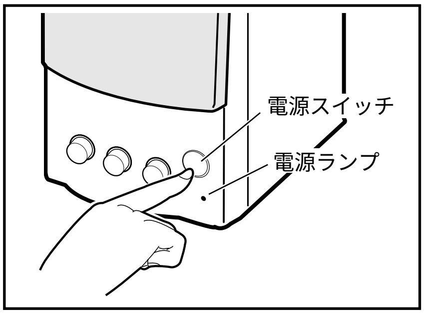
・スピーカーの音量ボリュームを使う（C2/55L, C2/50L, C2/507, C2/465をお使いの方）
・ディスプレイの音量ボリュームを使う（C2/46Lをお使いの方）
・キーボードの音量調節ボタンを使う
・画面の音量つまみを使う

このうち、キーボードの音量調節ボタンは、画面の音量つまみと連動しています。
また、それぞれの音量調節は相互に関係があります。
たとえば、上記の音量調節機能のうちどれか1つを最小にすると、他の音量を大きくしてもスピーカーからの音は聞こえません。また、すべての音量を最大にすると、スピーカーからの音量は最大となります。
ここでは、それぞれの音量調節のしかたを説明します。

スピーカーの音量ボリュームを使う（C2/55L, C2/50L, C2/507をお使いの方）

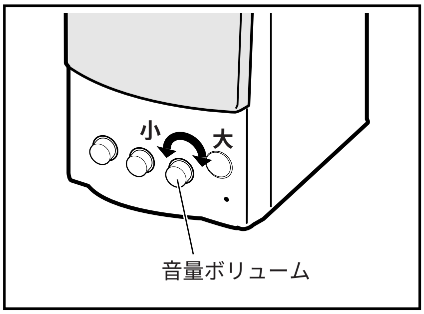
1　右スピーカーの電源スイッチを押して、スピーカーの電源を入れます。

スピーカーの電源ランプが点灯します。



2　スピーカーの音量ボリュームを回し、適切な音量に調節します。

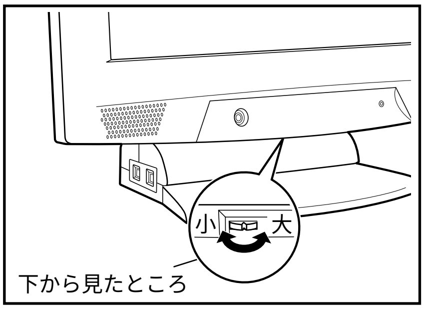
左に回すと小さく、右に回すと大きくなります。



ディスプレイの音量ボリュームを使う（C2/46Lをお使いの方）

1　ディスプレイの音量ボリュームを回し、適切な音量に調節します。

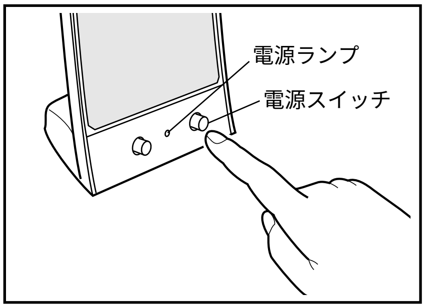
音量ボリュームは、ディスプレイの下にあります。2つ並んでいるボリュームの左側です。
左に回すと小さく、右に回すと大きくなります。



スピーカーの音量ボリュームを使う（C2/465をお使いの方）

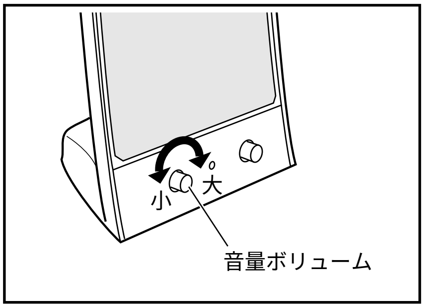
1 **右スピーカーの電源スイッチを押して、スピーカーの電源を入れます。**

スピーカーの電源ランプが点灯します。



2 **スピーカーの音量ボリュームを回し、適切な音量に調節します。**

左に回すと小さく、右に回すと大きくなります。

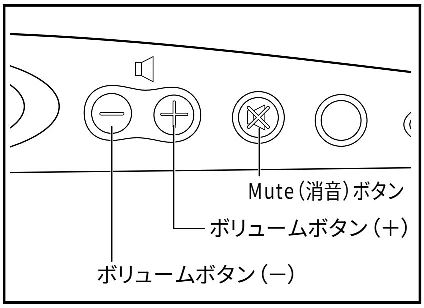


キーボードの音量調節ボタンを使う

1 **キーボード上部にある音量調節ボタンを押して、適切な音量に調節します。**

ボリュームボタン（－）を押すと小さく、ボリュームボタン（＋）を押すと大きくなります。

Mute（消音）ボタンを押すと音が消え、タスクバーの表示がに変わります。もう一度押すと元の音量に戻り、タスクバーの表示もに戻ります。



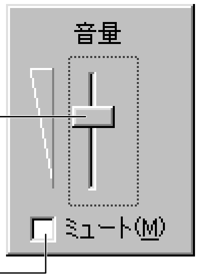
画面の音量つまみを使う

キーボードの音量調節ボタンの操作と同じことが、次の手順で行えます。

1 タスクバーの（音量）をクリックします。

音量つまみが表示されます。

2 音量つまみを上下にドラッグして、適切な音量に調節します。



音量つまみ

下にドラッグすると音が小さく、上にドラッグすると音が大きくなります。

ミュート

ここをクリックして☑にすると音が消え、タスクバーの表示が変わります。

もう一度クリックして☐にすると元の音量に戻り、タスクバーの表示も戻ります。

3 デスクトップの何もないところをクリックします。

音量つまみが閉じます。

閉じなかったときは、いったん音量つまみをクリックしてからデスクトップの何もないところをクリックしてください。

スピーカーから音が聞こえないときは

次のことを確認してください。

- スピーカーが正しく接続されているか
  『取扱説明書』をご覧になり、正しく接続されているか確認してください。
- 適切な音量になっているか
  音量調節機能（☞P.42）のどれか 1 つでも音量が最小になっていると、スピーカーからの音は聞こえません。適切な音量に調節してください。
  また、画面の音量つまみのミュートが☑になっている（タスクバーにと表示されている）と音は聞こえません。キーボードの Mute（消音）ボタンを押すか、☑をクリックして☐にしてください。
- ヘッドセットやヘッドホンが接続されていないか
  ヘッドセットやヘッドホンが接続されていると、スピーカーからの音は聞こえません。ヘッドセットやヘッドホンを取り外してください。

アドバイス

タスクバーに（音量）が表示されていないとき

画面マニュアル『パソコン情報ランド』の「解決！Q&A」をご覧ください。

その他の音量調節のしかた

「ボリュームコントロール」ウィンドウの出力マスターのつまみを上下にドラッグしても、音量を調節できます。

「ボリュームコントロール」ウィンドウの表示方法は次のとおりです。

1. **タスクバーの（音量）を右クリックします。**
2. **表示されたメニューの「音量コントロールを開く」をクリックします。**

「ボリュームコントロール」ウィンドウでは、以下の音量調節ができます。

- ボリュームコントロール：
  パソコン全体の音量
- Wave アウト：
  Wave ファイルの音量
- Midi アウト：
  MIDI の音量
- CD オーディオ：
  音楽 CD の音量
- ライン：
  ライン入力の音量

なお、各項目で調節した音量は、パソコン本体の電源を切ると、ご購入時の状態に戻ることがあります。

ヘッドセットを使う

本パソコンでは、ヘッドセットを使って音声入力や録音、ヘッドホンで音楽を楽しむことができます。
ヘッドセットの接続について詳しくは、『取扱説明書』をご覧ください。
ヘッドセットを使って音声入力や録音をするには、音声認識ソフト「DragonSpeech Partner」を使います。「DragonSpeech Partner」について詳しくは、『Dragon Speech™ Partner3.6 クイックスタート 』をご覧ください。また、音声認識が正確に行われるよう、『DragonSpeech™ Partner3.6 クイックスタート』の説明に従ってヘッドセットを正しくお使いください。
ここでは、ヘッドセットの取り扱いの注意について説明します。



気をつけてください〜ヘッドセットを使うとき

注 意

聴力障害
ヘッドセットをお使いになるときは、音量を上げすぎないようにご注意ください。
耳を刺激するような大きな音量で長時間お使いになると、聴力に悪い影響を与える原因となることがあります。

聴力障害
ヘッドセットをしたままパソコン本体の電源を入れたり切ったりしないでください。
刺激音により聴力に悪い影響を与える原因となることがあります。

ヘッドセットをお使いになるときは、次の点にご注意ください。

- スピーカーから離してお使いください。ハウリング（キーンと音がすること）を起こす場合があります。
- マイクが頬などに当たると、雑音が入る場合があります。また、マイクの先端が口元と違う方向を向いていると、音声が入力されにくくなります。ヘッドセットを付けた後に、マイクの向きを調整してください。
- マイクに向かって話すときは、呼吸音が入るのを防ぐため、マイクの先を唇の端に寄せてください。
- ヘッドセットで聞くことができる音声は左右の音を合成したモノラル音声です。
  音楽CDなどのステレオ音声を聞く場合は、市販のヘッドホンをお使いください。

何らかの理由でヘッドセットが破損した場合は、弊社パーソナルエコーセンター、またはご購入元にご連絡ください。

アドバイス

市販のマイクはお使いになれません

必ず添付のヘッドセットのマイクをお使いください。ヘッドセットのマイク端子だけを接続して、マイクとしてお使いになることもできます。

ヘッドセットから音が聞こえないときは

次のことを確認してください。

- ヘッドセットが正しく接続されているか
  『取扱説明書』をご覧になり、正しく接続されているか確認してください。
- 適切な音量になっているか
  音量調節機能（☛P.42）のどれか1つでも音量が最小になっていると、ヘッドセットからの音は聞こえません。適切な音量に調節してください。
  また、画面の音量つまみのミュートが☑になっている（タスクバーにと表示されている）と音は聞こえません。キーボードのMute（消音）ボタンを押すか、☑をクリックして☐にしてください。

ヘッドホンを使う

ヘッドホンは、パソコン本体前面のヘッドホン端子／光デジタルオーディオ出力端子に接続します。

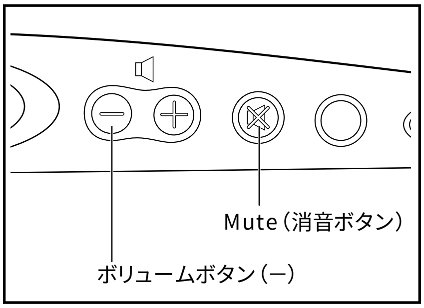
注意

聴力障害 **ヘッドホンをお使いになるときは、音量を上げすぎないようにご注意ください。**
耳を刺激するような大きな音量で長時間お使いになると、聴力に悪い影響を与える原因となることがあります。

聴力障害 **ヘッドホンをしたままパソコン本体の電源を入れたり切ったりしないでください。**
刺激音により聴力に悪い影響を与える原因となることがあります。

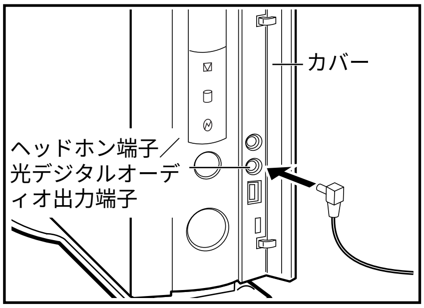
1 **キーボード上部にあるボリュームボタン（ー）を押して、音量を最小にします。**

Mute（消音）ボタンを押すと音が消えます。



2 **カバーを開け、ヘッドホンのプラグをヘッドホン端子／光デジタルオーディオ出力端子に差し込みます。**

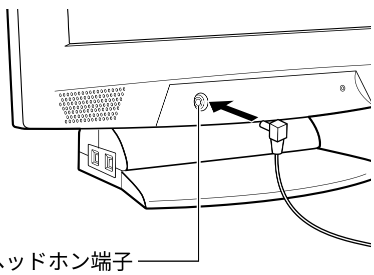
2つ並んでいる差し込み口の下側です。



アドバイス
ヘッドホンを接続すると
スピーカーからは音が聞こえなくなります。

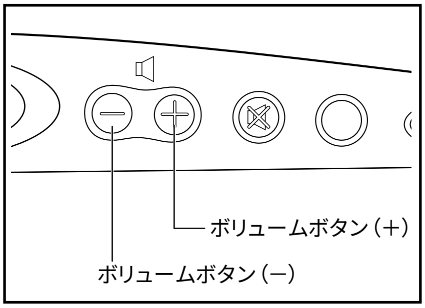
アドバイス
C2/46Lをお使いの方は

ディスプレイのヘッドホン端子に接続することもできます。



3 **キーボード上部にある音量調節ボタンを押して適切な音量に調節します。**

ボリュームボタン（－）を押すと小さく、ボリュームボタン（＋）を押すと大きくなります。



ヘッドホンから音が聞こえないときは

次のことを確認してください。

- ヘッドホンが正しく接続されているか
  「ヘッドホンを使う」（☛P.47）をご覧になり、正しく接続されているか確認してください。
- 適切な音量になっているか
  音量調節機能（☛P.42）のどれか 1 つでも音量が最小になっていると、ヘッドホンからの音は聞こえません。適切な音量に調節してください。
  また、画面の音量つまみのミュートが☑になっている（タスクバーに🔇と表示されている）と音は聞こえません。キーボードの Mute（消音）ボタンを押すか、☑をクリックして☐にしてください。

7 ワンタッチボタンを使う

ワンタッチボタンのApplication（アプリケーション）ボタン（☞P.12）を使うと、設定したアプリケーションを簡単に起動することができます。
ここでは、各Applicationボタンに割り当てられているアプリケーションの変更のしかたについて説明します。

アプリケーションの割り当てを変更する

アドバイス

ご購入時の設定

E-mailボタン
：らくらくメールBOX
Internetボタン
：Internet Explorer
Applicationボタン3
：インターネット無料体験

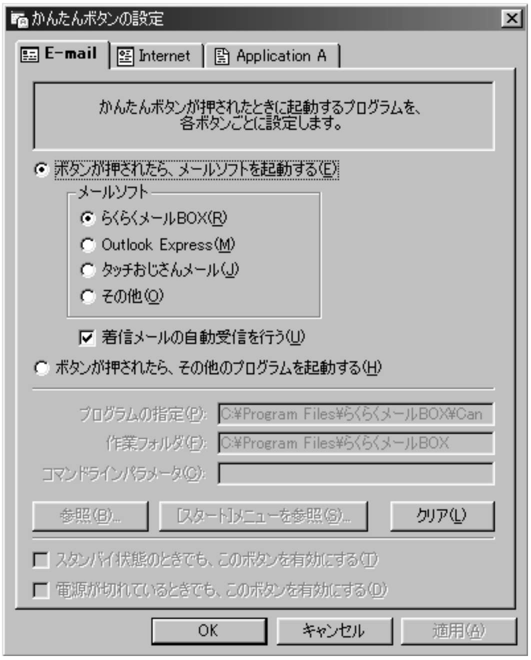
ここでは、Applicationボタン1/E-mailボタンをE-mailボタン、Applicationボタン2/InternetボタンをInternetボタンと呼びます。

1 「スタート」ボタンをクリックし、「プログラム」、「FM便利ツール」、「1.便利ツール」の順にマウスポインタを合わせ、「2.かんたんボタン」をクリックします。

「かんたんボタンの設定」ウィンドウが表示されます。

2 設定を変更したいボタンのタブをクリックします。

- **「E-mail」タブ**
  E-mailボタン
- **「Internet」タブ**
  Internetボタン
- **「Application」タブ**
  Applicationボタン



3 ▶E-mail ボタンの設定を変更するとき

☛「メールソフト」欄からお使いになるメールソフトをクリックして◉にし、「OK」をクリックします。これで設定は終了です。

▶Internet ボタンの設定を変更するとき

☛「ボタンが押されたら、その他のプログラムを起動する」の○をクリックして◉にし、手順 4 に進みます。

▶Application ボタン 3 の設定を変更するとき

☛ 手順 4 に進みます。

4 **「[スタート]メニューを参照」をクリックします。**

5 **表示される一覧から登録するアプリケーション名をクリックし、「OK」をクリックします。**

6 **「OK」をクリックします。**

アドバイス

E-mail ボタンを変更するときは

設定したいメールソフトが「メールソフト」欄にないときは、「ボタンが押されたら、メールソフトを起動する」の「その他」をクリックして○を◉にし、手順 4 に進みます。
また、この場合、メールを自動的に受信するには、メールソフト側で「起動時に新着メールを自動的に取りこむ」設定をする必要があります。
設定のしかたについては、各メールソフトのヘルプをご覧ください。

8 スクロールボタンを使う

スクロールボタンを使うと、マウスで簡単に画面をスクロールすることができます。なお、使用するアプリケーションによって、動作が異なったり、お使いになれないことがあります。

例として、ここでは画面マニュアル『パソコン情報ランド』の「パソコン用語集」でスクロールボタンを使って、右ウィンドウの用語説明を見てみましょう。

スクロールさせる〜スライドして使う

1　見たい情報が表示されている領域（ここでは右ウィンドウの中）をクリックします。

スクロールする領域が確定します。

2　右ウィンドウの中にマウスポインタを合わせます。

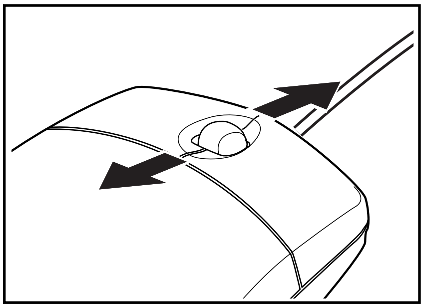


マウスポインタを合わせます

3　スクロールボタンを、マウスの後方へスライドさせます。

ウィンドウの中の表示がスクロールしていきます。

スクロールボタンをマウスの前方へスライドさせると、反対方向にスクロールしていきます。



スクロールさせる～押して使う

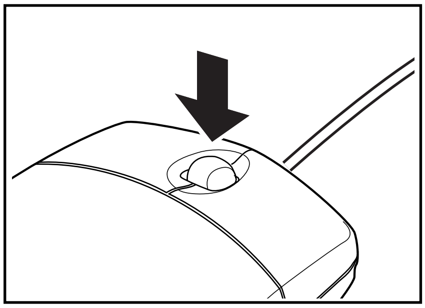
1　右ウィンドウの中にマウスポインタを合わせます。



マウスポインタを合わせます

2　スクロールボタンを押します。

マウスポインタの表示が に変わります。



3　スクロールさせたい方向にマウスを動かします。



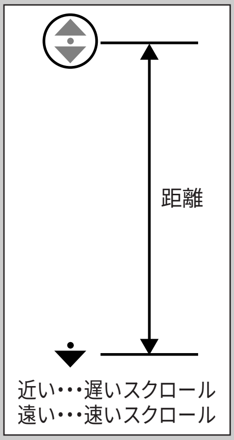
マウスを動かします

ウィンドウの中の表示がスクロールしていきます。
マウスポインタの表示を に戻すには、もう一度スクロールボタンを押すか、クリックしてください。

アドバイス

スクロールする速さを調整できます

スクロールボタンを押したところからマウスを動かしたところまでの距離によって、スクロールする速さを調整できます。



9 画面の解像度や発色数を変える

用語

解像度

縦横にどれだけの点（ドット）を表示できるかを示すものです。

アドバイス

解像度や発色数が指定されているときは

アプリケーションによっては、使用時の解像度や発色数が指定されていることがあります。必要に応じて変更してください。

解像度を高く（大きい数字に）すると画面を広く使えるようになり、多くのウィンドウを表示できます。発色数を増やすと画面に表示できる色数が多くなります。
ここでは、画面の解像度や発色数の変更のしかたを説明します。

1024×768の場合



800×600の場合



（画面は機種により若干異なります）

表示できる解像度と発色数

本パソコンで表示できる解像度や発色数は次のとおりです。

解像度	設定可能な発色数	C2/55L, C2/50L, C2/46L	C2/507	C2/465
640×480ドット	16色	○	○	○
	256色	○	○	○
	HighColor（16ビット）	○	○	○
	TrueColor（24ビット）	○	○	○
800×600ドット	256色	○	○	○
	HighColor（16ビット）	○	○	○
	TrueColor（24ビット）	○	○	●
1024×768ドット	256色	○	○	○
	HighColor（16ビット）	○	○	○
	TrueColor（24ビット）	●	●	○
1280×1024ドット	256色	×	○	×
	HighColor（16ビット）	×	○	×
	TrueColor（24ビット）	×	×	×

- ○は表示可能、×は表示不可、●はご購入時の設定です。
- HighColor（16ビット）は6万5千色、TrueColor（24ビット）は、C2/46L以外は1677万色、C2/46Lは1619万色です。

重要

上の表に書かれている以外の解像度ではお使いにならないでください

設定できる発色数は、画面の解像度によって異なります。解像度を高くすると、設定できる発色数は少なくなります。

解像度や発色数を変更する

重要

アプリケーションや「FM 便利ツール」などの常駐しているプログラムを終了してください

解像度、発色数を変更すると、再起動しなければならないことがあります。作業中のデータを保存し、アプリケーションや「FM 便利ツール」などの常駐しているプログラムを終了させてから変更してください。

アクティブデスクトップを解除してください

解像度と発色数を変更する前に、次の手順に従ってアクティブデスクトップの設定を解除してください。

1 **「スタート」ボタンをクリックし、「設定」、「アクティブデスクトップ」の順にマウスポインタを合わせ、「Web ページで表示」をクリックし、チェックマークを外します。**

解像度と発色数を変更した後に、改めてアクティブデスクトップに設定してください。

解像度や発色数を変更するとき

- 解像度、発色数の設定によっては、ディスプレイの調整が必要な場合があります。
- アプリケーションによっては、解像度や発色数の設定により、正常に動作しないことがあります。お使いになるアプリケーションの動作環境を確認し、解像度や発色数を変更してください。
- 解像度を変更するときに、一時的に画面が乱れることがありますが、動作には問題ありません。

1 **「スタート」ボタンをクリックし、「設定」にマウスポインタを合わせ、「コントロールパネル」をクリックします。**

「コントロールパネル」ウィンドウが表示されます。

2 **（画面）をクリックします。**

3 **「設定」タブをクリックします。**



（これ以降の画面は機種により若干異なります）

4 解像度や発色数を変更します。

解像度を変更するには、「画面の領域」の をを左右にドラッグしてください。
発色数を変更するには、「色」の をクリックし、一覧から設定したい発色数をクリックしてください。

画面の領域
画面の解像度を指定します。

色
画面の発色数を指定します。



> **アドバイス**
>
> ### リフレッシュレートを設定してください
>
> リフレッシュレートの設定は、次の手順に従って行います。
>
> **1 「画面のプロパティ」ウィンドウの「設定」タブで、「詳細」をクリックします。**
> 「Intel（R）810e Chipset Graphics Driver（DC133 FSB133） PV2.1のプロパティ」ウィンドウが表示されます。
>
> **2 「アダプタ」タブをクリックします。**
>
> **3 「リフレッシュレート」が、C2/55L, C2/50L, C2/46L, C2/465をお使いの方は「最適」に、C2/507をお使いの方は「75Hz」になっていることを確認します。**
> 上記以外になっている場合は、右側の をクリックし、選択します。
>
> **4 「OK」をクリックします。**
> 「画面のプロパティ」ウィンドウに戻ります。

5 設定が終了したら「OK」をクリックします。

「OK」をクリックすると、画面にメッセージが表示されます。指示に従って再起動してください。

> **アドバイス**
>
> ### 「互換性の警告」ウィンドウが表示されたときは
>
> **1 「新しい色の設定でコンピュータを再起動する」が になっていることを確認し、「OK」をクリックします。**
>
> **2 「システム設定の変更」ウィンドウで「はい」をクリックします。**
> 本パソコンが再起動します。

10 お手入れのしかた

ここではパソコンを快適にお使いいただくために、パソコンのお手入れのしかたを説明します。
お手入れのしかたは、ディスプレイ、マウス、フロッピーディスクドライブなど、各部によって異なります。それぞれの部分にあったお手入れをしてください。

パソコン本体／ディスプレイ／キーボード／スピーカーのお手入れ

警告

感電 お手入れを行うときは、パソコン本体および接続されている機器の電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いてください。
接続されている機器を、パソコン本体から取り外してください。

重要

シンナーやベンジンなどの揮発性の強いものや、化学ぞうきんは絶対に使わないでください

アルコール成分を含んだ市販のクリーナーは使用しないでください。

ディスプレイの画面部分は、ガーゼなどの柔らかい布で拭いてください

縦置き用フット（☞P.3）やパソコン本体の通風孔（☞P.7）にほこりがたまらないように、定期的に清掃してください。
汚れは、乾いた柔らかい布で軽く拭き取ってください。
汚れがひどいときは、水または中性洗剤を含ませた布を固く絞って、拭き取ってください。中性洗剤を使って拭いた場合は、水に浸した布を固く絞って、中性洗剤を拭き取ってください。また拭き取るときは、パソコン本体やディスプレイ、キーボード、スピーカーに水が入らないよう十分注意してください。

マウスのお手入れ

警告

感電 お手入れを行うときは、パソコン本体および接続されている機器の電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いてください。
接続されている機器を、パソコン本体から取り外してください。

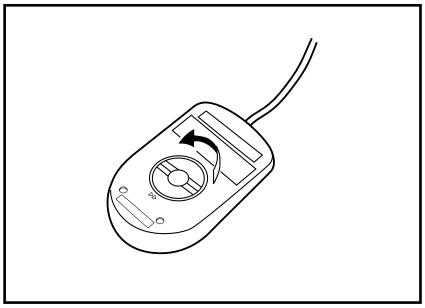
重要

シンナーやベンジンなどの揮発性の強いものや、化学ぞうきんは絶対に使わないでください

アルコール成分を含んだ市販のクリーナーは使用しないでください。

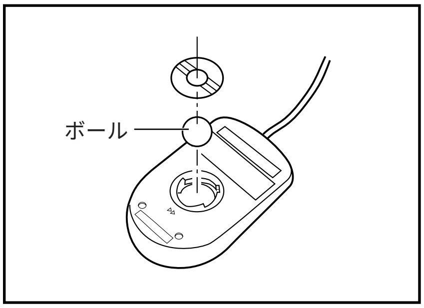
表面の汚れは、乾いた布か、または水か中性洗剤を含ませた布で軽く拭き取ってください。
また、マウスの裏にあるボールが汚れていると、すべりが悪くなります。マウスのボールは、マウスから取り外してクリーニングできます。ボールのクリーニング方法は次のとおりです。

1 **マウスの裏ブタを、矢印の方向に回して取り外します。**



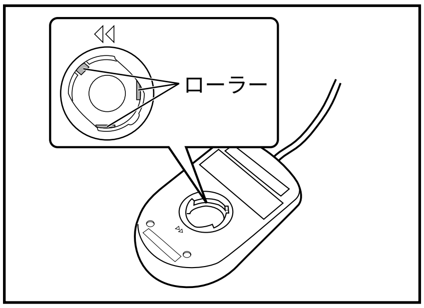
2 **ボールを取り出して、水または中性洗剤で洗います。**

洗ったあと、乾いた布でよく拭いて十分に乾かしてください。



3 **マウス内部の汚れを拭き取ります。**

水に浸して固く絞った布で、マウス内部および裏ブタを拭きます。
ローラー部分は水で湿らせた綿棒などで拭いてください。



アドバイス

ゴミは完全に取り除いてください

ローラー部分にゴミがたまると、マウスが正常に動かない原因となることがあります。

4 **ボールをマウスに戻し、裏ブタを取り付けます。**

フロッピーディスクドライブのお手入れ

フロッピーディスクは長い期間使っていると、ヘッド（データを読み書きする部分）が汚れてきます。ヘッドが汚れると、データを正常に読み書きできなくなります。別売りのクリーニングフロッピーをご購入になり、3ヶ月に１回はクリーニングを行ってください。

用意するもの

商品名　：クリーニングフロッピーマイクロ
商品番号：0212116
（富士通コワーコ株式会社取り扱い品　お問い合わせ：03-3342-5375）

お手入れのしかた

注意

けが　**クリーニングフロッピーをセットまたは取り出すときには、フロッピーディスクドライブの差し込み口に指などを入れないでください。**
けがの原因となることがあります。

1 **「スタート」ボタンをクリックし、「プログラム」にマウスポインタを合わせ、「MS-DOS プロンプト」をクリックします。**

「MS-DOS プロンプト」ウィンドウが表示されます。

2 **「C:\WINDOWS>」に続けて次のように入力し、【Enter】を押します。**

c:\fjuty\clndsk　0

「clndsk」と「0（数字のゼロ）」の間は、【　】を 1 回押してください。

3 **クリーニングフロッピーをフロッピーディスクドライブにセットし、【Enter】を押します。**

「クリーニング中です。あと XX 秒」と表示され、クリーニングがはじまります。
しばらくすると、「ヘッドクリーニングが終了しました。」と表示されます。

4 **フロッピーディスクアクセス表示ランプが消えているのを確認し、クリーニングフロッピーを取り出します。**

5 **「MS-DOS プロンプト」ウィンドウ右上の【×】（閉じるボタン）をクリックします。**

「MS-DOS プロンプト」ウィンドウを全画面表示しているときは、exit と入力し、【Enter】を押してください。

第 3 章

オプション機器を活用しよう！

パソコンは、さまざまなオプション機器を接続して機能を拡張することができます。
お使いになる目的に応じて、オプション機器を取り付けてください。
本章では、別売りのオプション機器を使うために必要な、接続や設定のしかたについて説明しています。

1 オプション機器を取り付ける前に

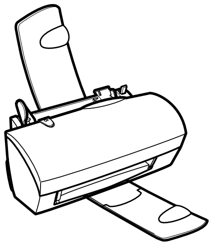
ここでは、本パソコンに取り付けられるオプション機器の種類や、オプション機器を取り付ける前に知っておいていただきたいことなどを説明します。

取り付けられるオプション機器

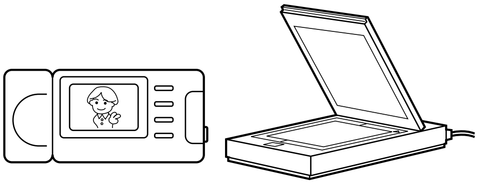
別売りのオプション機器を取り付けると、こんなことができます。

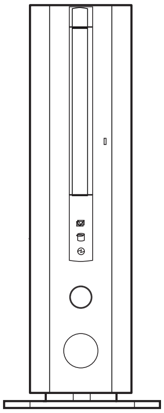
そのままつなごう！〜本体カバーを外さないで接続できるもの〜

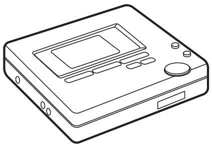
文書や画像を印刷したい！
〜プリンタを接続する〜（☞P.64）



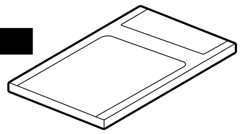
デジタルカメラを使いたい！
〜デジタルカメラ／スキャナを接続する〜（☞P.72）



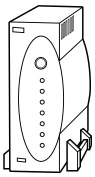




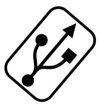
オリジナルMDをつくりたい！
〜MDレコーダーを接続する〜（☞P.76）



便利なカード！
〜PCカードをセットする〜（☞P.68）



ISDN回線に接続するには？
〜ターミナルアダプタを接続する〜（☞P.74）

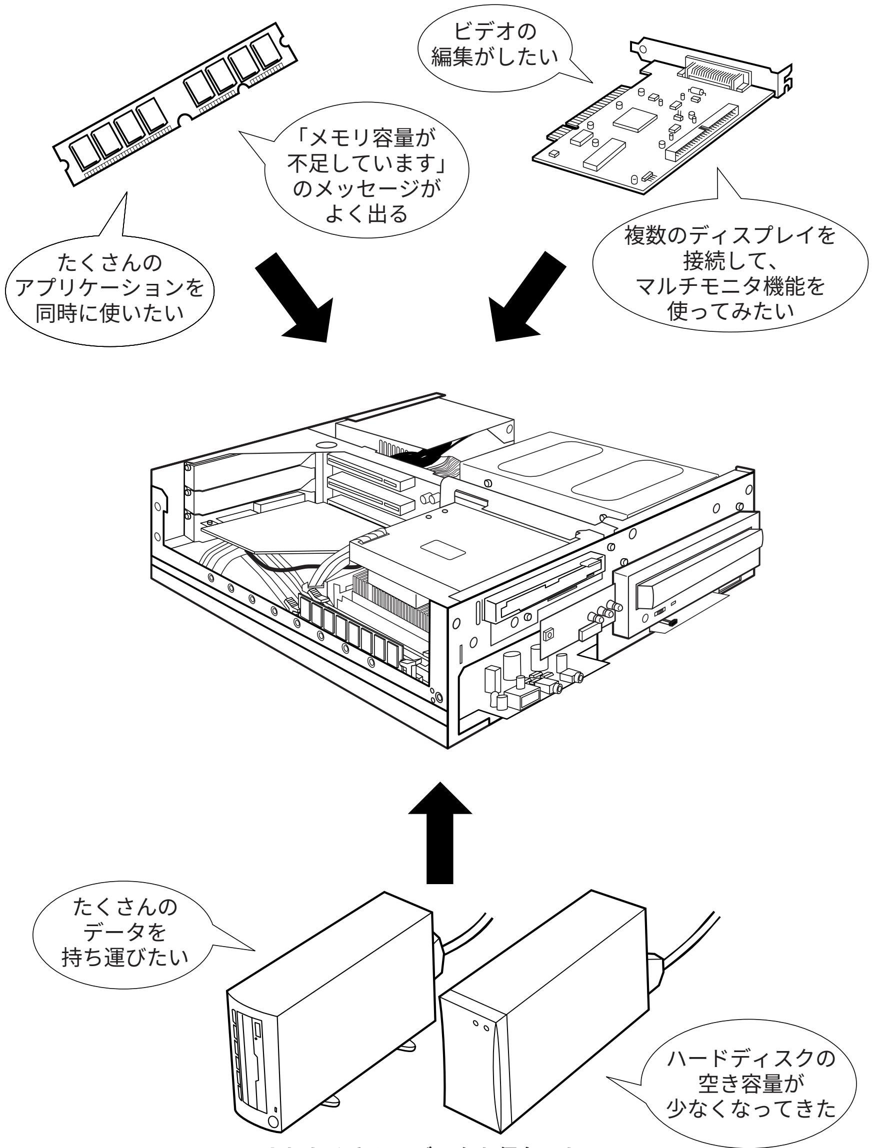


つないでラクラク！
〜USB機器を接続する〜（☞P.75）

パワーアップ！～本体カバーを外して接続するもの～

パソコンの処理をより快適にしたい！
～メモリを増設する～（☞P.80）

パソコンの機能を増やしたい！
～拡張カードを増設する～（☞P.87）



よりたくさんのデータを保存したい！
～MOドライブを増設する～（☞P.92）
～ハードディスクを増設する～（☞P.97）

オプション機器の接続にあたって

本パソコンで別売りのオプション機器をお使いになるときは、次の流れにそって行ってください。

①まずは準備から！必要なものを用意しよう

本パソコンは「PC/AT 互換機」という規格のパソコンです。
接続に使うケーブルも「PC/AT 互換機」と表示されたものを用意しましょう。
また、接続するオプション機器は、弊社純正品をお使いいただくことをお勧めします。

②準備が整ったら、いよいよ接続！

オプション機器によって取り付け方法が異なります。
必ず オプション機器のマニュアル もあわせてご覧ください。

本体カバーを外さないで接続するもの

プリンタ、PC カード、デジタルカメラ、スキャナ、USB 機器、MD レコーダー、ターミナルアダプタ　など

本体カバーを外して接続するもの

メモリ、拡張カード、MO ドライブ、ハードディスク　など

③あと一歩！ドライバをインストールしよう

オプション機器には、接続するだけで使えるものと、設定作業が必要なものがあります。
必ずオプション機器のマニュアルもあわせてご覧ください。

④完了！オプション機器を使いこなそう！

アドバイス

純正品をお使いください

接続するオプション機器は、弊社純正品をお使いいただくことをお勧めします。
他社製品をお使いになる場合は、本パソコンで正しく動作することを製造元のメーカーにご確認ください。

オプション機器が ACPI 機能に対応していないときは

増設するオプション機器が ACPI に対応していないときは、本パソコンの設定を APM 機能に変更する必要があります。
APM 機能への変更のしかたについては「APMについて」(☛P.153) をご覧ください。

用語

ドライバ

ドライバとは、パソコンに取り付けた機器を正しく扱うためのソフトウェアのことです。「デバイスドライバ」とも呼ばれます。
ドライバは、ＯＳ とオプション機器との仲立ちをします。パソコンのプログラムが実行しようとする命令を、オプション機器が理解できるように翻訳するのが役目です。
ドライバは、それぞれのオプション機器に対して専用のものがあります。メーカーや機種が違えばドライバも異なります。ほとんどのオプション機器には、ドライバが CD-ROM やフロッピーディスクなどで添付されています。

取り付けるときはここに注意！！！

オプション機器を取り付けるときは、次のことに注意してください。

・**Windows98 のセットアップは終了していますか？**
Windows98のセットアップを行う前に取り付けると、セットアップが正常に行われないおそれがあります。『取扱説明書』をご覧になり、Windows98 のセットアップを行ってください。

・**一度に取り付けるオプション機器は 1 つだけ！**
一度に複数のオプション機器を取り付けると、ドライバのインストールなどが正常に行われないおそれがあります。

・**作業前にパソコン本体および接続されている機器の電源は OFF に！**
安全のため、必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。

さらに本体カバーを取り外して作業する場合には、次のことにも注意してください。

・**電源を切った直後は作業をしない！**
電源を切った直後は、パソコン本体内部の装置が熱くなっています。電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いたあと10分ほど待ってから、作業をはじめましょう。

・**電源ユニットは分解しない！**

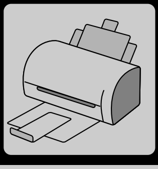
・**内部のケーブル類や装置の扱いに注意！**
傷つけたり、加工したりしないでください。

・**一度大きな金属質のものに手をふれて静電気を放電しよう！**
内蔵オプション機器は、基板や電子部品がむきだしになっています。これらの部分は、人体にたまる静電気によって損傷を受ける場合があります。

・**基板表面やはんだ付けの部分、コネクタ部分には触れないで！**
金具の部分や基板のふちを持つようにしてください。

・**適切な工具を用意しよう！**
パソコン本体のスロットカバーや金具などの取り外しには、プラスのドライバーが必要です。ネジの頭をつぶさないように、ネジのサイズに合ったドライバーをお使いください。

なお、本書で説明している以外のオプション機器の取り付けや、分解、本パソコンの改造を行った場合は、保証の対象外となります。



2 つないで活用！！

ここでは、つなぐだけで簡単に使えるプリンタ、PC カード、デジタルカメラ、スキャナ、ターミナルアダプタ、USB 機器、MD レコーダーの接続について説明します。

警告

感電

オプション機器の取り付けや取り外しを行うときは、パソコン本体および接続されている機器の電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いたあとに行ってください。
感電・火災または故障の原因となります。

注意

故障

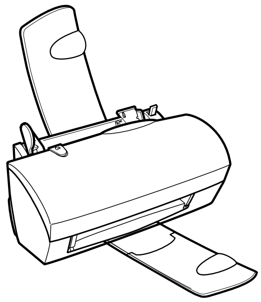
- **オプション機器ケーブルは正しく接続してください。**
  誤った接続状態でお使いになると、パソコン本体およびオプション機器が故障する原因となることがあります。
- **オプション機器、およびオプション機器ケーブルは、弊社純正品をお使いください。**
  純正品以外のオプション機器、およびオプション機器ケーブルをお使いになると、故障の原因となることがあります。

文書や画面を印刷したい！〜プリンタを接続する〜

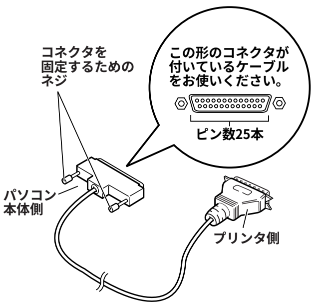
年賀状、カード、企画書・・・作ったものを印刷したいときは、プリンタを接続します。

必要なものを用意する

プリンタを接続するには、次のものが必要です。



プリンタ
パソコン本体背面のパラレルコネクタ（☛P.7）に接続するものや、USB コネクタ（☛P.3）に接続するものなどがあります。
Windows98で動作可能なものをご購入ください。



プリンタケーブル
プリンタとパソコンを接続するためのケーブルです。次の形状のケーブルがお使いになれます。
- 「PC/AT 互換機用」または「DOS/V 用」などと記載されている
- コネクタは「D-SUB25 ピン」
- ネジで固定する形のもの

プリンタケーブルは、通常プリンタに添付されていません。別途ご購入ください。
また、USBケーブルで接続するプリンタもあります。

アドバイス
オプション機器の電源について
オプション機器の電源はパソコン本体の電源を入れる前に入れるものが一般的ですが、パソコン本体より後に電源を入れるものもあります。オプション機器のマニュアルをご覧ください。

プリンタのドライバ

プリンタに添付されています。
プリンタドライバのフロッピーディスクが数枚添付されている場合は、「Windows98対応」「PC/AT 互換機用」などと記載されたものをお使いください。

プリンタのマニュアル

CD-ROM で見るマニュアルもあります。

重要

弊社純正品をお使いいただくことをお勧めします

純正品以外のプリンタ、およびプリンタケーブルを取り付けて、正常に動かなかったり、本パソコンが故障しても、保証の対象外となります。

プリンタを接続する

ここでは、プリンタをパソコン本体のパラレルコネクタに接続する方法について説明します。
USB コネクタに接続するプリンタについては、「つないでらくらく！～USB 機器を接続する～」（☛P.75）をご覧ください。

重要

プリンタは、Windows98 のセットアップ終了後に取り付けてください

Windows98のセットアップ（☛『取扱説明書』）を行う前に取り付けると、Windows98のセットアップが正常に行われないおそれがあります。

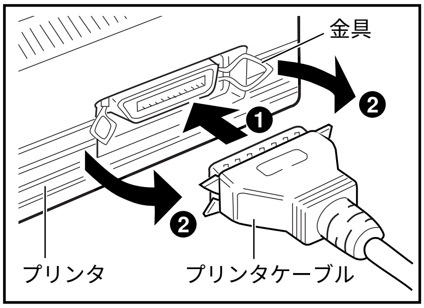
プリンタのマニュアルもご覧ください

接続方法は、プリンタによって異なります。プリンタのマニュアルもあわせてご覧ください。

1 **パソコン本体および接続されている機器の電源を切り、すべての機器の電源プラグをコンセントから抜きます。**

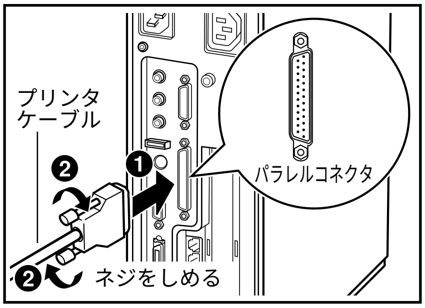
2 **プリンタ側のコネクタの形に合わせて、プリンタケーブルのネジが付いていないコネクタを接続します。**

プリンタ側のコネクタの両側に金具が付いている場合は、金具でプリンタケーブルを固定してください。



3 **パソコン本体背面のパラレルコネクタの形に合わせて、プリンタケーブルのネジの付いているコネクタを接続します。**

プリンタケーブルのコネクタの両側のネジをしめて、プリンタケーブルを固定してください。



4 **プリンタに電源ケーブルを接続します。**

プリンタに電源ケーブルがつながっている場合もあります。詳しくは、プリンタのマニュアルをご覧ください。

5 **本パソコンおよび接続されている機器と、プリンタの電源プラグを、コンセントに差し込みます。**

6 **初めて接続するプリンタの場合は、続いてプリンタのマニュアルをご覧になり、ドライバをインストールします。**

ここに注意してください

・**プリンタドライバをインストールするときの注意**

プリンタのマニュアルに「接続して電源を入れると自動的にドライバのインストールが始まります。」と記載されていても、お使いの環境によっては、プリンタのマニュアルに記載されている手順どおりに設定が進まないことがあります。そのときは、次の手順でドライバをインストールしてください。

1 **「スタート」ボタンをクリックし、「設定」にマウスポインタを合わせ、「プリンタ」をクリックします。**

2 **「プリンタの追加」をクリックします。**

「プリンタの追加ウィザード」ウィンドウが表示されます。

3 **画面の指示に従って、ドライバをインストールしてください。**

・ Windows98 の CD-ROM を要求するメッセージが表示されたときは「OK」をクリックしてください。「ファイルのコピー」ウィンドウが表示されます。「ファイルのコピー元」に c:\windows\options\cabs と入力し、「OK」をクリックしてください。

・**CD-ROMからプリンタドライバをインストールする場合に、ドライブ名を指定するときは次のように入力してください**

e:

└ eには、お使いのDVD-ROMドライブ名またはCD-ROMドライブ名を入力してください。

・**通常使うプリンタに設定してください**

接続したプリンタは、通常使うプリンタに設定してください。

用語

プラグアンドプレイ（Plug&Play/PnP）

プラグアンドプレイとは、パソコン本体に接続される機器の設定を自動化するためのしくみのことです。特別な設定をしなくても、プリンタやその他の機器を接続しただけで使えるようにします。Windows98はプラグアンドプレイに対応しています。

- **弊社製プリンタ「XJ-350/XJ-550」をお使いのとき**
  - 本パソコンには、次のプリンタドライバがあらかじめ用意されています。
    そのため、これらのプリンタをお使いになる場合は、プラグアンドプレイでプリンタが認識されたあとに、自動的にドライバのインストールが始まります。
    XJ-350：V1.0L10　　XJ-550：V1.0L10（1999年10月現在）
  - プリンタドライバは、バージョンアップされることがあります。弊社純正品の最新版のドライバは、パソコン通信やインターネットなどのオンライン情報サービスにてご案内します。
    －@nifty富士通FMシリーズ情報「FM INFO」
    （GO FMINFOでアクセスできます）
    －インターネット富士通パソコン情報ページ「FM WORLD」
    （http://www.fmworld.ne.jp）
  - 最新版のドライバのインストールは、次の流れにそって行ってください。

    1. **プリンタの電源を切ります。**
    2. **古いバージョンのドライバを削除します。**
       削除のしかたについては、プリンタのマニュアルをご覧ください。
    3. **本パソコンを再起動します。**
    4. **Windows98が起動したら、プリンタの電源を入れます。**
    5. **ダウンロードした最新版のドライバを、「プリンタの追加」でインストールします。**

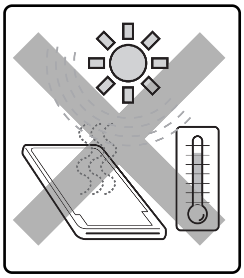
    本パソコンを再起動するときにプリンタの電源が入っていると、プラグアンドプレイが行われ、古いドライバが自動的にインストールされてしまいます。必ず、プリンタの電源を切ってから、本パソコンを再起動してください。
    インストール方法などについて詳しくは、プリンタのマニュアルをご覧ください。
- **USB接続について**
  プリンタをUSBコネクタに接続するには、USBケーブルのついたプリンタをご使用になるか、お使いのプリンタに合わせたUSB変換ケーブルを使用します。弊社製プリンタ「XJ-350/XJ-550」をお使いの場合は、必ず弊社製USB変換ケーブル（FMV-CBL721）をお使いください。
  USB変換ケーブルには専用のドライバが添付されています。
  詳しくは、USB変換ケーブルのマニュアルをご覧ください。

便利なカード！～ PC カードをセットする～

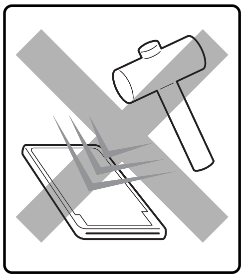
PC カードは、パソコンにさまざまな機能を追加するカードです。

気をつけてください～ PC カードを使うとき

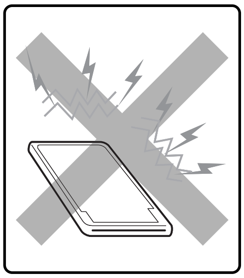
故障をふせぐため、PC カードをお使いになるときは、次の点にご注意ください。



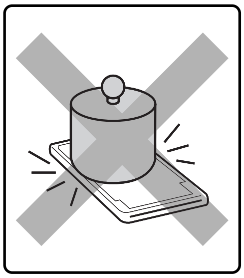
湿度の高い場所や直射日光のあたる場所には置かないでください。



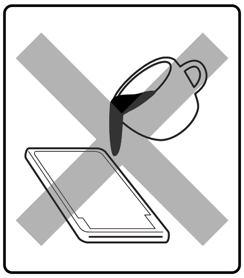
強い衝撃を与えないでください。



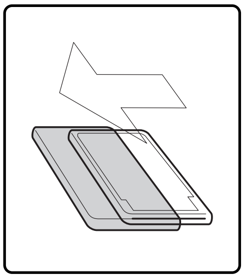
カードをこすったりして静電気を起こさないでください。



曲げたり重い物をのせないでください。



コーヒーなどの液体をかけないでください。



保管する場合は、必ず専用のケースに入れてください。

必要なものを用意する

警告

感電

PCカードは、弊社純正品をお使いください。
純正品以外をお使いになると、感電、火災または故障の原因となります。

重要

PC カードは弊社純正品をお使いください

PC カードは弊社の純正品をお使いいただくことをお勧めします。純正品以外の PC カードをセットして正常に動かなかったり、本パソコンが故障しても、保証の対象外となりますのでご注意ください。

アドバイス

PCMCIA と JEIDA の規格に対応した TYPE Ⅰと TYPE Ⅱの PC カードが使えます

TYPE Ⅰは3.3mm、TYPE Ⅱは 5mm の厚さです。電圧は 3.3V または、5V のものがお使いになれます。

お使いになれない PC カードもあります

本パソコンでは、ZV ポート対応の PC カードは使えません。

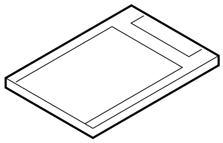
Card Bus 対応の PC カードをお使いになる場合

通常の PC カードと同様の操作を行ってください。
なお、IRQ（割り込み番号）は共有されます。

用語

PCMCIA（ピーシーエムシーアイエー）と JEIDA（ジェイダ）

PCMCIA は、米国の PC カード標準化を推進する団体 Personal Computer Memory Card International Association の略称です。
JEIDA は、日本電子工業振興会（Japan Electronic Industry Development Association）の略称です。
PCMCIA と JEIDA は共同で PC カードの規格を制定しています。一般的には、これらの団体が制定した規格のことを「PCMCIA」、「JEIDA」といいます。



PC カード
コンパクトフラッシュカード、スマートメディアアダプタがお使いになれます。どちらも、デジタルカメラから画像データを取り込むときに必要な PC カードです。

PC カードのドライバ

PC カードによっては、CD-ROM やフロッピーディスクで添付されています。

PC カードのマニュアル

PC カードによって設定方法が異なります。必ず PC カードのマニュアルもご覧ください。

セットする

注意

けが
PCカードをセットするときは、PCカードスロットに指などを入れないでください。けがの原因となることがあります。

重要

PC カードは、Windows98 のセットアップ終了後にセットしてください

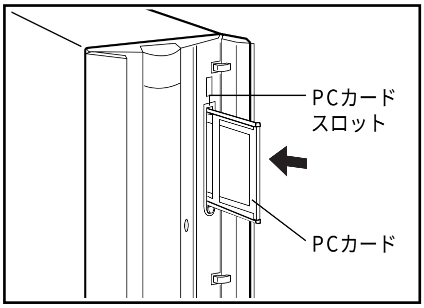
Windows98のセットアップ（☞『取扱説明書』）を行う前にセットすると、Windows98 のセットアップが正常に行われないおそれがあります。

PC カードをセットするときの注意

PC カードをセットするときは、電源を切った状態で行ってください。

1 **パソコン本体の電源を切ります。**

2 **カバーを開け、PC カードを PC カードスロットにセットします。**
製品名のある面を左にして、PC カードスロットへ差し込みます。



重要

PC カードのコネクタ部分についての注意

PCカードとコードやケーブルを接続しているコネクタ部分に物をのせたり、ぶつけたりしないでください。破損の原因となります。

3 **パソコン本体の電源を入れます。**

初めてセットするPCカードの場合は、ドライバのインストールという設定作業を行います。PCカードのマニュアルをご覧になり、画面の指示に従ってドライバをインストールしてください。



PCカードによっては、上記の画面は表示されず、自動的にドライバがインストールされることがあります。

取り出す

重要

PCカードを取り出すときの注意

- 必ず手順どおりにPCカードを取り出してください。手順どおりに行わないと、PCカードが壊れる原因となります。
- PCカードを取り出すときは、電源を切った状態で行ってください。

注意

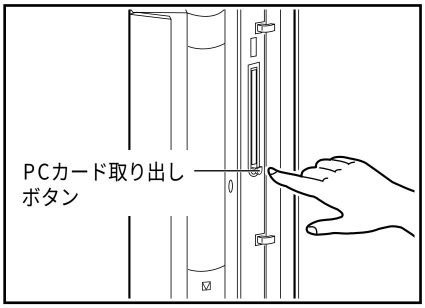
けが **PCカードを取り出すときは、PCカードスロットに指などを入れないでください。けがの原因となることがあります。**

高温 **使用した直後のPCカードは、高温になっているときがあります。PCカードを取り出すときは、使用後しばらく待ってから取り出してください。火傷の原因となることがあります。**

1 パソコン本体の電源を切ります。

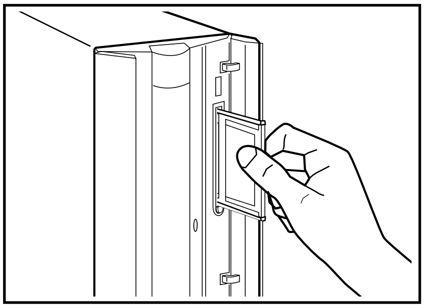
2 PCカード取り出しボタンを押します。

PCカード取り出しボタンが飛び出します。



3 **もう一度 PC カード取り出しボタンを押し、PCカードを取り出します。**

飛び出したPCカードを引き抜きます。



重要

コードやケーブルを引っ張らないでください

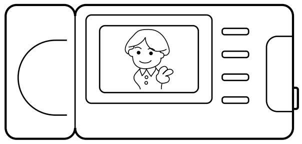
コード付きのPCカードや、ケーブルを接続しているPCカードを取り出すときは、コードやケーブルを引っ張らないでください。破損の原因となります。

デジタルカメラを使いたい！～デジタルカメラ／スキャナを使う～

お気に入りのイラストや写真を取り込んで、オリジナルの画像を作りたい・・・
そんなときはデジタルカメラやスキャナを接続します。

必要なものを用意する（デジタルカメラ）

デジタルカメラを使うには、次のものが必要です。



デジタルカメラ

デジタルカメラは、画像をデジタル情報として記録するカメラで、各社から発売されています。
デジタルカメラからパソコンに画像データを取り込む方法は、お使いのデジタルカメラによって次のように異なります。

- PCカードやフロッピーディスクを使って画像データを取り込むもの
- パソコン本体背面のシリアルコネクタ（☛P.7）やUSBコネクタ（☛P.3）に接続して画像データを取り込むもの

デジタルカメラのマニュアルをご覧になり、必要なものをご用意ください。

専用ケーブル

デジタルカメラと本パソコンをつなぐケーブルです。ケーブルはデジタルカメラに添付されている場合もあります。

ソフトウェア

撮影した写真をパソコンに取り込むためのソフトウェアや、撮影した写真を見たり、文字やイラストを入れて編集したりするためのソフトウェアが必要です。これらのソフトウェアは、デジタルカメラに添付されている場合もあります。
本パソコンには、写真をいろいろ活用できるソフトウェア「らくらく写真館」が添付されています。

デジタルカメラのマニュアル

デジタルカメラを使うには

ご購入されたデジタルカメラによって、接続方法が異なります。

PC カードにデータを保存するもの

「便利なカード！～ PC カードをセットする～」（☛P.68）をご覧ください。

パソコン本体背面のシリアルコネクタに接続するもの

ケーブルで、デジタルカメラとパソコン本体背面のシリアルコネクタ（☛P.7）をつなぎます。つないだあと、ケーブルのコネクタの両側のネジをしめて固定してください。

USB コネクタに接続するもの

「つないでらくらく！〜USB 機器を接続する〜」（☞P.75）をご覧ください。

なお、デジタルカメラの活用について詳しくは、『使いこなす本 ソフト編』をご覧ください。

必要なものを用意する（スキャナ）

スキャナを使うには、次のものが必要です。

スキャナ

スキャナは、コピー機のような形のフラットベッド型が一般的ですが、ほかにもハンディスキャナや、フィルムから直接写真を取り込めるフィルムスキャナなどもあります。
接続方法は、お使いのスキャナによって次のように異なります。

- パソコン本体背面のパラレルコネクタ（☞P.7）に接続するもの
- USB コネクタ（☞P.3）に接続するもの
- SCSI カードという拡張カードを使うもの（SCSI 規格）

スキャナにはTWAIN という規格があり、フォトレタッチソフトのほとんどがこの規格に対応しています。TWAIN 対応のスキャナをお使いになることをお勧めします。

用語

SCSI（スカジー）
機器の接続に関する規格のひとつです。SCSI 規格の機器には、スキャナのほかに、MO ドライブやハードディスクなどがあります。

TWAIN（トゥウェイン）
画像データをコンピュータに取り込むための統一規格です。

アドバイス

SCSI 規格のスキャナをお使いになるときは

スキャナの他に、SCSIカード、SCSIケーブル、終端抵抗（ターミネータ）が必要になります。SCSI規格のコネクタは数種類あります。対応するケーブルと終端抵抗も異なりますので、よくご確認ください。SCSIカード、SCSIケーブル、終端抵抗（ターミネータ）について詳しくは、「MO ドライブを増設する」の「必要なものを用意する」（☞P.93）をご覧ください。

フォトレタッチソフト（画像を加工するソフトウェア）

取り込んだ画像の色を調整したり、画像を合成したり、自分の好きなファイル形式に変換したりするためのソフトウェアです。
本パソコンには、「らくらく写真館」というフォトレタッチソフトが添付されています。
また、スキャナに添付されているフォトレタッチソフトもあります。さらに多くの機能を使いたいときには市販のソフトウェアをご購入ください。

スキャナのドライバ

スキャナに添付されています。
スキャナのドライバのフロッピーディスクが数枚添付されている場合は、「Windows98 対応」「PC/AT 互換機用」などと記載されたものをお使いください。

スキャナのマニュアル

スキャナを使うには

ご購入されたスキャナによって、接続方法が異なります。詳しくは、スキャナのマニュアルをご覧ください。

パソコン本体背面のパラレルコネクタに接続するもの

ケーブルで、スキャナとパソコン本体背面のパラレルコネクタ（☞P.7）をつなぎます。
本パソコンでは、コネクタをネジで固定する形のケーブルをお使いください。
接続したあと、スキャナのドライバをインストールします。

USB コネクタに接続するもの

「つないでらくらく！〜USB 機器を接続する〜」（☛P.75）をご覧ください。

SCSI カードに接続するもの

SCSI カードという拡張カードをパソコン本体内部に取り付けます。取り付けかたなどについては「拡張カードを増設する」（☛P.87）をご覧ください。
SCSIカードを取り付けたあとに、SCSIケーブルでSCSIカードとスキャナをつなぎます。スキャナには、終端抵抗（ターミネータ）という器具を取り付けます。また、終端抵抗が内蔵されているスキャナもあり、ディップスイッチなどで設定する必要があるものもあります。
接続したあと、スキャナのドライバをインストールします。

ISDN回線に接続したい！〜ターミナルアダプタを接続する〜

ISDN回線に接続して、もっと快適にネットワークを楽しみたい・・・そんなときはターミナルアダプタを接続します。
ISDN 回線に接続する方法について詳しくは、ターミナルアダプタのマニュアルをご覧になるか、NTT にお問い合わせください。

必要なものを用意する

ターミナルアダプタを使うには、次のものが必要です。

ターミナルアダプタ

ISDN 回線に接続するために必要な機器です。パソコン本体背面のシリアルコネクタ（☛P.7）に接続するものや USB コネクタ（☛P.3）に接続するものなどがあります。

専用ケーブル

ターミナルアダプタと本パソコンをつなぐケーブルです。通常、ターミナルアダプタに添付されています。添付されていない場合は、お使いになるターミナルアダプタに合ったケーブルをご購入ください。

ターミナルアダプタのドライバ

ターミナルアダプタによっては、ドライバが必要なものがあります。ターミナルアダプタに添付されているドライバをご用意ください。
ターミナルアダプタのドライバのフロッピーディスクが数枚添付されている場合は、「Windows98 対応」「PC/AT 互換機用」などと記載されたものをお使いください。

ターミナルアダプタのマニュアル

ターミナルアダプタを接続するには

ご購入されたターミナルアダプタによって、接続方法が異なります。

パソコン本体背面のシリアルコネクタに接続するもの

専用のケーブルでターミナルアダプタとパソコン本体背面のシリアルコネクタ（☛P.7）をつなぎます。つないだあと、ケーブルのコネクタの両側のネジをしめて固定してください。

USB コネクタに接続するもの

「つないでらくらく！～USB 機器を接続する～」（☛P.75）をご覧ください。

ターミナルアダプタをISDN回線に接続するには、DSU（ディーエスユー）という機器が別に必要な場合もあります。また、パソコンでFAXを送受信するには、パソコン本体のモデムとターミナルアダプタをモジュラーケーブルでつなぐ必要があります。詳しくは、ターミナルアダプタのマニュアルをご覧になるか、NTTにお問い合わせください。

つないでらくらく！～USB 機器を接続する～

USB 機器を接続して、自分の思いどおりのパソコンにしましょう。

用語

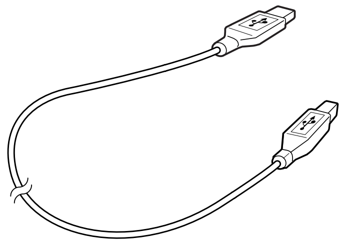
USB（ユーエスビー）
Universal Serial Bus という規格の略称です。USB規格に対応している機器には、次のようなものがあります。
- マウス
- キーボード
- プリンタ
- ターミナルアダプタ
- スピーカー
- デジタルカメラ
- スキャナ

必要なものを用意する

USB 機器を使うには、次のものが必要です。

USB 機器

本パソコンに添付されているマウス、キーボードの他に、プリンタ、ターミナルアダプタ、スピーカーなどがあります。お使いになる目的に応じてご用意ください。



USB ケーブル
USB機器と本パソコンをつなぐケーブルです。USB機器に添付されている場合もあります。
マウスなどのようにケーブルが不要なものもあります。

USB 機器のドライバ

通常は USB 機器に添付されています。

USB 機器のマニュアル

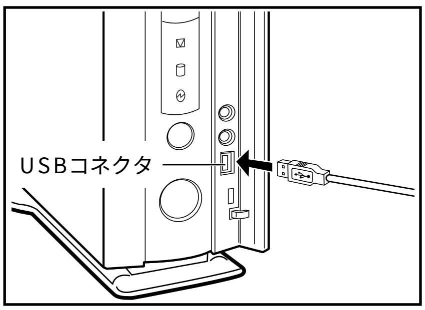
USB 機器を使うには

取り付けかたは、次のとおりです。

アドバイス

パソコン本体の電源を入れたままでも接続できます
USB 機器はパソコン本体の電源を切らなくても抜き差しすることができます。

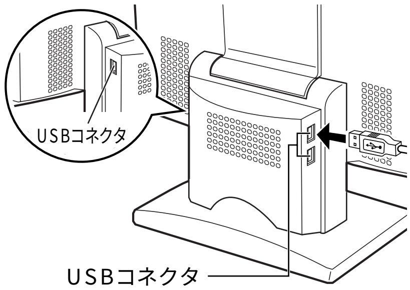
1 **パソコン本体前面の USB コネクタに USB 機器のケーブルを接続します。**
USB 機器のケーブルのコネクタの マークを左にして差し込んでください。



アドバイス

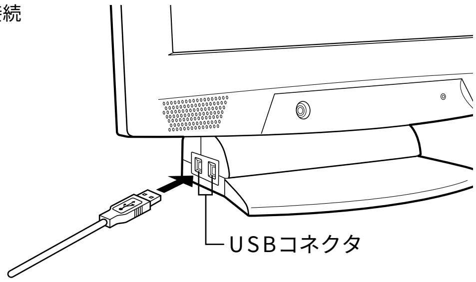
C2/55L, C2/50L をお使いの方は

ディスプレイのUSBコネクタ（3つ）に接続することもできます。



C2/46L をお使いの方は

ディスプレイのUSBコネクタ（2つ）に接続することもできます。



2 ドライバをインストールします。

ドライバをインストールしなくても、接続するだけで使えるUSB機器もあります。詳しくは、USB 機器のマニュアルをご覧ください。

オリジナルMDをつくりたい！～MDレコーダーを接続する～

MD（エムディ）レコーダーを接続して、自分だけのオリジナル MD（ミニディスク）をつくることができます。

必要なものを用意する

アドバイス

出力可能な音源はWAVEとMIDIです

出力されるサンプリング周波数は 48kHz です。

MD レコーダーを接続するには、次のものが必要です。

MD

MD は音楽をデジタル情報として記録する 8cm のディスクで、各社から発売されています。

MD レコーダー

光デジタル入力が可能な MD レコーダーをお使いいただけます。
再生専用のものはお使いになれません。録音可能なものをお使いください。

光デジタルオーディオケーブル

本パソコンで使用できる光デジタルオーディオケーブルの組み合わせは次のとおりです。

パソコン側	MD 側
丸型光ミニプラグ	丸型光ミニプラグ
丸型光ミニプラグ	角型光ミニプラグ

MD レコーダーを接続する

重 要

光デジタルオーディオ出力端子を使うには

光デジタルオーディオ出力端子として使用するときは、次の設定を確認してください。

1 **「スタート」ボタンをクリックし、「設定」にマウスポインタを合わせ、「コントロールパネル」をクリックします。**
「コントロールパネル」ウィンドウが表示されます。

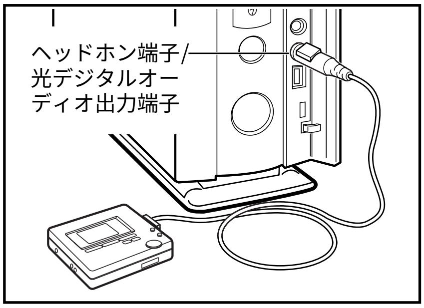
2 **（ヤマハ DS-XG 設定）をクリックします。**
「ヤマハ DS-XG 設定」ウィンドウが表示されます。

3 **「デジタル出力」タブをクリックし、「PCM 出力」の「ON（デジタルソースのみ出力）」の○をクリックし、◉にします。**

4 **「OK」をクリックします。**

取り付けかたは次のとおりです。

1 **パソコン本体のヘッドホン端子／光デジタルオーディオ出力端子と MD レコーダーを光デジタルケーブルで接続します。**



MD に録音する手順について詳しくは、『使いこなす本 ソフト編』をご覧ください。

3 パワーアップするために～本体カバーを取り外す～

パソコンの内部にいろいろなオプション機器を取り付けて、パソコンをパワーアップすることができます。
本体カバーは、次の作業を行うときに取り外します。
・メモリを取り付けるとき
・拡張カードを取り付けるとき
・パスワードを忘れたとき

警告

感電
本体カバーを取り外すときまたは取り付けるときは、パソコン本体および接続されている機器の電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いたあとに行ってください。
感電・火災または故障の原因となります。

誤飲
取り外したネジなどの小さな部品は、小さなお子様が誤って飲み込むと窒息の原因となります。保護者の方は、小さなお子様の手の届かないところに置くように注意してください。
万一、飲み込んだ場合は、直ちに医師と相談してください。

注意

けが
本体カバーを取り外すときまたは取り付けるときは、指定された場所以外のネジは外さないでください。
指定された場所以外のネジを外すと、けがをするおそれがあります。また、故障の原因となることがあります。

けが
基板表面上の突起物には手を触れないでください。
けがをするおそれがあります。また、故障の原因となることがあります。

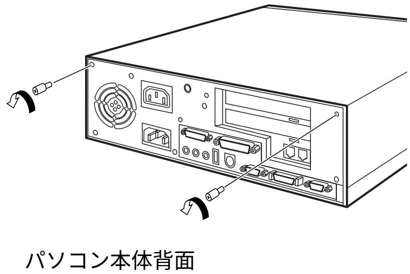
本体カバーを取り外す

1 パソコン本体および接続されている機器の電源を切り、すべての電源プラグをコンセントから抜きます。
電源を切った直後は、パソコン本体内部の装置が熱くなっています。電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いたあと 10 分ほど待ってください。

2 電源ケーブルをパソコン本体から取り外します。

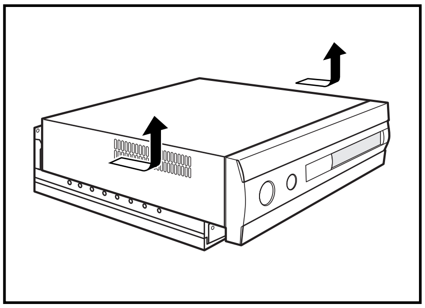
3 本パソコンを縦置きでお使いの場合は、縦置き用フットを取り外し、横置きにします。

4 パソコン本体背面のツマミネジ（2ヵ所）を手で回して外します。
手で回せない場合は、ドライバーをお使いください。


パソコン本体背面

5 **本体カバーを矢印の方向に取り外します。**

パソコン本体前面に向けてスライドさせたあと、持ち上げてください。

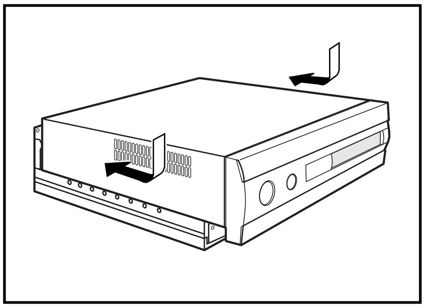


▶ メモリを取り付ける場合	☛P.84　手順２へ
▶ メモリを交換する場合	☛P.86　手順２へ
▶ 拡張カードを取り付ける場合	☛P.90　手順２へ
▶ ジャンパスイッチを変更する場合	☛P.119　手順２へ

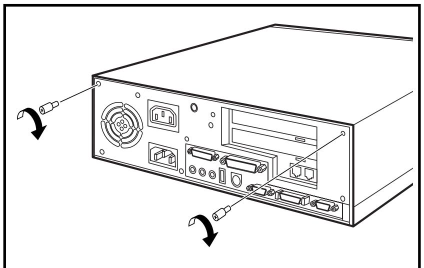
本体カバーを取り付ける

1 **本体カバーを取り付けます。**

パソコン本体背面に向けてスライドさせます。



2 **パソコン本体背面のツマミネジ（2ヵ所）を手で回して取り付けます。**



パソコン本体背面

3 **本パソコンを縦置きでお使いになる場合は、縦置き用フットを取り付けます。**

4 **電源ケーブルをパソコン本体に接続します。**

5 **パソコン本体および接続されている機器の電源プラグを、コンセントに差し込みます。**

▶ メモリを取り付けた場合	☛P.85　「メモリ容量を確認してください」へ
▶ 拡張カードを取り付けた場合	☛P.91　手順７へ

メモリを増やす

「複数のアプリケーションを起動したら、パソコンの動作が遅くなった」「大きなファイルを使おうとするとメモリ不足と表示されてしまう」
このような場合は本パソコンのメモリを増やすと、パソコンの処理がより速く快適になります。

メモリを増やすとは？

メモリとはどんなもの？

メモリは、CPU が処理するデータやプログラムを一時的にためておく装置です。
プログラムやデータは本パソコンに内蔵されているハードディスクに保存されていますが、CPU が処理するたびにハードディスクから読み込んでくると時間がかかります。
CPUがメモリからデータを読み込む速度はハードディスクからデータを読み込む速度よりも速いので、必要なデータやプログラムをメモリにためておけば処理が速くなります。
メモリは、よく「机」にたとえられます。勉強や仕事をするときに引き出しから本や書類を取り出して机の上に広げるように、ハードディスクに保存されているデータやプログラムが、メモリという「机の上」に広げられているのです。

用語
CPU（シーピーユー）
Central Processing Unit の略で、パソコンの中枢頭脳部分ともいわれる、中央処理装置のことです。

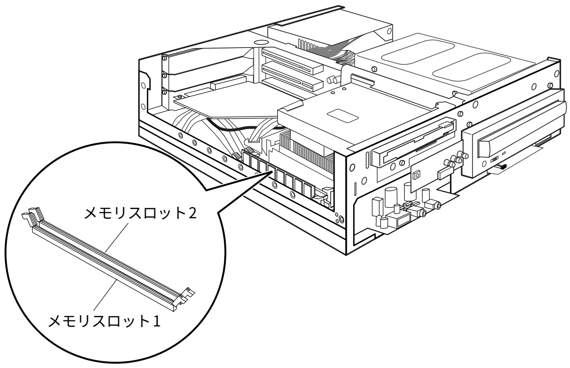
メモリを増やすとパソコンの動作が速くなる

複数のアプリケーションを同時に動かしたり、データを一度にたくさん読み込むと、メモリはどんどん使われてしまいます。
机の上に本やノートを広げると空いた場所がなくなるのと同じです。
机が大きければ本やノートをたくさん広げられますが、机が小さいと少ししか広げることができません。
同じように、メモリも大きければ大きいほど、たくさんのアプリケーションやデータを読み込むことができるようになり、快適に操作できます。
メモリの大きさは「容量」と呼ばれ、64MB、128MB というように表されます。
別売りのメモリを本パソコンに増設してメモリの容量を増やすと、「机」が広がったことになりパソコンの動作が速くなります。

用語
MB（メガバイト）
バイトとは、パソコンで扱うデータの大きさを表す単位のことです。M（メガ）は 100 万を表します。1MB とは、約 100 万バイトのデータということです。
パソコンで使われる単位には、他に KB（キロバイト）、GB（ギガバイト）があります。1KB は約 1000 バイト、1GB は約 10 億バイトのデータを表します。

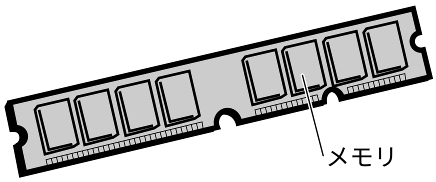
メモリはどこにある？

メモリは、パソコン本体内部のメモリスロットに取り付けます。
本パソコンのご購入時は、メモリスロット１に64MB（C2/55Lは128MB）のメモリが１枚取り付けられています。
メモリ容量を増やすには、メモリスロット２に、新たにメモリを取り付けます。
メモリは、最大256MB（128MB×２枚）まで増やせます。
C2/50L, C2/507, C2/46L, C2/465をお使いの方が、メモリを最大容量まで増やしたいときは、あらかじめ取り付けられているメモリ（メモリスロット１）を取り外して交換します。



取り付けられるメモリ

お使いになれるメモリは次のようなものです。



・種類	SDRAM（エスディーラム） DIMM（ディム）（SPD付き）
・システムバスクロック	100MHz
・ピン数	168ピン
・容量	64MB、128MB
・ECC	なし

重要

弊社純正品をお使いいただくことをお勧めします

純正品以外のメモリを取り付けて、正常に動かなかったり、本パソコンが故障しても、保証の対象外となります。

メモリのシステムバスクロックにご注意ください

本パソコンに取り付けるメモリは、100MHz対応のものをお使いください。

用語

SPD（エスピーディー）

Serial Presence Detectの略で、メモリの機能のひとつです。
必ずSPD付きのメモリをご購入ください。なお、弊社製のSDRAMは、SPD付きです。

ECC（イーシーシー）

Error Correcting Codeの略で、データの中の誤りを検出し、訂正する機能のことです。
本パソコンでは、この機能は使いません。

メモリの組み合わせ表

次の表で、メモリの容量とメモリスロットの組み合わせを確認してください。
C2/50L, C2/507, C2/46L, C2/465をお使いの方はメモリを増やす容量によっては、あらかじめ取り付けられているメモリ（メモリスロット 1）を取り外して大容量のメモリに交換します。
次の表以外の組み合わせにすると、本パソコンが正常に動作しない場合があります。

C2/55L をお使いの方

総容量	メモリスロット1（DIMM0）	メモリスロット2（DIMM1）
128MB(ご購入時)	128MB	なし
192MB	128MB	64MB
256MB(最大)	128MB	128MB

C2/50L, C2/507, C2/46L, C2/465 をお使いの方

総容量	メモリスロット1（DIMM0）	メモリスロット2（DIMM1）
64MB(ご購入時)	64MB	なし
128MB	64MB	64MB
192MB	64MB	128MB
256MB(最大)	128MB ※	128MB

※あらかじめ取り付けられているメモリを交換します。

メモリを取り付ける

ここでは、メモリを取り付ける方法を説明します。
あらかじめ取り付けられているメモリを、大容量のメモリに交換するときは、「メモリを交換する」（☛P.85）をご覧ください。

警告

感電
メモリの取り付けまたは交換を行うときは、パソコン本体および接続されている機器の電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いたあとに行ってください。
感電・火災または故障の原因となります。

注意

けが
メモリの取り付けまたは交換を行うときは、指定された場所以外のネジは外さないでください。
指定された場所以外のネジを外すと、けがをするおそれがあります。また、故障の原因となることがあります。

けが
基板表面上の突起物には手を触れないでください。
けがをするおそれがあります。また、故障の原因となることがあります。

故障
- **メモリは、弊社純正品をお使いください。**
  純正品以外のメモリをお使いになると、故障の原因となることがあります。
- **メモリを取り付けるときは、メモリの差し込み方向をお確かめのうえ、確実に差し込んでください。誤ってメモリを逆方向に差したり、差し込みが不完全だったりすると、故障の原因となることがあります。**

重要

メモリは、Windows98 のセットアップ終了後に取り付けてください

Windows98のセットアップ（☛『取扱説明書』）を行う前に取り付けると、Windows98のセットアップが正常に行われないおそれがあります。

電源を切ってから 10 分ほど待ってください

電源を切った直後は、パソコン本体内部の装置が熱くなっています。

メモリを取り付けるときは、電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いたあと10分ほど待ってから、作業を始めてください。

放電してから作業してください

メモリは人体にたまる静電気によって悪影響を受けます。

取り扱う前に、一度大きな金属質のものに手を触れて静電気を放電してください。

メモリのシステムバスクロックにご注意ください

本パソコンに取り付けるメモリは、100MHz対応のものをお使いください。

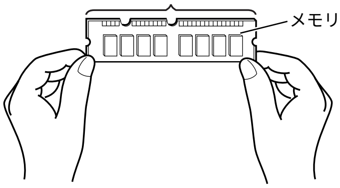
メモリは何度も抜き差ししないでください

故障の原因となることがあります。

アドバイス

メモリの持ちかた

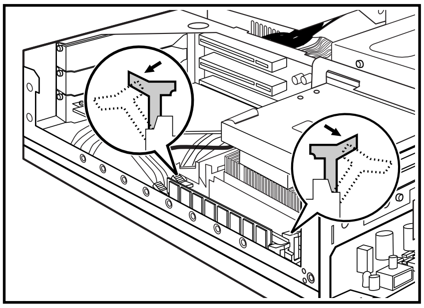
メモリは右図のようにふちを持ってください。
金色の線が入っている部分（端子）には、絶対に手を触れないでください。



1 **「本体カバーを取り外す」（☛P.78）をご覧になり、本体カバーを取り外します。**

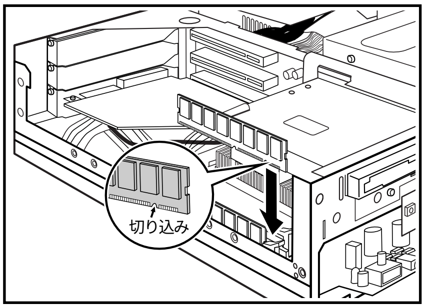
2 **メモリを取り付けるメモリスロットの両側のレバーを外側に開きます。**

メモリの取り付け場所については、「メモリはどこにある？」（☛P.81）をご覧ください。
メモリの容量と組み合わせについては、「メモリの組み合わせ表」（☛P.82）をご覧ください。



3 **メモリをメモリスロットに差し込みます。**

端子に切り込みが入っている方をパソコン本体前面側に向けて、メモリスロットの上からまっすぐ下に差し込んでください。
メモリがメモリスロットに差し込まれると、スロット両側のレバーが自動的に閉じて、メモリがロックされます。必ず、メモリがロックされたことを確認してください。



重要

メモリの方向をよく確認して正しく差し込んでください

無理に差し込むと故障の原因となります。

4 **「本体カバーを取り付ける」（☛P.79）をご覧になり、本体カバーを取り付けます。**

メモリ容量を確認してください

メモリを取り付けたあと、増やしたメモリが本パソコンで使える状態になっているかを確認してください。
必ず、本体カバーを取り付けてから確認作業を行ってください。

アドバイス

電源を入れても何も表示されないときは

メモリが正しく取り付けられていないと、本パソコンの電源を入れたとき画面に何も表示されない場合があります。
その場合は、電源スイッチを４秒以上押し続けて本パソコンの電源を切り、電源プラグを抜いたあと、メモリを取り付け直してください。
メモリの取り外しかたについては、「メモリを交換する」（☛P.85）をご覧ください。

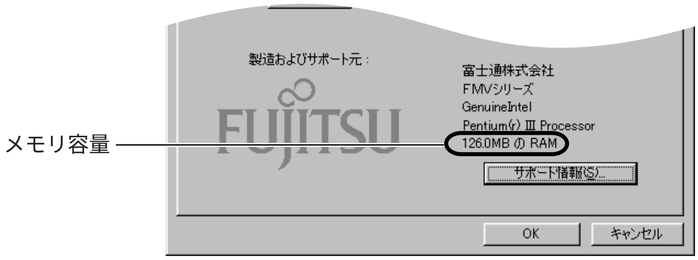
1　パソコン本体の電源を入れます。

2　「スタート」ボタンをクリックし、「設定」にマウスポインタを合わせ、「コントロールパネル」をクリックします。

3　（システム）をクリックします。

「システムのプロパティ」ウィンドウが表示されます。

4　⬭で囲んだ部分の数値が、増やしたメモリの分だけ増えているかを確認します。



（画面は機種により異なります）

画面は、64MB搭載のパソコンに64MBのメモリを増設して、128MBに増やした例です。
SCSIカードの増設などお使いのシステム構成によっては1～2MB少なく表示される場合があります。

5　「OK」をクリックします。

6　「コントロールパネル」ウィンドウ右上の ✕（閉じるボタン）をクリックします。

メモリ容量の数値が増えていなかった場合は、次のことを確認してください。

- 増やしたメモリが本パソコンで使える種類のものか ☛「取り付けられるメモリ」（P.81）
- メモリがメモリスロットにきちんと差し込まれているか☛「メモリを取り付ける」（P.83）
- 正しいスロットに取り付けられているか ☛「メモリはどこにある？」（P.81）
- メモリを正しく組み合わせているか ☛「メモリの組み合わせ表」（P.82）

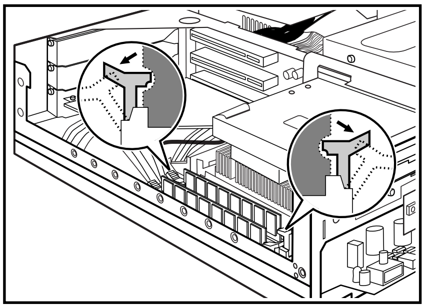
メモリを交換する

本パソコンに取り付けられているメモリを取り外し、より大容量のメモリに交換することができます。

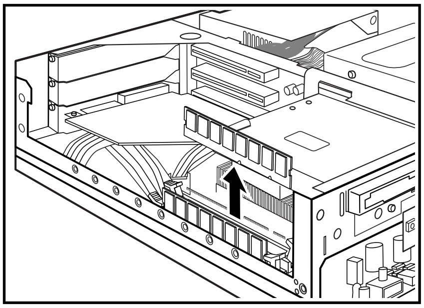
1　「本体カバーを取り外す」（☛P.78）をご覧になり、本体カバーを取り外します。

2 取り外したいメモリのメモリスロットの両側のレバーを外側に開きます。

メモリが外れます。



3 メモリを上に引き抜きます。

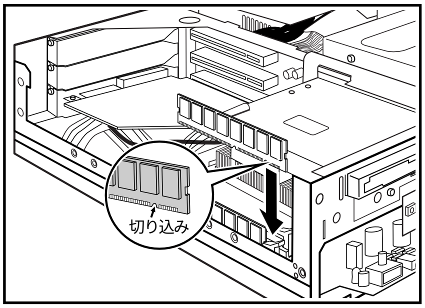


4 新しいメモリをメモリスロットに差し込みます。

端子に切り込みが入っている方をパソコン本体前面側に向けて、メモリスロットの上からまっすぐ下に差し込んでください。

メモリがメモリスロットに差し込まれると、スロット両側のレバーが自動的に閉じて、メモリがロックされます。

必ず、メモリがロックされたことを確認してください。



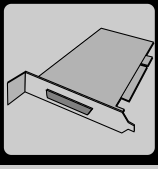
重要

メモリの方向をよく確認して正しく差し込んでください

無理に差し込むと故障の原因となります。

5 「本体カバーを取り付ける」（☛P.79）をご覧になり、本体カバーを取り付けます。

このあと、「メモリ容量を確認してください」（☛P.85）をご覧になり、交換したメモリが使える状態になっているかを確認してください。

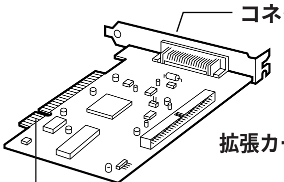


5 拡張カードを増設する

**本パソコンにさまざまな機能を追加したいときは、拡張カードを取り付けます。
ここでは、本パソコンに取り付けられる拡張カードにはどのようなものがあるか、拡張カードを取り付けるために必要なものや、必要な作業について説明します。**

拡張カードとは？

「拡張カード」は、パソコン本体内部に取り付けて、いろいろな機能を追加するためのものです。
たとえば、パソコンにビデオの画面を取り込んで編集したいとか、複数台のパソコン同士でネットワークを組んで使いたいといったときに拡張カードを増設して、それらの機能をパソコンに追加します。



代表的な拡張カードの種類

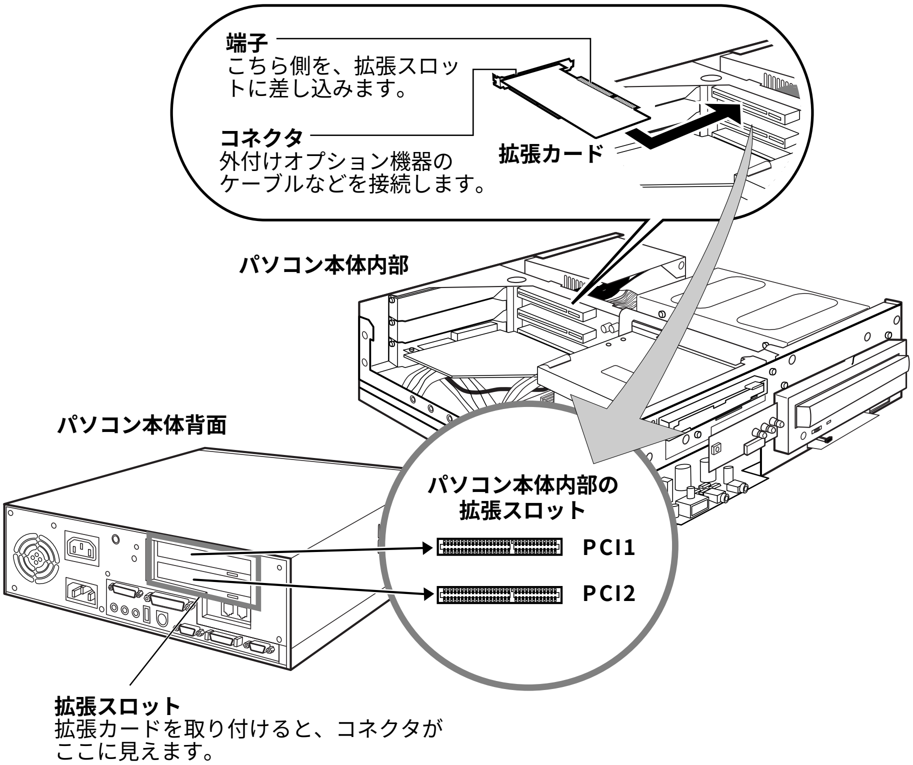
代表的な拡張カードには、次のものがあります。

- **SCSIカード**
  SCSI規格のMO（光磁気ディスク）ドライブやハードディスクなどを接続するときに必要な拡張カードです。SCSI規格のMOドライブについて詳しくは「MOドライブを増設する」（☛P.92）をご覧ください。
- **モデムカード**
  パソコン通信、インターネット、FAX送受信などを行うときに必要な拡張カードです。
  また、ボイス機能を備えているモデムカードは、留守番電話としてお使いになれます（専用のソフトウェアが必要です）。
  本パソコンには、ご購入時にあらかじめFAX／ボイスモデムカードが取り付けられています。
- **LANカード**
  複数台のパソコンやプリンタなどを接続し、データを転送したり共有したりするときに必要な拡張カードです。LANカードでパソコンやプリンタを接続するには、LANケーブルなどのLAN機材も必要となります。
- **ビデオキャプチャカード**
  このカードを使うと、ビデオの画像をパソコンのディスプレイに表示したり、画像をデータとして取り込んで加工できるようになります。カードによって、静止画だけを扱えるものと、静止画と動画の両方を扱えるものがあります。

お使いになれる拡張カード

拡張カードには、いくつかの規格があります。本パソコンでは、「PCI（ピーシーアイ）」という規格に対応した拡張カードがお使いになれます。
拡張カードは、パソコン本体内部の空いている「拡張スロット」に取り付けます。

また、拡張カードの大きさには、大きく分けて「フルサイズ」と「ハーフサイズ」の2つがあります。本パソコンでは、ハーフサイズの拡張カードのみ増設できます。



拡張スロットは、上から順にPCI1、PCI2となっています。

拡張スロット	空き状況	取り付け可能なサイズ
PCI1	空き	ハーフサイズ（170mmまで）
PCI2	空き	ハーフサイズ（150mmまで）

PCI2スロットの下にはFAX／ボイスモデムカードが搭載されています。このスロットはFAX／ボイスモデムカード専用です。

拡張カードには、「プラグアンドプレイ」というしくみに対応しているものと、対応していないものがあります。本パソコンで使えるPCI規格の拡張カードはプラグアンドプレイに対応しています。
プラグアンドプレイに対応しているPCI規格の拡張カードを増設するときは、拡張カードを取り付けて、ドライバをインストールするだけで使えるようになります。

用語

プラグアンドプレイ（Plug&Play/PnP）

プラグアンドプレイとは、パソコン本体に接続される機器の設定を自動化するためのしくみのことです。特別な設定をしなくても、拡張カードやその他の機器を接続しただけで使えるようにします。Windows98はプラグアンドプレイに対応しています。

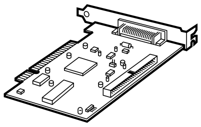
アドバイス

お使いになる拡張カードによっては

お使いになる拡張カードが必要とするリソースが、本パソコンの空いているリソースに設定できない場合や、空きリソースがない場合は、拡張カードを取り付ける前に設定が必要です。詳しくは、「リソースを解放する」(☛P.138) をご覧ください。

必要なものを用意する

拡張カードを増設するには、次のものが必要です。



PCI規格の拡張カード

拡張カードのドライバ

拡張カードによっては、添付されていないこともあります。

拡張カードのマニュアル

プラスのドライバー

重要

弊社純正品をお使いいただくことをお勧めします

純正品以外の拡張カードを取り付けて正常に動かなかったり、本パソコンが故障しても、保証の対象外となります。

拡張カードを取り付ける

ここでは、拡張カードを取り付ける方法について説明します。

警告

感電
拡張カードの取り付けや取り外しを行うときは、パソコン本体および接続されている機器の電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いたあとに行ってください。
感電・火災または故障の原因となります。

誤飲
取り外したネジなどの小さな部品は、小さなお子様が誤って飲み込むと窒息の原因となります。保護者の方は、小さなお子様の手の届かないところに置くように注意してください。
万一、飲み込んだ場合は、直ちに医師と相談してください。

注意

けが
拡張カードの取り付けや取り外しを行うときは、指定された場所以外のネジは外さないでください。
指定された場所以外のネジを外すと、けがをするおそれがあります。
また、故障の原因となることがあります。

けが
基板表面上の突起物、および指定されたスイッチ以外には手を触れないでください。
けがをするおそれがあります。また、故障の原因となることがあります。

故障
拡張カードは、弊社純正品をお使いください。
純正品以外の拡張カードをお使いになると、故障の原因となることがあります。

アドバイス

SCSI カードを取り付けるときは

SCSIカードのSCSI IDは7 番に設定してください(通常、SCSIカードはあらかじめ7番に設定されています)。詳しくは、SCSIカードのマニュアルでご確認ください。

重要

拡張カードは、Windows98 のセットアップ終了後に取り付けてください

Windows98のセットアップ(☞『取扱説明書』)を行う前に取り付けると、Windows98のセットアップが正常に行われないおそれがあります。

電源を切ったあと 10 分ほど待ってください

電源を切った直後は、パソコン本体内部の装置が熱くなっています。

拡張カードを取り付けるときは、電源を切り、すべての機器の電源プラグをコンセントから抜いたあと 10 分ほど待ってから、作業を始めてください。

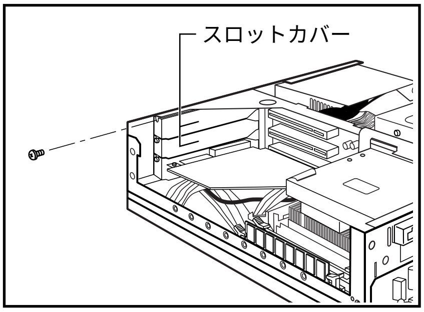
拡張カードはしっかりと差し込んでください

拡張カードを取り付けるときは、拡張カードが拡張スロットに完全に差し込まれていることを確認してください。

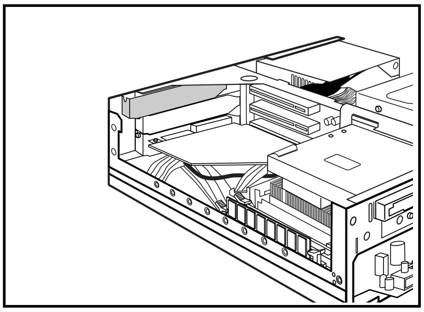
完全に差し込まれていないと、拡張カードのドライバのインストールが正常に行われなかったり、故障の原因となることがあります。

1 **「本体カバーを取り外す」(☞P.78)をご覧になり、本体カバーを取り外します。**

2 **スロットカバーを固定しているネジを外します。**

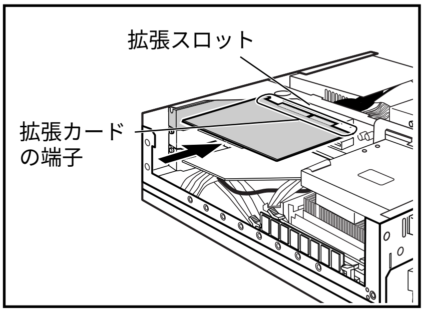


3 **スロットカバーを取り外します。**



4 **拡張スロットに、拡張カードを差し込みます。**

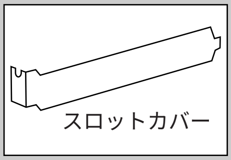
拡張カードの端子を、拡張スロットの奥まで完全に差し込んでください。



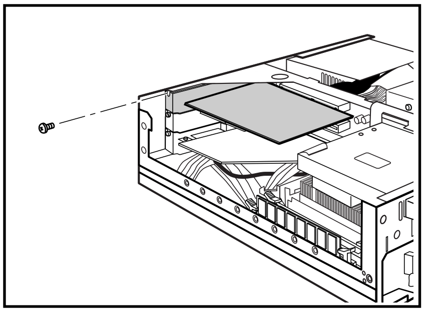
アドバイス

スロットカバーは保管してください

取り外したスロットカバーは捨てずに保管してください。拡張カードを取り外した場合は、スロットカバーを取り付けてください。



5 **手順2で外したネジで拡張カードを取り付けます。**



6 **「本体カバーを取り付ける」(☞P.79)をご覧になり、本体カバーを取り付けます。**

7 **パソコン本体の電源を入れ、拡張カードのマニュアルをご覧になり、画面の指示に従ってドライバをインストールしてください。自動的にドライバがインストールされる場合もあります。**

拡張カードにフロッピーディスクやCD-ROMが添付されている場合、パソコン本体の電源を入れると、「フロッピーディスクやCD-ROMをセットしてください」というメッセージが表示されることがあります。画面の指示に従ってフロッピーディスクまたはCD-ROMをセットし、ドライバをインストールしてください。

アドバイス

「コンピュータを終了しますか?」というメッセージが表示されたら

「はい」をクリックしてください。パソコン本体の電源が切れます。10秒ほど待ってから、もう一度パソコン本体の電源を入れてください。ドライバのインストールが完了します。

6 MO ドライブを増設する

MO（光磁気ディスク）ドライブを増設すると、本パソコンで MO がお使いになれます。MO を使うとフロッピーディスクと比べて大量のデータを保存できます。

MOとは？

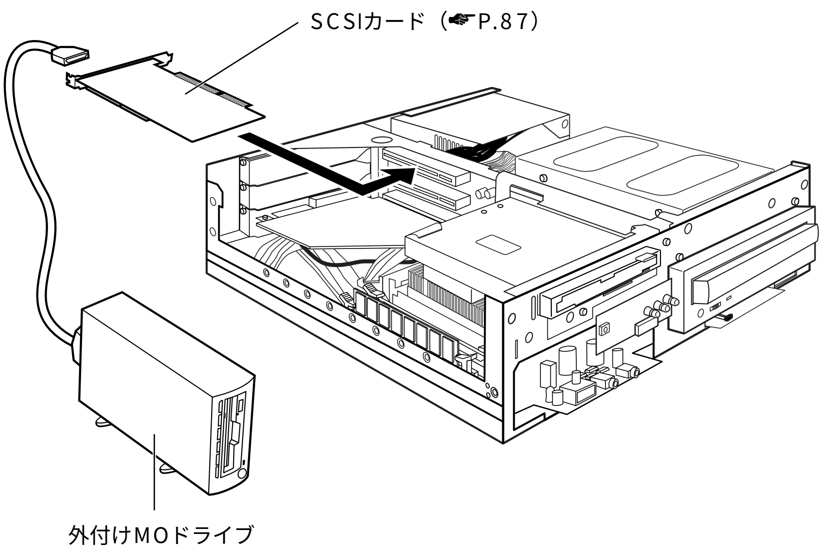
MO（エムオー）ドライブとは、レーザーと磁気で MO（光磁気ディスク）にデータを書き込み、レーザーで読み出しを行う記憶装置です。
MO は、フロッピーディスクと比べて、大量のデータを保存できます。128MB、230MB、540MB、640MB、1.3GBの容量のものが市販されています。フロッピーディスクと同じように、フォーマットしてからお使いください。
お使いになる MO ドライブによって、対応している容量が異なります。お使いになる目的に応じた容量の MO ドライブをご購入ください。

お使いになれる MO ドライブ

用語

SCSI（スカジー）
機器の接続に関する規格のひとつです。SCSI 規格の機器には、MO ドライブのほかに、スキャナやハードディスクなどがあります。

MO ドライブには、パソコン本体に内蔵のものと、外付けのものがあります。本パソコンでは、SCSI 規格の外付け MO ドライブを増設できます。内蔵 MO ドライブはお使いになれません。
SCSI 規格の MO ドライブを使うには、SCSI カードという拡張カードが必要です。



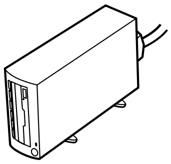
必要なものを用意する

外付け MO ドライブを取り付けるときには、次のものが必要です。

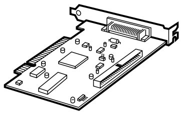
重要

弊社純正品をお使いいただくことをお勧めします

純正品以外の外付け MO ドライブ、SCSI カード、SCSI ケーブル、終端抵抗を取り付けて正常に動かなかったり、本パソコンが故障しても、保証の対象外となります。

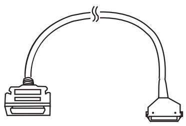


SCSI 規格の外付け MO ドライブ



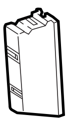
SCSI カード（☞P.87）

SCSI 規格の外付け MO ドライブを取り付けるときに必要な拡張カードです。



SCSI ケーブル

SCSI カードと外付け MO ドライブを取り付けるときに必要なケーブルです。SCSI規格のコネクタには数種類あります。お使いになる SCSI カードと外付け MO ドライブに合ったものをよくご確認のうえご購入ください。



終端抵抗（ターミネータ）

電気信号が、SCSIケーブルを正しく伝わるようにするためのものです。外付け MO ドライブには、別売りの終端抵抗を取り付けます。SCSI規格のコネクタは数種類あります。コネクタの形状をご確認のうえご購入ください。詳しくは「コラム」（☞P.94）をご覧ください。

外付け MO ドライブと SCSI カードのマニュアル

コラム

終端抵抗（ターミネータ）とは

SCSI規格のオプション機器は数珠つなぎに接続できます。その際、両端となる機器にそれぞれ終端抵抗を取り付ける必要があります。
たとえば、SCSI規格の外付けMOドライブを1台増設した場合は、SCSIカードと外付けMOドライブが両端となります。
SCSIカードには、通常、終端抵抗が内蔵されていますので、終端抵抗を新たに取り付ける必要はありません。ただし、SCSIカード上のジャンパスイッチなどで、終端抵抗を有効、または無効に設定する必要のあるものもあります。

外付けMOドライブを取り付ける

警告

感電
外付けMOドライブの取り付けや取り外しを行うときは、パソコン本体および接続されている機器の電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いたあとに行ってください。
感電の原因となります。

誤飲
取り外したネジなどの小さな部品は、小さなお子様が誤って飲み込むと窒息の原因となります。保護者の方は、小さなお子様の手の届かないところに置くように注意してください。
万一、飲み込んだ場合は、直ちに医師と相談してください。

注意

故障
- **ケーブルは正しく接続してください。誤った接続状態でお使いになると、パソコン本体が故障する原因になることがあります。**
- **外付けMOドライブは、弊社純正品をお使いください。**
  純正品以外のMOドライブをお使いになると、故障の原因となることがあります。

けが
外付けMOドライブの取り付けを行うときは、指定された場所以外のネジは外さないでください。
指定された場所以外のネジを外すと、けがをするおそれがあります。また、故障の原因となることがあります。

重要

SCSIカードと外付けMOドライブは、Windows98のセットアップ終了後に取り付けてください

Windows98のセットアップ（☞『取扱説明書』）を行う前に取り付けると、Windows98のセットアップが正常に行われないおそれがあります。

1 外付けMOドライブとSCSIカードのSCSI IDを設定します。

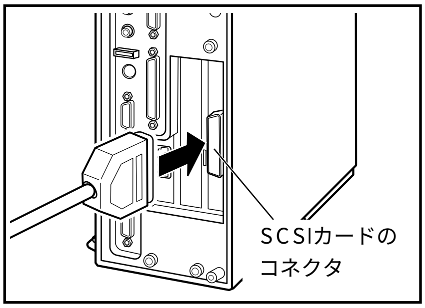
SCSI規格では複数の機器を接続できます。それらの機器を区別するために付ける番号が「SCSI ID」です。SCSI IDは0から7番までの番号があります。
SCSIカードには、通常7番が設定されています。SCSI IDが設定されていないSCSIカードをお使いになるときは、SCSI IDを7番に設定してください。
外付けMOドライブは、それ以外の番号（0～6番）を設定してください。
設定のしかたについては、SCSIカードと外付けMOドライブのマニュアルをご覧ください。

2　SCSIカードを取り付けます。

取り付けかたなどについて詳しくは、「拡張カードを増設する」(☞P.87)をご覧ください。

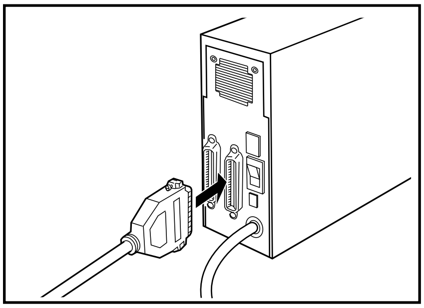
3　SCSIカードのコネクタに、SCSIケーブルを接続します。

SCSIケーブルの片方のコネクタを、パソコン本体背面にあるSCSIカードのコネクタに接続します。



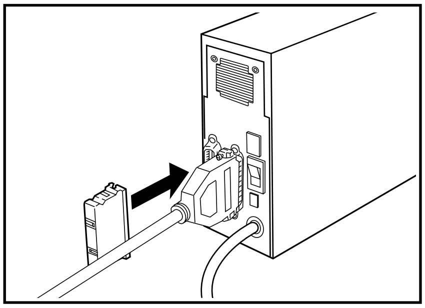
> **アドバイス**
> **コネクタにIN/OUTの指定がないときは**
> 外付けMOドライブによってはコネクタにIN/OUTの指定がないものもあります。そのときは、どちら側に接続してもかまいません。

4　外付けMOドライブのINコネクタに、SCSIケーブルのもう片方のコネクタを接続します。



5　外付けMOドライブに終端抵抗を取り付けます。

外付けMOドライブのOUTコネクタに終端抵抗を取り付けます。



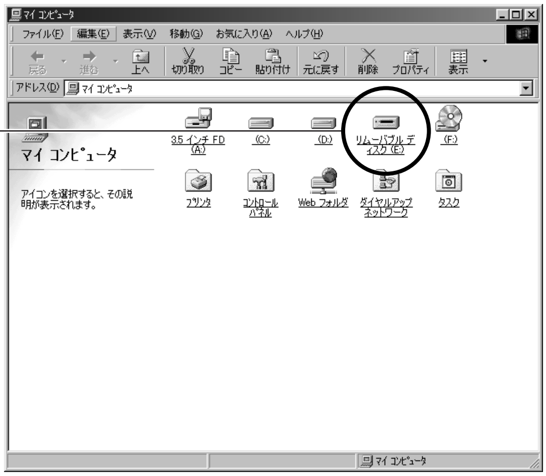
6　外付けMOドライブに電源ケーブルを接続します。

外付けMOドライブに電源ケーブルがつながっている場合もあります。詳しくは、外付けMOドライブのマニュアルをご覧ください。

7　本パソコンと、接続されている機器、接続した外付けMOドライブの電源プラグをコンセントに差し込みます。

MO ドライブを増設すると

MO ドライブを増設すると、ドライブ名が変更されます。DVD-ROM ドライブや CD-ROM ドライブのドライブ名も変更されます。



ドライブ名はお使いの状況によって異なります。
この画面は、MO ドライブを 1 台増設した場合です。

7 その他のオプション機器を使う

ハードディスクを増設する

パソコンを使い込んでいくうちに、アプリケーションをたくさんインストールしたり、容量の大きな画像データなどをたくさん保存したりして、あらかじめ取り付けられているハードディスクの空き容量が少なくなることがあります。
そのようなときには、ファイルやデータを整理して空き容量を増やすのも1つの方法ですが、さらに別売りのハードディスクを増設して、保存できる容量を増やすという方法もあります。

本パソコンにはあらかじめIDE規格のハードディスクが1台内蔵されています。
さらに、SCSIカードを取り付けることにより、SCSI規格の外付けハードディスクを増設できます。

用語

IDE（アイディーイー）
ハードディスクやDVD-ROMドライブ、CD-ROMドライブなどの内蔵ドライブの規格の1つです。

SCSI（スカジー）
機器の接続に関する規格のひとつです。SCSI規格の機器には、ハードディスクのほかに、スキャナやMOドライブなどがあります。

必要なものを用意する

ハードディスクを使うには、次のものが必要です。

- **SCSI規格の外付けハードディスク**
  ハードディスクには、パソコン本体に内蔵のものと、外付けのものがあります。本パソコンでは、外付けハードディスクが取り付けられます。内蔵ハードディスクはお使いになれません。
- **SCSIカード、SCSIケーブル、終端抵抗（ターミネータ）**
  外付けハードディスクを使うために必要なものです。
  終端抵抗（ターミネータ）は、内蔵されている場合もあります。
  SCSIカード、SCSIケーブル、終端抵抗（ターミネータ）について詳しくは、「MOドライブを増設する」の「必要なものを用意する」（☛P.93）をご覧ください。

ハードディスクを使うには

SCSI規格の外付けハードディスクを使うには、SCSIカードという拡張カードをパソコン本体内部に取り付けます。取り付けかたについては、「拡張カードを取り付ける」（☛P.89）をご覧ください。
SCSIカードを取り付けたあと、SCSIケーブルでSCSIカードと外付けハードディスクをつなぎます。外付けハードディスクには、終端抵抗（ターミネータ）という器具を取り付けます。接続方法などについては、「MOドライブを増設する」（☛P.92）を参考にしてください。また、外付けハードディスクのマニュアルもあわせてご覧ください。
取り付けた外付けハードディスクを使えるようにするためには、「領域を設定する」と「フォーマットする」作業が必要になります。

領域を設定する

アドバイス

領域を分けると

それぞれの領域が1つ1つのドライブになります。たとえば、増設したハードディスクを2つの領域に分けると、2つのドライブができ、1台のハードディスクが2台のハードディスクであるかのように扱えます。

初めてハードディスクを取り付けたときは、取り付けたあとにハードディスクの領域を設定します。領域の設定は、増設したハードディスクを使えるようにするための作業です。

また、この作業では、増設したハードディスクをいくつかの領域に分けることもできます。

増設したハードディスクの領域を分けるか分けないかは、お使いになりやすいほうを選んでください。

ここでは、ハードディスクを1台増設した場合の領域の設定のしかたを説明します。

重要

ドライブ名が変更されます

ハードディスクを増設して本書の手順に従って領域の設定を行うと、Eドライブ以降（基本MS-DOS領域を作成する場合はDドライブ以降）のドライブ名が変更されます。DVD-ROMドライブやCD-ROMドライブのドライブ名も変更されます。

お使いのソフトウェアによっては、ドライブ名の修正が必要になることがあります。詳しくは、ソフトウェアのマニュアルをご覧ください。

保存されていたデータが失われます

領域を設定し直すと、そのハードディスクに保存されていたデータは失われてしまいます。使っていたハードディスクの領域を設定し直すときは、フロッピーディスクや他のハードディスクなどにバックアップをとるなどしてから、領域を設定してください。

1. **外付けハードディスクと、パソコン本体の電源を入れます。**
   パソコン本体の電源を入れる前に、外付けハードディスクの電源を入れてください。
2. **アプリケーションを終了させ、スクリーンセーバーを解除します。**
   タスクバーにアイコン表示されている「FM便利ツール」などの常駐しているアプリケーションも終了させてください。
3. **「スタート」ボタンをクリックし、「プログラム」にマウスポインタを合わせ、「MS-DOS プロンプト」をクリックします。**
4. **「C:\WINDOWS>」に続けて fdisk と入力して、【Enter】を押します。**
   「大容量ディスクのサポートを使用可能にしますか？」というメッセージが表示されます。
5. **【Y】を押して、【Enter】を押します。**
6. **【5】を押して「5.現在のハードディスクドライブを変更」を選び、【Enter】を押します。**
   「ハードディスクドライブの番号を入力してください」というメッセージが表示されます。

アドバイス

領域の設定を中断するには

1 Esc を押します。

2 「C:\WINDOWS>」と表示されたら、「MS-DOS プロンプト」ウィンドウ右上の ✕（閉じるボタン）をクリックします。

アドバイス

「5.現在のハードディスクドライブを変更」が表示されていないときは

領域の設定を中断し、次のことを確認してください。
- 外付けハードディスクが正しく接続されているか
- 外付けハードディスクの場合は、電源が入っているか

それでも、「5.現在のハードディスクドライブを変更」が表示されていないときは

1 **「スタート」ボタンをクリックし、「設定」にマウスポインタを合わせ、「コントロールパネル」をクリックします。**

2 **（システム）をクリックし、「デバイスマネージャ」タブをクリックします。**

3 **「ディスクドライブ」の＋をクリックし、増設したハードディスクをクリックします。**
「ディスクドライブ」内の「GENERIC IDE DISK TYPEXX」と「GENERIC XXX FLOPPY DISK」と表示されている以外のものが増設したハードディスクです。

4 **「プロパティ」をクリックし、「設定」タブをクリックします。**

5 **「オプション」欄の「Int13 ユニット」が☑になっていることを確認し、「OK」をクリックします。**
□になっているときは、□をクリックして☑にし、「OK」をクリックしてください。

6 **「OK」または「閉じる」をクリックします。**
「システム設定の変更」ウィンドウが表示された場合は、「はい」をクリックして本パソコンを再起動してください。

7 **もう一度手順 2（☞P.98）から操作し直します。**

7 **2 を押して増設したハードディスクを選び、Enter を押します。**
ディスク 1 は、ご購入時に本パソコンに内蔵されているハードディスクです。
ディスク 2 が増設したハードディスクです。

8 **「現在のハードディスク」が「2」になっていることを確認し、1 を押して「1.MS-DOS 領域または論理 MS-DOS ドライブを作成」を選び、Enter を押します。**

9 **2 を押して「2.拡張 MS-DOS 領域を作成」を選び、Enter を押します。**
「ディスクの総容量は... 拡張 MS-DOS 領域を作ります.」というメッセージが表示されます。

10 **Enter を押します。**
増設したハードディスクによっては、「領域に割り当て可能な最大領域」が「ディスクの総容量」より少なく表示される場合があります。
「拡張 MS-DOS 領域を作成しました .」というメッセージが表示されます。

11 **Esc を押します。**

12 **ここでは、増設したハードディスクの領域を分けるか分けないかによって、操作手順が異なります。**

▶ 領域を分けない場合	☞ そのまま Enter を押して、手順 14 へ
▶ 領域を分ける場合	☞ 1 つ目の領域に設定したい容量を数字キーで入力し、Enter を押します。「論理 MS-DOS ドライブを作成しました . ドライブ名は変更または追加されました .」というメッセージが表示されます。

> **アドバイス**
> **容量を入力するときに**
> 単位は「MB」または「%」で入力してください。「MB」で指定する場合は「XXXX」と数字のみを入力します。「%」で指定する場合は、「XX%」と単位を付けて入力します。
> 画面に表示されている「割り当て可能な最大領域」の数値を目安に、それ以下の数値を入力してください。「MB」で指定した場合は、入力した値と画面に表示される値が若干異なることがあります。

13　2つ目の領域に設定したい容量を数字キーで入力し、【Enter】を押します。この手順を繰り返すと、さらに領域を分けることができます。

表示されている数値を確認し、そのまま【Enter】を押してもかまいません。表示されている数値が、分けた領域の容量となります。
領域をすべて分け終わると、「拡張MS-DOS領域の使用可能な領域はすべて論理ドライブに割り当てられています.」というメッセージが表示されます。

14　【Esc】を押します。

15　【Esc】を押します。

「変更を有効にするには，コンピュータを再起動してください.」というメッセージが表示されます。

16　【Esc】を押します。

「C:\WINDOWS>」と表示されます。

17　「MS-DOSプロンプト」ウィンドウ右上の【×】（閉じるボタン）をクリックします。

「MS-DOS プロンプト」ウィンドウを全画面表示しているときは、exitと入力し、【Enter】を押してください。

18　「スタート」ボタンをクリックし、「Windowsの終了」をクリックします。

19　「再起動する」をクリックし、「OK」をクリックします。

本パソコンが再起動します。

続いて、増設したハードディスクをフォーマットします。

フォーマットする

> **アドバイス**
> **アプリケーションを終了させ、スクリーンセーバーを解除してください**
> ハードディスクのフォーマットを行う前に、常駐しているアプリケーション（「FM便利ツール」など、タスクバーにアイコン表示されているアプリケーション）を終了させてください。

領域の設定を行ったあとに、フォーマットする必要があります。フォーマットすると、増設したハードディスクにデータを読み書きできるようになります。
また、フォーマット済みのものを増設した場合も、領域を設定し直すとフォーマットが無効になります。あらためてフォーマットし直してください。

> **重要**
> **フォーマットするとデータは失われます**
> ハードディスクのフォーマットを行うと、そのハードディスクの内容はすべて失われます。あらかじめ取り付けられていたハードディスクを誤ってフォーマットしないようにご注意ください。

1　デスクトップの（マイコンピュータ）をクリックします。

アドバイス

どのドライブが増設したハードディスクのものか調べてください

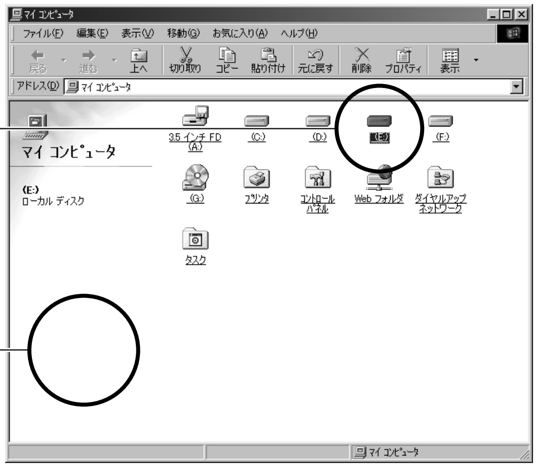
フォーマットされていないハードディスクのドライブ（ ）を反転表示させたとき、「マイコンピュータ」ウィンドウの左端のローカルディスクの欄は何も表示されません。
あらかじめ取り付けられていたハードディスクのドライブ（ ）を反転表示させると、ローカルディスクの欄に円グラフが表示されます。

「アクセスできません。」と表示されたときは

増設したハードディスクのドライブのアイコンをクリックしてしまうと、「アクセスできません。」というメッセージが表示されます。メッセージが表示されたら「キャンセル」をクリックしてください。

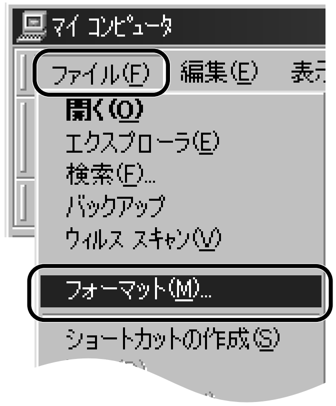
2 増設したハードディスクのドライブ（ ）にマウスポインタを合わせます。

マウスポインタが から に変わり、選んだドライブのアイコンが反転表示されます。

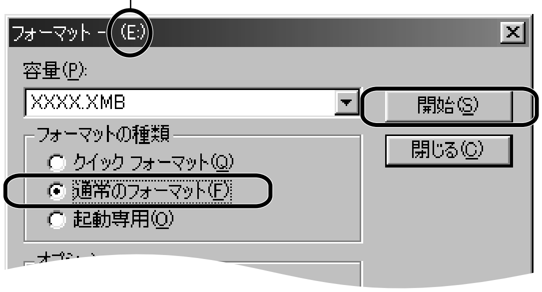


増設したハードディスクのドライブ名は、領域の設定でハードディスクの領域をいくつに分けたかによって異なります。
上の画面は、ハードディスクを1台増設し、本書の手順に従って、増設したハードディスクの領域（拡張 MS-DOS 領域）を 2 つに分けた場合です。

3 「ファイル」メニューの「フォーマット」をクリックします。



4 「フォーマットの種類」の「通常のフォーマット」の をクリックして にし、「開始」をクリックします。



5 **「OK」をクリックします。**

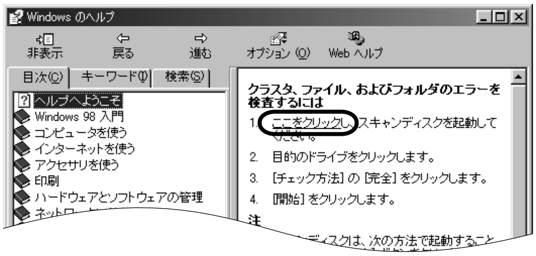
フォーマットが始まります。

6 **フォーマット結果を確認したあと、「閉じる」をクリックします。**

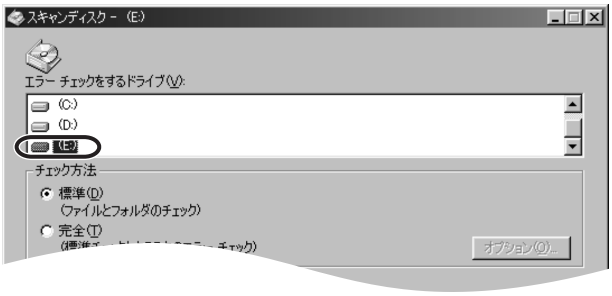
7 **「OK」をクリックします。**

8 **増設したハードディスクに、スキャンディスクを実行します。**

スキャンディスクは、ディスクの表面にエラーがないかを調べます。
ヘルプ画面の「ここをクリック」をクリックしてください。



9 **「エラーチェックをするドライブ」でチェックするドライブを選びます。**



10 **「チェック方法」の「完全」の○をクリックして◉にし、「開始」をクリックします。**

スキャンディスクが始まります。しばらくすると、スキャンディスクが終了し、「結果レポート」が表示されます。

11 **「結果レポート」ウィンドウの内容を確認し、「閉じる」をクリックします。**

12 **「スキャンディスク」ウィンドウの「閉じる」をクリックします。**

13 **「Windowsのヘルプ」ウィンドウの右上の×(閉じるボタン)をクリックします。**

14 **「フォーマット」ウィンドウの「閉じる」をクリックします。**

15 **「マイコンピュータ」ウィンドウの右上の×(閉じるボタン)をクリックします。**

アドバイス

エラーが検出されたときは

スキャンディスクの途中で、ハードディスクにエラーが検出された場合は、画面の指示に従ってエラーを修復してください。

アドバイス

領域を2つ以上に分けたときは

手順2〜14を繰り返し、増設したハードディスクのすべての領域をフォーマットしてください。

複数のディスプレイを使う

Windows98には、1台のパソコンに複数のグラフィックスカードとディスプレイを接続して、複数台のディスプレイで1つのデスクトップを表示できる「マルチモニタ機能」があります。
ここでは、例として、2台のディスプレイでマルチモニタ機能を使うために必要なものと、実際に行う作業について説明します。

必要なものを用意する

マルチモニタ機能を使うには、本パソコンのほかに次のものが必要です。

- マルチモニタ機能に対応しているPCI規格のグラフィックスカード
- 用意したグラフィックスカード用のディスプレイドライバ
（マルチモニタ機能対応のもの）
- 上記のグラフィックスカード、ディスプレイドライバに対応したディスプレイ

重要

グラフィックスカードを選ぶときの注意

- AGP規格、ISA規格のグラフィックスカードは、本パソコンには拡張スロットがないため、お使いになれません。
- Windows98に対応しているグラフィックスカードであっても、添付されているディスプレイドライバがマルチモニタ機能には対応していない場合があります。
マルチモニタ機能に対応しているか製造元のメーカーにご確認ください。

グラフィックスカードとディスプレイを接続する

グラフィックスカードを取り付けてディスプレイを接続し、ディスプレイドライバをインストールします。

1 **「拡張カードを取り付ける」（☞P.89）をご覧になり、グラフィックスカードを本パソコンに取り付けます。**

2 **取り付けたグラフィックスカードに、2台目のディスプレイを接続します。**
接続方法については、ディスプレイとグラフィックスカードのマニュアルをご覧ください。

3 **ディスプレイの電源ケーブルを接続します。**
接続方法については、ディスプレイのマニュアルをご覧ください。

4 **接続したディスプレイと、パソコン本体の電源を入れます。**

5 **ディスプレイドライバをインストールします。**
グラフィックスカードのマニュアルをご覧になり、新たに取り付けたグラフィックスカードのディスプレイドライバをインストールしてください。ドライバをインストールしたあと、本パソコンを再起動してください。

アドバイス

画面が正しく表示されないときは

お使いのグラフィックスカードによっては、本パソコンにあらかじめ接続されているディスプレイの画面が正しく表示されない場合があります。その場合は、「ディスプレイドライバをインストールする」（☞P.141）をご覧になり、ディスプレイドライバを再インストールしてください。

マルチモニタ機能を設定する

ディスプレイドライバをインストールし、本パソコンを再起動したあと、次の操作を行ってください。

1 **「スタート」ボタンをクリックし、「設定」にマウスポインタを合わせ、「コントロールパネル」をクリックします。**

2 **（画面）をクリックします。**
「画面のプロパティ」ウィンドウが表示されます。

3 **「設定」タブをクリックします。**

4 **「2」と書かれたディスプレイをクリックして選びます。**



「このモニタを使用可能にしますか？」というメッセージが表示されます。

5 **「はい」をクリックします。**

6 **接続したディスプレイの解像度と発色数を設定します。**
解像度と発色数の設定のしかたについては、「画面の解像度や発色数を変える」（☞P.53）をご覧ください。
変更可能な解像度や発色数はグラフィックスカードのマニュアルをご覧ください。

アドバイス

接続したディスプレイによっては

ディスプレイの設定作業が必要な場合があります。詳しくは、『トラブル解決Q&A』の「画面が乱れる」をご覧ください。

アドバイス

プライマリディスプレイとセカンダリディスプレイ

パソコン本体の電源を入れると、起動画面はプライマリディスプレイに表示されます。
プライマリディスプレイは、「設定」タブで「1」と表示され、セカンダリディスプレイは「2」と表示されます。
本パソコンでは、あらかじめ接続されているディスプレイがセカンダリディスプレイとなり、増設したグラフィックスカードに接続したディスプレイがプライマリディスプレイになります。

第 4 章

BIOS セットアップ

**BIOS セットアップの設定方法や、パスワードの設定方法などについて説明しています。
BIOS セットアップは、本パソコンのハードウェアとしての状態を設定するためのソフトウェアです。**

**日常的にお使いになる範囲では、BIOS セットアップを操作する必要はありません。設定が必要な場合のみ、お読みください。正しく設定しないと本パソコンが正常に動作しなくなることもあります。
また、BIOS セットアップの画面、項目名、仕様は、改善のため予告なく変更することがあります。あらかじめご了承ください。**

1 BIOS セットアップとは

BIOS（バイオス）セットアップはメモリやハードディスク、フロッピーディスクドライブなどのハードウェアの環境を設定するためのソフトウェアです。
本パソコンでは、あらかじめ最適な状態に設定されています。次のような場合にのみ設定を行ってください。

- **特定の人だけが本パソコンを利用できるように、本パソコンにパスワード（暗証番号）を設定するとき**
- **メモリやシリアルポートなどの働きを設定するとき**
- **省電力モード（電源を入れた状態で一定時間使わなかったときに、消費する電力を減らして待機している状態）を変更するとき**
- **電源を入れたとき、または再起動したときに、BIOS セットアップに関するメッセージが表示されたとき**

アドバイス

バッテリの交換について

BIOSセットアップで設定した内容は、パソコン本体内部のCMOS RAM（シーモス ラム）と呼ばれるメモリに記録されます。このCMOS RAMは、記録した内容をバッテリによって保存しています。BIOS セットアップを正しく行っても、電源を入れたとき、または再起動したときに、BIOS セットアップに関するメッセージが表示されるときは、このCMOS RAMに設定内容が保存されていないおそれがあります。バッテリが消耗していることが考えられますので、弊社パーソナルエコーセンター、FM インフォメーションサービスまたはご購入元にご連絡ください。
パーソナルエコーセンターのご利用については、『富士通パソポート ご案内』をご覧ください。

2 BIOS セットアップの操作のしかた

ここでは、BIOS セットアップの始めかた、終わりかた、設定の変更のしかたについて説明します。

BIOS セットアップを起動する

1 それまで本パソコンで行っていた作業を終了します。

必要に応じてデータを保存し、アプリケーションを終了してください。

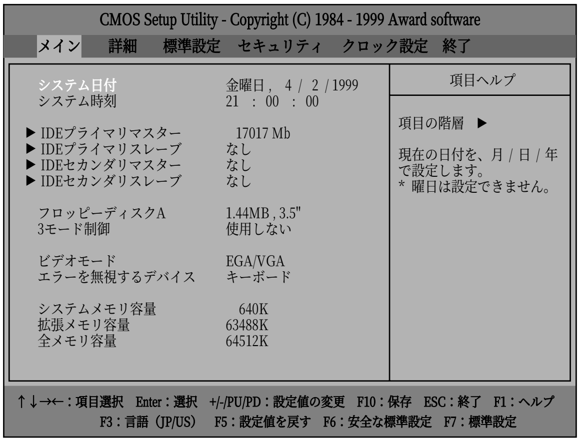
2 「スタート」ボタンをクリックして、「Windowsの終了」をクリックします。

3 「再起動する」をクリックし、「OK」をクリックします。

本パソコンが再起動します。

4 画面左下に「<TAB>：自己診断画面　<F2>：BIOS セットアップ　<F12>：起動メニュー」と表示されている間に、F2 を押します。

BIOS セットアップの「メイン」メニューが表示されます。



アドバイス

BIOSセットアップを始められないときは

Windows98 が起動してしまうと、BIOS セットアップを始められません。Windows98 が完全に起動するのを待ってから、もう一度手順 2 ～ 4 の操作を行ってください。

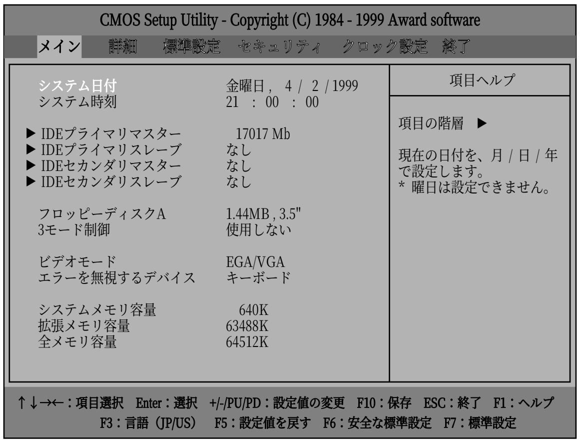
英語の画面が表示されたときは

F3 を押して、日本語の画面に変えてください。

設定を変更する

BIOS セットアップは、キーボードを使ってすべての操作を行います。

1 [←] [→] **を押して、設定を変更したいメニューにカーソルを合わせます。**

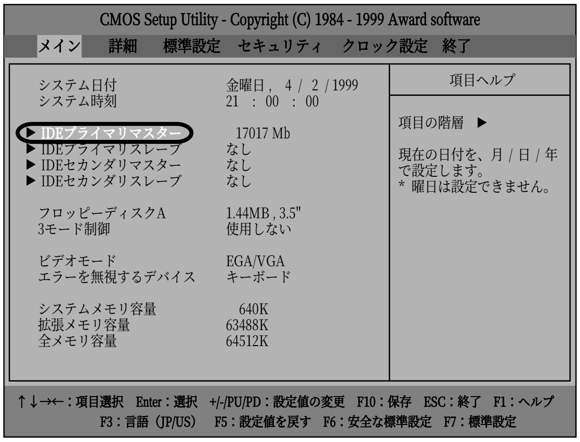


（画面は一例です）

2 [↑] [↓] **を押して、設定を変更したい項目にカーソルを合わせます。**

▶の付いている項目はサブメニューがあることを表します。

▶の付いている項目にカーソルを合わせて [Enter] を押すと、サブメニューが表示されます。



（画面は一例です）

アドバイス

数値を入力する項目もあります

項目の中には、数値を入力するものもあります。詳しくは「標準設定値一覧」(☞P.112) をご覧ください。

誤って変更してしまった設定を前回保存したときの設定に戻すには

前回保存したときの設定に戻すことができます。ただし、変更した設定をいったん保存した場合は、保存した設定に戻ります。

1 **[↑] [↓] [←] [→] を押して、変更を取り消したい項目を選びます。**

2 **[F5] を押します。**

保存した設定をご購入時の状態に戻すには、「ご購入時の設定に戻す」(☞P.111) をご覧ください。

3 **[+] [−] または [Page Up] [Page Down] を押して、設定を変更します。**

画面の右に、各設定値の説明が表示されます。参考にしてください。
さらに他のメニューの設定を変更したいときは、手順 1 から繰り返します。

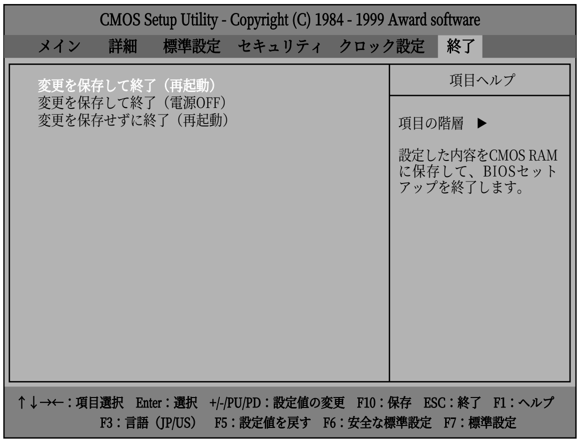
BIOS セットアップを終了するときは、「BIOS セットアップを終了する」(☞P.110) をご覧ください。

設定時に使う各キーの役割

- [F1]：一般ヘルプ画面を表示します。一般ヘルプ画面は、BIOS セットアップの操作で使用するキーについて説明しています。ヘルプを閉じるにはもう一度 [F1] を押すか、[Esc] を押します。
- [F3]：言語（Language）を日本語、または英語に切り替えます。
- [F5]：各項目の設定を、前回保存した値に戻します。
- [F6]：システムを拡張などして本パソコンの動作が不安定になった場合、システムが安全に起動する設定値を読み込みます。
- [F7]：すべての設定を、本パソコンのご購入時の状態（標準設定値）に戻します。
- [F10]：変更した内容を保存して、BIOS セットアップを終了します。
- [Esc]：前画面に戻ります。各メニューが表示されているときは、メインメニューに戻ります。
メインメニューが表示されているときは、BIOS セットアップを終了するメッセージが表示されます。
- [Enter]：▶ が付いている項目のサブメニューを表示したり、設定項目一覧を表示します。
- [↑] [↓] [←] [→]：設定するメニューや項目にカーソルを移動します。
- [+] [−] [Page Up] [Page Down]：設定を変更します。

BIOS セットアップを終了する

1 **各メニューの設定を終了し、[←] [→] を押して「終了」メニューを表示します。**



2 **▶ 設定を保存して BIOS セットアップを終了し、再起動する場合**

☛ [↑] [↓] を押して、「変更を保存して終了（再起動）」にカーソルを合わせ、[Enter] を押します。次のウィンドウが表示されます。

変更した内容を保存して終了しますか（再起動）［はい（Y）／いいえ（N）］？

▶ 設定を保存して BIOS セットアップを終了し、電源を切る場合

☛ [↑] [↓] を押して、「変更を保存して終了（電源 OFF）」にカーソルを合わせ、[Enter] を押します。次のウィンドウが表示されます。

変更した内容を保存して終了しますか（電源OFF）［はい（Y）／いいえ（N）］？

▶ 設定を保存しないで BIOS セットアップを終了し、再起動する場合

☛ [↑] [↓] を押して、「変更を保存せずに終了（再起動）」にカーソルを合わせ、[Enter] を押します。次のウィンドウが表示されます。

変更した内容を保存しないで終了しますか（再起動）［はい（Y）／いいえ（N）］？

3 **[Y] を押し、[Enter] を押します。**

BIOS セットアップが終了します。

3 ご購入時の設定に戻す

BIOS セットアップの設定をご購入時の状態（標準設定値）に戻す方法は次のとおりです。

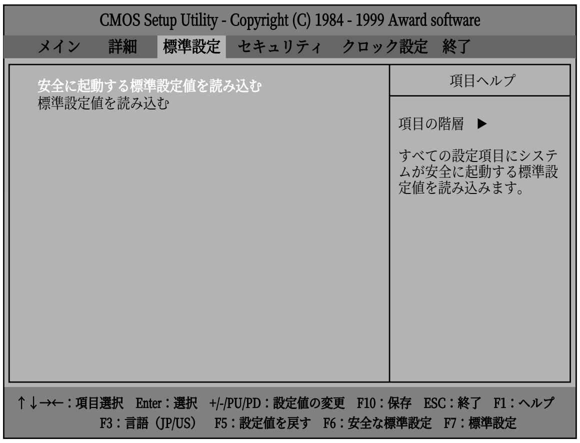
アドバイス

ジャンパスイッチを変更した場合

日付と時刻の設定が必要です。
「メイン」の「システム日付」と「システム時刻」で現在の日時を入力してください。

1　各メニューの設定を終了し、[←] [→] を押して「標準設定」メニューを表示します。

BIOS セットアップを起動していない場合は、「BIOS セットアップを起動する」（☞P.107）をご覧になり、BIOS セットアップを起動してください。



2　[↑] [↓] を押して、「標準設定値を読み込む」にカーソルを合わせ、[Enter] を押します。

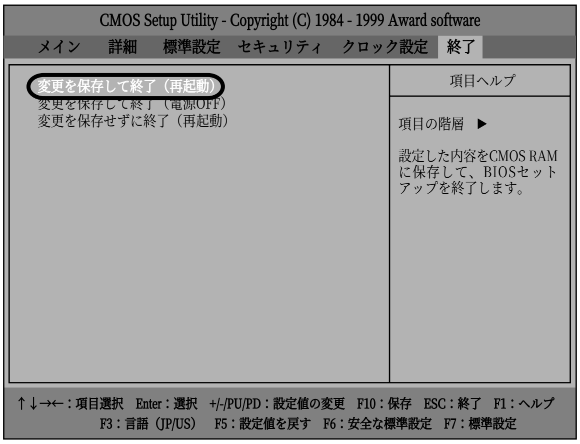
次の画面が表示されます。

標準設定値を読み込みますか　［はい（Y）／いいえ（N）］？

3　[Y] を押し、[Enter] を押します。

設定がご購入時の状態に戻ります。

4　[←] [→] を押して「終了」メニューを表示します。



5 **[↑] [↓] を押して、「変更を保存して終了」にカーソルを合わせ、[Enter] を押します。**

次の画面が表示されます。

変更した内容を保存して終了しますか（再起動）［はい（Y）／いいえ（N）］？

6 **[Y] を押し、[Enter] を押します。**

BIOS セットアップが終了し、Windows98 が起動します。

標準設定値一覧

ご購入時に設定されている値は、次のとおりです。

●メインメニュー

項目		標準設定値	備考
システム日付		ー	現在の日付が表示されます
システム時刻		ー	現在の時刻が表示されます
IDE プライマリマスター		17017MB	C2/55L, C2/50L, C2/507
		13602MB	C2/46L, C2/465
	ハードディスクの自動検出	ー	
	タイプ	自動	
	（最大容量）	17017MB	C2/55L, C2/50L, C2/507
		13602MB	C2/46L, C2/465
	アクセスモード	自動	
	シリンダ数	ー	
	ヘッド数	ー	
	仮書き込みシリンダ	ー	
	ヘッドの退避シリンダ	ー	
	セクタ数	ー	
IDE プライマリスレーブ		なし	サブメニュー項目はIDEプライマリマスターを参照
IDE セカンダリマスター		なし	サブメニュー項目はIDEプライマリマスターを参照
IDE セカンダリスレーブ		なし	サブメニュー項目はIDEプライマリマスターを参照
フロッピーディスク A		1.44MB,3.5"	
3 モード制御		使用しない	
ビデオモード		EGA/VGA	
エラーを無視するデバイス		キーボード	
システムメモリ容量		ー	
拡張メモリ容量		ー	
全メモリ容量		ー	

●詳細メニュー

項目		標準設定値	備考
BIOS 設定		ー	
	ウィルス検出時の警告	使用しない	
	CPU 内蔵キャッシュ	使用する	
	L2 キャッシュ ECC モード	使用する	
	プロセッサシリアルナンバ	使用しない	
	高速起動	使用する	
	起動ハードディスク	ATA/IDE	
	起動デバイスの優先順位 1	フロッピーディスク	
	起動デバイスの優先順位 2	ハードディスク	
	起動デバイスの優先順位 3	CDROM	
	起動デバイスの優先順位 4	LS/ZIP	
	起動デバイスの優先順位 5	LAN	
	起動時の NumLock 設定	On	
	セキュリティオプション	システム	
	メモリ容量検出のためのOS 選択	その他	
	ハードディスクの S.M.A.R.T	使用しない	
	起動時の自己診断画面	表示しない	
	システム情報の表示	表示しない	
チップセット設定		ー	
	SDRAM CAS Latency Time	Auto	
	SDRAM Cycle Time Tras/Trc	5/7	
	SDRAM RAS-to-CAS Delay	2	
	SDRAM RAS Precharge Time	2	
	DRAM Page Closing Policy	Precharge Bank	
	System BIOS Cacheable	Enabled	
	Video BIOS Cacheable	Enabled	
	Delayed Transaction	Disabled	
	On-Chip Video Window Size	64MB	
	Initial Display Cache	Enabled	
	Display cache Timing	Fast	
	Local Memory Frequency	100Mhz	

項目		標準設定値	備考
内蔵デバイス設定			
	IDE プライマリコントローラ	使用する	
	IDE セカンダリコントローラ	使用する	
	IDE プライマリマスター PIO モード	自動	
	IDE プライマリスレーブ PIO モード	自動	
	IDE セカンダリマスター PIO モード	自動	
	IDE セカンダリスレーブ PIO モード	自動	
	IDE プライマリマスター UDMA モード	自動	
	IDE プライマリスレーブ UDMA モード	自動	
	IDE セカンダリマスター UDMA モード	自動	
	IDE セカンダリスレーブ UDMA モード	自動	
	USB コントローラ	使用する	
	USB キーボード	使用する	
	USB マウス	使用する	
	プライマリディスプレイ	PCI	
	サウンドコントローラ	使用する	
	ハードディスクマルチセクタ転送	使用する	
	フロッピーディスクコントローラ	使用する	
	シリアルポート	3F8/IRQ4	
	パラレルポート	378/IRQ7	
	モード	双方向	
	DMA チャネル	3	

項目		標準設定値	備考
省電力設定			
	スタンバイモード（ACPI）	標準	
	ディスプレイアダプタの初期化	使用する	
	省電力モード	ユーザー設定	
	ディスプレイ省電力	DPMS	
	スタンバイモード（APM）	高度	
	モデムの割込み要求（IRQ）	4	
	スタンバイ移行時間	使用しない	
	ハードディスク省電力	使用しない	
	電源スイッチ	スタンバイ	
	AC 通電再開時の動作	自動	
	PCI PME によるウェイクアップ	使用する	
	モデム着信によるウェイクアップ	使用する	
	時刻によるウェイクアップ	使用しない	
	ウェイクアップ日付	0	
	ウェイクアップ時刻	0:0:0	
	**** デバイスのイベント監視 ****		
	IDE プライマリマスター	使用する	
	IDE プライマリスレーブ	使用しない	
	IDE セカンダリマスター	使用しない	
	IDE セカンダリスレーブ	使用しない	
	フロッピー、COM、LPT	使用する	
	PCI 割り込み要求（IRQ）	使用する	
PnP/PCI 設定			
	プラグアンドプレイ対応 OS	はい	
	リソース（ESCD）の初期化	使用しない	
	リソース設定	自動	
	x 割り込み要求（IRQ）	ー	
	割り込み要求 3（IRQ3）	使用しない	
	割り込み要求 4（IRQ4）	使用する	
	割り込み要求 5（IRQ5）	使用しない	
	割り込み要求 7（IRQ7）	使用する	
	割り込み要求 9（IRQ9）	使用しない	
	割り込み要求 10（IRQ10）	使用しない	
	割り込み要求 11（IRQ11）	使用しない	
	割り込み要求 12（IRQ12）	使用する	
	割り込み要求 14（IRQ14）	使用する	
	割り込み要求 15（IRQ15）	使用する	
	x メモリ	ー	
	メモリの開始番地	使用しない	
	メモリサイズ	8KB	
	パレット情報の参照	使用しない	
	USB の割り込み要求（IRQ）	使用する	

●標準設定メニュー

項目	標準設定値	備考
安全に起動する設定値を読み込む	ー	
標準設定値を読み込む	ー	

●セキュリティメニュー

項目	標準設定値	備考
管理者用パスワード	使用しない	
ユーザ用パスワード	使用しない	

●クロック設定メニュー

項目	標準設定値	備考
スペクトラム	使用する	
CPU速度	PENTIUM III 300	C2/55L, C2/50L, C2/507
	INTEL(R) CELERON 200	C2/46L, C2/465

●終了メニュー

項目	標準設定値	備考
変更を保存して終了（再起動）	ー	
変更を保存して終了（電源OFF）	ー	
変更を保存せずに終了（再起動）	ー	

4 BIOS のパスワード機能を使う

本パソコンでは、特定の人だけが起動や BIOS セットアップを行えるように、パスワードを設定することができます。
ここでは、パスワードの設定方法や変更方法などについて説明します。

パスワードの種類

本パソコンで設定できるパスワードは次の 2 つです。

- **管理者用パスワード**
  システム管理者用のパスワードです。
- **ユーザ用パスワード**
  一般利用者用のパスワードです。
  ユーザ用パスワードで BIOS セットアップを起動すると、設定できる項目が制限されます。

パスワードを設定する

管理者用パスワード、ユーザ用パスワードを設定する方法を説明します。

1 BIOS セットアップを起動します。

起動のしかたについては「BIOS セットアップを起動する」(☞P.107)をご覧ください。

2 [←] [→] を押して、「セキュリティ」メニューを表示します。

3 [↑] [↓] を押して、「管理者用パスワード」または「ユーザ用パスワード」にカーソルを合わせ、[Enter] を押します。

「パスワードを入力してください」というメッセージが表示されます。

4 パスワードを入力します。

入力できる文字はアルファベットと数字です。最大 8 文字までなら何文字でもかまいません。
入力した文字は表示されず、かわりに「＊」が表示されます。

> **重要**
>
> **パスワードは忘れないでください**
>
> 入力したパスワードは忘れないようにしてください。
> パスワードを忘れてしまったときは、「パスワードを忘れてしまったら」(☞P.118)をご覧ください。

5 [Enter] を押します。

パスワードを確認するためのウィンドウが表示されます。
パスワードの設定を中止するときは、[Enter] を押します。

6 手順 4 で入力したパスワードをもう一度入力し、[Enter] を押します。

再入力したパスワードが、手順 4 で入力したものと違っていた場合は、再び手順 4 と同じウィンドウが表示されます。パスワードを入力し直してください。

> **アドバイス**
>
> **テンキーで入力するには**
>
> テンキーで数字を入力するには [Num Lock] を押して、数字を入力できる(NumLock インジケータが点灯している)状態にしてください。

7 **続いてユーザ用パスワードを設定する場合は、手順 3 〜 6 を繰り返します。**

8 **BIOS セットアップを終了します。**

設定内容を保存して終了してください。

終了のしかたについては「BIOS セットアップを終了する」(☛P.110)をご覧ください。

パスワード設定後のパソコンの起動

パスワードを設定すると、次に電源を入れたとき、または BIOS セットアップを始めるときに、パスワードの入力を要求されます。
パスワードを入力し、Enter を押してください。

重要

違うパスワードを入力すると

設定したパスワードと違うパスワードを入力すると、「Invalid Password! Press Any Key to Continue.」というメッセージが表示されます。その場合は、Enter を押し、正しいパスワードを入力してください。

誤ったパスワードを 3 回入力すると

「不正確なパスワードが入力されました。システムは使用できません。」というメッセージが表示され、ビープ音が鳴ったままになります。その場合は、電源スイッチを 4 秒以上押し続けてパソコンの電源を切ってから 10 秒ほど待って、もう一度電源を入れます。そのあと、正しいパスワードを入力してください。

パスワードを忘れてしまったら

設定したパスワードを忘れてしまい、BIOS セットアップや起動ができなくなった場合は、パソコン本体内部のジャンパスイッチを変更してください。

重要

ジャンパスイッチを変更すると

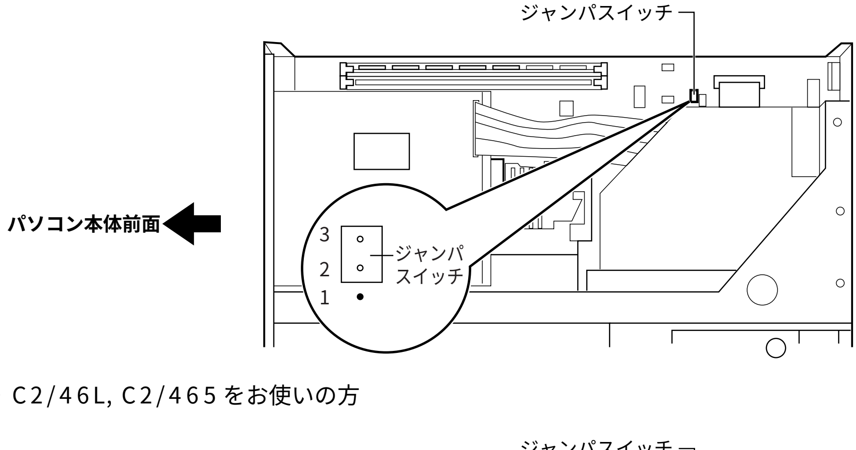
ジャンパスイッチを変更すると、CMOS RAM の内容が削除されてしまいます。必ず「ご購入時の設定に戻す」(☛P.111)をご覧になり、標準設定値に戻してください。

BIOS セットアップを変更していた場合は、標準設定値に戻した後、もう一度設定し直してください。

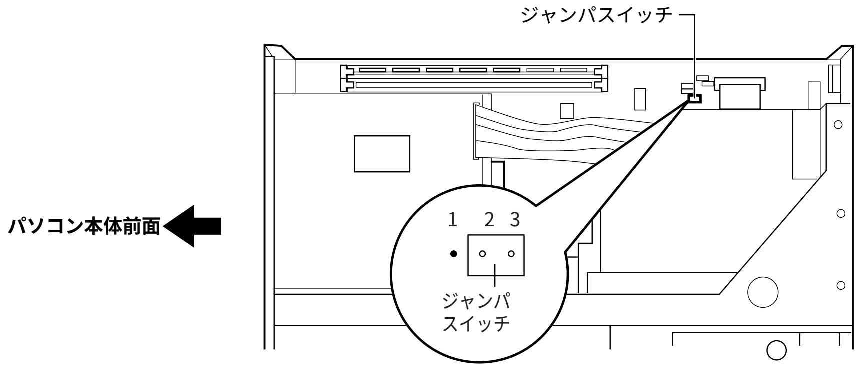
「ジャンパスイッチを変更する」(☛P.119)手順 4 のあとでケーブルをつなぎ、電源プラグをコンセントに差し込むと、自動的に電源が入ります。

ジャンパスイッチの位置

・C2/55L, C2/50L, C2/507 をお使いの方



・C2/46L, C2/465 をお使いの方



ジャンパスイッチを変更する

警告

感電 ジャンパスイッチを変更するときは、パソコン本体と接続されている機器の電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いたあとに行ってください。
感電の原因となります。

注意

けが 基板表面上の突起物には手を触れないでください。
けがをするおそれがあります。また、故障の原因となることがあります。

1 **「本体カバーを取り外す」(☞ P.78)をご覧になり、本体カバーを取り外します。**

2 **ジャンパスイッチを「2-3 番」から「1-2 番」に変更します。**
本パソコンのご購入時は、「2-3 番」に設定されています。

3 **10 秒ほど待ってから、ジャンパスイッチを「2-3 番」に戻します。**

4 **「本体カバーを取り付ける」(☞ P.79)をご覧になり、本体カバーを取り付けます。**

5 **「ご購入時の設定に戻す」(☞ P.111)をご覧になり、BIOS セットアップの設定を標準設定値に戻します。**

パスワードを変更／削除する

パスワードを削除する

1 **本パソコンの電源を入れます。**

2 **画面左下に「＜TAB＞：自己診断画面　＜F2＞：BIOS セットアップ　＜F12＞：起動メニュー」と表示されている間に、F2 を押します。**

3 **設定したパスワードを入力し、BIOS セットアップを起動します。**
管理者用パスワードとユーザ用パスワードの両方を設定している場合、ユーザ用パスワードで BIOS セットアップを起動すると、管理者用パスワードは削除できません。

4 **← → を押して、「セキュリティ」メニューを表示します。**

5 **↑ ↓ を押して、管理者用パスワード、またはユーザ用パスワードのどちらか削除したいほうを選び Enter を押します。**
「パスワードを入力してください」というメッセージが表示されます。

6 **何も入力しないで、Enter を押します。**
「パスワードを消去しました。どれかキーを押してください。」というメッセージが表示され、パスワードが削除されます。

パスワードを変更する

1 **本パソコンの電源を入れます。**

2 **画面左下に「＜TAB＞：自己診断画面　＜F2＞：BIOS セットアップ　＜F12＞：起動メニュー」と表示されている間に、F2 を押します。**

3 **設定したパスワードを入力し、BIOS セットアップを起動します。**

4 **← → を押して、「セキュリティ」メニューを表示します。**

5 **↑ ↓ を押して、管理者用パスワード、またはユーザ用パスワードのどちらか変更したいほうを選び Enter を押します。**

6 **新しいパスワードを入力します。**
パスワードが変更されます。

5 BIOS が表示するメッセージ一覧

ここでは、本パソコンが表示するエラーメッセージ（BIOS メッセージ）について説明しています。必要に応じてお読みください。

メッセージが表示されたときは

次の「メッセージ一覧」をご覧になり、次のいずれかの方法でエラーを解消してください。

- **BIOS セットアップの設定を変更する**
  BIOSセットアップに関するエラーメッセージが表示されたときは、BIOSセットアップを起動して、エラー項目の設定が正しいか確認してください。
  また、「ご購入時の設定に戻す」（☛P.111）をご覧になり、BIOS セットアップの設定を標準設定値に戻してください。
- **オプション機器の取り付けを確認する**
  別売りのオプション機器の拡張カードやメモリ、ハードディスクなどを取り付けているときは、それらが正しく取り付けられているか確認してください。また、IRQ（割り込み要求）などの設定が正しくされているかも確認してください。このとき、オプション機器のマニュアルや、ユーティリティソフトがある場合は、それらのマニュアルもあわせてご覧ください。

上記の方法で対処してもエラーメッセージが表示される場合、または次の「メッセージ一覧」に当てはまるメッセージがない場合は、本パソコンが故障している可能性があります。弊社パーソナルエコーセンター、FM インフォメーションサービス、またはご購入元にご連絡ください。

メッセージ一覧

1. **BIOS ROM checksum error - System halted.**
   弊社パーソナルエコーセンター、FMインフォメーションサービス、またはご購入元にご連絡ください。
2. **CMOS BATTELY HAS FAILED**
   バッテリの交換が必要です。弊社パーソナルエコーセンター、FM インフォメーションサービス、またはご購入元にご連絡ください。
3. **CMOS CHECKSUM ERROR**
   【F2】を押して、BIOSセットアップを起動し、「ご購入時の設定に戻す」（☛P.111）の操作を行ってください。
4. **DISK BOOT FAILURE, INSERT SYSTEM DISK AND PRESS ENTER**
   フロッピーディスクドライブからフロッピーディスクを取り出して、【Enter】を押してください。
5. **DISKETTE DRIVES OR TYPES MISMATCH ERROR - RUN SETUP**
   フロッピーディスクドライブが正しく接続されているか確認してください。
   正しく接続されているときは、BIOSセットアップを起動して、フロッピーディスクドライブの種類が正しく設定されているかを確認してください。
6. **DISPLAY SWITCH IS SET INCORRECTLY**
   弊社パーソナルエコーセンター、FMインフォメーションサービス、またはご購入元にご連絡ください。

7. **DISPLAY TYPE HAS CHANGED SINCE LAST BOOT**
   弊社パーソナルエコーセンター、FMインフォメーションサービス、またはご購入元にご連絡ください。
8. **EISA Configuration Checksum Error**
   PLEASE RUN EISA CONFIGURATION UTILITY
   弊社パーソナルエコーセンター、FMインフォメーションサービス、またはご購入元にご連絡ください。
9. **EISA Configuration Is Not Complete**
   PLEASE RUN EISA CONFIGURATION UTILITY
   弊社パーソナルエコーセンター、FMインフォメーションサービス、またはご購入元にご連絡ください。
10. **ERROR ENCOUNTED INITIALIZING HARD DRIVE**
    [F2]を押して、BIOSセットアップを起動し、パソコン本体の環境（システム構成）とBIOSセットアップの設定が正しいか、確認してください。
11. **ERROR INITIALIZING HARD DISK CONTROLLER**
    [F2]を押して、BIOSセットアップを起動し、IDEドライブの設定が正しく行われているかを確認してください。
12. **FLOPPY DISK CNTRLR ERROR OR NO CNTRLR PRESENT**
    弊社パーソナルエコーセンター、FMインフォメーションサービス、またはご購入元にご連絡ください。
13. **FLOPPY DISK（S）fail（80）**
    FLOPPY DISK（S）fail（40）
    フロッピーディスクドライブのエラーです。（80）
    フロッピーディスクドライブのエラーです。（40）
    フロッピーディスクドライブが正しく接続されているか確認してください。
    正しく接続されているときは、BIOSセットアップを起動して、フロッピーディスクドライブの種類が正しく設定されているかを確認してください。
14. **Primary master hard disk fail**
    Primary slave hard disk fail
    Secondary master hard disk fail
    Secondary slave hard disk fail
    IDE プライマリマスターのエラーです。
    IDE プライマリスレーブのエラーです。
    IDE セカンダリマスターのエラーです。
    IDE セカンダリスレーブのエラーです。
    [F2]を押して、BIOSセットアップを起動し、パソコン本体の環境（システム構成）とBIOSセットアップの設定が正しいか、確認してください。
15. **Invalid EISA Configuration**
    PLEASE RUN EISA CONFIGURATION UTILITY
    弊社パーソナルエコーセンター、FMインフォメーションサービス、またはご購入元にご連絡ください。
16. **KEYBOARD ERROR OR NO KEYBOARD PRESENT**
    キーボードエラーまたは接続されていません。
    キーボードが正しく接続されているかを確認してください。
17. **Keyboard is locked out - Unlock the key.**
    キーボードが正しく接続されているかを確認してください。

18. **Manufacturing POST loop.**
弊社パーソナルエコーセンター、FMインフォメーションサービス、またはご購入元にご連絡ください。

19. **Memory Address Error at...**
メモリが正しく取り付けられているかを確認してください。正しく取り付けられている場合は、弊社パーソナルエコーセンター、FMインフォメーションサービス、またはご購入元にご連絡ください。

20. **Memory parity Error at...**
メモリが正しく取り付けられているかを確認してください。正しく取り付けられている場合は、弊社パーソナルエコーセンター、FMインフォメーションサービス、またはご購入元にご連絡ください。

21. **MEMORY SIZE HAS CHANGED SINCE LAST BOOT**
メモリが正しく取り付けられているかを確認してください。正しく取り付けられている場合は、弊社パーソナルエコーセンター、FMインフォメーションサービス、またはご購入元にご連絡ください。

22. **Memory test fail.**
メモリエラーです。
メモリが正しく取り付けられているかを確認してください。正しく取り付けられている場合は、弊社パーソナルエコーセンター、FMインフォメーションサービス、またはご購入元にご連絡ください。

23. **Memory Verify Error at...**
メモリが正しく取り付けられているかを確認してください。正しく取り付けられている場合は、弊社パーソナルエコーセンター、FMインフォメーションサービス、またはご購入元にご連絡ください。

24. **OFFENDING ADDRESS NOT FOUND**
弊社パーソナルエコーセンター、FMインフォメーションサービス、またはご購入元にご連絡ください。

25. **OFFENDING SEGMENT:**
弊社パーソナルエコーセンター、FMインフォメーションサービス、またはご購入元にご連絡ください。

26. **PRESS A KEY TO REBOOT**
キーボードのキーをどれか押してください。本パソコンが再起動します。

27. **PRESS F1 TO DISABLE NMI,F2 TO REBOOT**
[F1]を押して先に進めるか、または[F2]を押して、本パソコンを再起動してください。

28. **RAM PARITY ERROR - CHECKING FOR SEGMENT...**
メモリが正しく取り付けられているかを確認してください。正しく取り付けられている場合は、弊社パーソナルエコーセンター、FMインフォメーションサービス、またはご購入元にご連絡ください。

29. **Should Be Empty But EISA Board Found**
PLEASE RUN EISA CONFIGURATION UTILITY
弊社パーソナルエコーセンター、FMインフォメーションサービス、またはご購入元にご連絡ください。

30. **Should Have EISA Board But Not Found**
PLEASE RUN EISA CONFIGURATION UTILITY
弊社パーソナルエコーセンター、FMインフォメーションサービス、またはご購入元にご連絡ください。

31. Slot Not Empty

弊社パーソナルエコーセンター、FMインフォメーションサービス、またはご購入元にご連絡ください。

32. SYSTEM HALTED,（CTRL-ALT-DEL）TO REBOOT…

【Ctrl】と【Alt】を押しながら【Delete】を押して、本パソコンを再起動してください。

33. Wrong Board In Slot

PLEASE RUN EISA CONFIGURATION UTILITY

弊社パーソナルエコーセンター、FMインフォメーションサービス、またはご購入元にご連絡ください。

34. PC100 SDRAM Not Found on DIMM

サポートされないタイプのメモリが検出されました。

メモリが正しく取り付けられているか確認してください。正しく取り付けられている場合は、弊社パーソナルエコーセンター、FMインフォメーションサービス、またはご購入元にご連絡ください。

第 5 章
技術情報

本パソコンの仕様や、ドライバのインストール、注意事項などについて説明しています。

1 仕様一覧

パソコン本体

C2/55L, C2/50L, C2/507

製品名称	FMV DESKPOWER C2/55L	FMV DESKPOWER C2/50L	FMV DESKPOWER C2/507
CPU	Pentium® III processor 550MHz	Pentium® III processor 500MHz	
キャッシュメモリ	L1 32KB ＋ L2 512KB		
BIOS ROM	512KB（フラッシュ ROM）		
システム RAM	標準 128MB（SDRAM）ECC なし	標準 64MB（SDRAM）ECC なし	
	最大 256MB		
システムバスクロック	100MHz		
フロッピーディスク	3.5 インチ× 1（3 モード対応）スリムタイプ		
ハードディスク	17GB（C ドライブ約 16.0GB、D ドライブ約 1.0GB）		
DVD-ROM ドライブ	CD-ROM：最大 40 倍速 DVD-ROM：最大 8 倍速		
グラフィック	Intel 社製 82810e		
ディスプレイ	15 インチ LCD（DDC 対応、USB ハブ内蔵、スケーリング機能）		17 インチフルフラット CRT（DDC 対応）
オーディオ機能	YAMAHA 社製 YMF744B ＋ AC97		
PC カード	JEIDA/PCMCIA TYPE Ⅰ / Ⅱ × 1		
モデム機能	DATA56Kbps（受信）、33.6Kbps（送信）/FAX 14.4Kbps		
I/F ディスプレイ	アナログ：D-SUB 15pin デジタル：デジタルディスプレイ（DFP 準拠） 20pin		
I/F PS/2 ポート	Mini-DIN 6pin（キーボード用× 1）		
I/F シリアルポート	非同期 RS-232C × 1 D-SUB 9pin		
I/F パラレルポート	セントロニクス準拠 /ECP/EPP 対応 D-SUB 25pin		
I/F USB	USB コネクタ × 2 （前面 × 1、背面 × 1）		
I/F サウンド	マイク入力 × 1、LINE 入力 × 1、HEADPHONE ／ 光デジタルオーディオ出力× 1、LINE 出力 × 1、スピーカー出力 × 1、MIDI/JOYSTICK 端子 × 1		
I/F FAX ／ボイスモデム	モジュラージャック × 2（LINE × 1、PHONE × 1）		
拡張スロット数	PCI × 2（ハーフ、Revision2.2 対応）		
電源／周波数	AC100V 50/60Hz		
消費電力	約 34W（最大 75W）		
重量	約 7.5Kg（フット除く）		
外形寸法	89mm × 335mm × 308mm（W × D × H）（フット、突起部を除く）		
使用環境	温度 10 ～ 35℃ 湿度 20 ～ 80%（RH）		
省エネ法に基づくエネルギー消費効率	区分 R 0.0039	区分 R 0.0043	
対応 OS	Windows98 SE（DirectX：6.1 対応）		

本パソコンの仕様は、改善のために予告なく変更することがあります。あらかじめご了承ください。

C2/46L, C2/465

製品名称	FMV DESKPOWER C2/46L	FMV DESKPOWER C2/465
CPU	Celeron™ processor 466MHz	
キャッシュメモリ	L1 32KB ＋ L2 128KB	
BIOS ROM	512KB（フラッシュ ROM）	
システム RAM	標準 64MB（SDRAM）ECC なし 最大 256MB	
システムバスクロック	66MHz	
フロッピーディスク	3.5 インチ× 1（3 モード対応）スリムタイプ	
ハードディスク	13.6GB（C ドライブ約 12.6GB、D ドライブ約 1.0GB）	
CD-ROM ドライブ	最大 24 倍速スリムタイプ（スロットイン）	
グラフィック	Intel 社製 82810e	
ディスプレイ	15 インチ LCD（DDC 対応、USB ハブ、スピーカー内蔵、スケーリング機能）	15 インチ CRT（DDC 対応）
オーディオ機能	YAMAHA 社製 YMF744B ＋ AC97	
PC カード	JEIDA/PCMCIA TYPE Ⅰ / Ⅱ × 1	
モデム機能	DATA56Kbps（受信）、33.6Kbps（送信）/FAX 14.4Kbps	
I/F ディスプレイ	アナログ：D-SUB 15pin デジタル：デジタルディスプレイ（DFP 準拠） 20pin	
I/F PS/2 ポート	Mini-DIN 6pin（キーボード用× 1）	
I/F シリアルポート	非同期 RS-232C × 1 D-SUB 9pin	
I/F パラレルポート	セントロニクス準拠 /ECP/EPP 対応 D-SUB 25pin	
I/F USB	USB コネクタ × 2 （前面 × 1、背面 × 1）	
I/F サウンド	マイク入力 × 1、LINE 入力 × 1、HEADPHONE / 光デジタルオーディオ出力× 1、LINE 出力 × 1、スピーカー出力 × 1、MIDI/JOYSTICK 端子 × 1	
I/F FAX／ボイスモデム	モジュラージャック × 2（LINE × 1、PHONE × 1）	
拡張スロット数	PCI × 2（ハーフ、Revision2.2 対応）	
電源／周波数	AC100V 50/60Hz	
消費電力	約 32W（最大 75W）	
重量	約 7.5Kg（フット除く）	
外形寸法	89mm × 335mm × 308mm（W × D × H）（フット、突起部を除く）	
使用環境	温度 10 ～ 35℃ 湿度 20 ～ 80%（RH）	
省エネ法に基づくエネルギー消費効率	区分 R 0.0092	
対応 OS	Windows98 SE（DirectX：6.1 対応）	

本パソコンの仕様は、改善のために予告なく変更することがあります。あらかじめご了承ください。

FAX ／ボイスモデムカード

品名	FAX ／ボイスモデムカード -56000（全二重）
型名	FMV-FX52Z1A
通信方式	2 線式　全二重（FAX モードでは 2 線式 半二重）
通信規格	K56flex™.ITU-T　V.90/V.34/V.32bis/V.32/V.22bis /V.22/V.21/Bell212A,103（データモード） ITU-T　V.17/V.29/V.27ter（FAX モード）
通信速度	データモード：（受信時）　56000,54667,54000,53333,52000,50667,50000,49333,48000,46667,46000,45333,44000,42667,42000,41333,40000,38667,38000,37333,36000,34667,34000,33333,32000,30667,29333,28000bps データモード：（送受信）　33600,31200,28800,26400,24000,21600,19200,16800,14400,12000,9600,7200,4800,2400,1200bps FAX モード　：　14000,12000,9600,7200,4800,2400bps
同期方式	調歩同期
データ転送プロトコル	MNP class 4/5 ITU-T V.42/V.42bis
バスインターフェース	PCI
FAX インターフェース	TIA/EIA578（class1）
音声蓄積機能	PCM
寸法	長さ 135 ㎜×幅 100 ㎜×高さ 22 ㎜
直流抵抗値	258 Ω
その他	・自動速度検出 ・発信音、呼び出し音、話し中音、無音、ダイヤル音、音声などの回線接続の進行状況を示す応答音の検出 ・スピーカーフォン機能は未対応

- K56flex は Conexant Systems Inc.、Lucent Technologies 社が提唱している通信規格です。
- V.90 および K56flex で接続する場合は、接続先のプロバイダなどが同規格に対応していることが必要です。
- 56000bps は V.90 および K56flex の理論上の最高速度であり、実際の通信速度は回線状況により変化します。V.90 による 33600bps（K56flex は 31200bps）を超える通信速度は受信時のみで、V.90 送信時は 33600bps（K56flex は 31200bps）が最高速度になります。
  日本国内の一般公衆回線、または構内交換機経由で通信を行う場合は、同規格での通信ができないことがあります。
- MS-DOS モードおよび Windows98 の MS-DOS プロンプトではお使いになれません。
- 本モデムに搭載されておりますスピーカーでは、ダイヤルパルス音を聞くことができません。
- 300bps での通信は行えません。

DVD-ROMドライブ（C2/55L, C2/50L, C2/507標準搭載）

インターフェース	ATAPI規格準拠（SFF8020/8090）（IDE接続）
オーディオインターフェース	アナログのみ（ATAPI規格準拠）
ディスク・ローディング	トレイローディング
データ転送速度	CD-ROM　最大40倍速 DVD-ROM　最大8倍速
対応フォーマット	CD媒体　CD-DA, CD-ROM Model1, CD-ROM XA（Mode, Form1, Form2）Photo-CD, CD-Bridge, CD-I, Video-CD, CDエクストラ規格準拠, CD-R, CD-RW
	DVD媒体　DVD-5, DVD-9, DVD-10, DVD-R

※縦置き時は8cm disk使用不可。横置き時は8cm diskはアダプタを使用せずに対応。

CD-ROMドライブ（C2/46L, C2/465標準搭載）

インターフェース	ATAPI規格準拠（SFF8020/8090）（IDE接続）
オーディオインターフェース	アナログのみ（ATAPI規格準拠）
ディスク・ローディング	スロットインローディング
データ転送速度	CD-ROM　最大24倍速
対応フォーマット	CD媒体　CD-DA, CD-ROM Model1, CD-ROM XA（Mode, Form1, Form2）Photo-CD, CD-Bridge, CD-I, Video-CD, CDエクストラ規格準拠, CD-R, CD-RW

※ 8cm diskにはアダプタを使用せずに対応。

サウンド機能

チップセット	YAMAHA 社製 YMF744B＋AC97
録音再生機能	サンプリング周波数 5kHz～48kHz 16bit Stereo 最大 73 個同時再生可能 同時録音再生動作可能
MIDI 機能	XG Wavetable Synthesizer（最大 64 音）GM 音源 FM Synthesizer（OPL3）
その他	サウンドアクセラレーション機能
ゲームポート	MPU-401 互換 MIDI I/F Game Port I/F
リソース	IRQ：１つ使用

- 光デジタルオーディオ出力端子はヘッドホン端子と共用です。
- 本機からのデジタル出力はサンプリング周波数 48kHz のみです。
  48kHz に対応したオーディオ機器でご使用ください。
  また一般のCDプレーヤー類と同等のデジタルオーディオのコピーマネージメントを行っております。

スピーカー

C2/55L, C2/50L, C2/507 添付

方式	アンプ内蔵バスレフ型ボックススピーカー
機能	VOLUME（音量調整） BASS（低音域調整） TREBLE（高音域調整）
スピーカーユニット	口径：3 インチ・1 インチ
アンプ回路	7.5W/ch インピーダンス：5k Ω
再生周波数	100Hz～18kHz
外形寸法	100 × 221 × 145（mm）
重量	約 2.8kg（AC アダプタを含む）

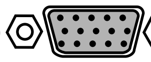
C2/465 添付

方式	開放平面型分布振動方式スピーカー
機能	VOLUME（音量調整）
スピーカーユニット	パネルスピーカーユニット
アンプ回路	1.2W/ch インピーダンス：10k Ω
再生周波数	150Hz～20kHz
外形寸法	115 × 72.5 × 175（mm）
重量	約 0.8Kg（AC アダプタを含む）

コネクタのピン配列と信号名

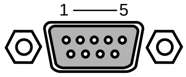
各コネクタのピンの配列および信号名は次のとおりです。

ディスプレイコネクタ



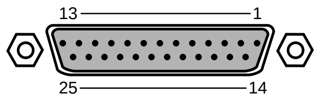
ピンNo.	信号名	方向	内容
1	RED	出力	赤出力
2	GREEN	出力	緑出力
3	BLUE	出力	青出力
4	NC	―	未接続
5～8	GND	―	グランド
9	＋5V	―	電源
10	GND	―	グランド
11	NC	―	未接続
12	SDA	入出力	データ
13	HSYNC	出力	水平同期信号
14	VSYNC	出力	垂直同期信号
15	SCL	入出力	データクロック

シリアルコネクタ



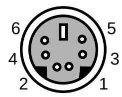
ピンNo.	信号名	方向	内容
1	CD	入力	キャリア検出
2	RD	入力	受信データ
3	TD	出力	送信データ
4	DTR	出力	データ端末レディ
5	GND	―	グランド
6	DSR	入力	データセットレディ
7	RTS	出力	送信要求
8	CTS	入力	送信可
9	RI	入力	リングインジケート

パラレルコネクタ



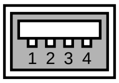
ピンNo.	信号名	方向	内容
1	STROBE	入出力	ストローブ
2	DATA0	入出力	データ0
3	DATA1	入出力	データ1
4	DATA2	入出力	データ2
5	DATA3	入出力	データ3
6	DATA4	入出力	データ4
7	DATA5	入出力	データ5
8	DATA6	入出力	データ6
9	DATA7	入出力	データ7
10	ACK	入力	アクノリッジ
11	BUSY	入力	ビジー
12	PE	入力	用紙切れ
13	SELECT	入力	セレクト
14	AUTOFD	出力	自動送り
15	ERROR	入力	エラー
16	INIT	出力	初期化
17	SLCTIN	出力	セレクト
18～25	GND	―	グランド

キーボードコネクタ



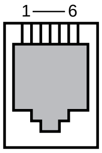
ピンNo.	信号名	方向	内容
1	DATA	入出力	データ
2	NC	―	未接続
3	GND	―	グランド
4	VCC	―	電源
5	CLK	入出力	クロック
6	NC	―	未接続

USB コネクタ



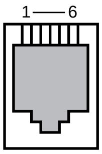
ピンNo.	信号名	方向	内容
1	VCC	ー	ケーブル・電源
2	ーDATA	入出力	ーデータ信号
3	＋DATA	入出力	＋データ信号
4	GND	ー	ケーブル・グランド

LINE 端子（モデム）



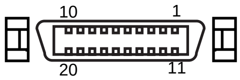
ピンNo.	信号名	方向	内容
1	NC	ー	未接続
2	ー	ー	PHONE端子の5ピンと接続
3	LINE	入出力	公衆回線に接続
4	LINE	入出力	公衆回線に接続
5	ー	ー	PHONE端子の2ピンと接続
6	NC	ー	未接続

PHONE 端子（モデム）



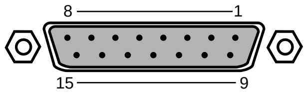
ピンNo.	信号名	方向	内容
1	NC	ー	未接続
2	ー	ー	LINE端子の5ピンと接続
3	TEL	入出力	電話機に接続
4	TEL	入出力	電話機に接続
5	ー	ー	LINE端子の2ピンと接続
6	NC	ー	未接続

デジタルディスプレイコネクタ



ピンNo.	信号名	方向	内容
1	TX1＋	出力	＋データ・緑出力
2	TX1－	出力	－データ・緑出力
3	GND	－	ケーブル・グランド
4	GND	－	ケーブル・グランド
5	TXC＋	出力	＋クロック
6	TXC－	出力	－クロック
7	GND	－	グランド
8	＋5V	－	電源
9	NC	－	未接続
10	NC	－	未接続
11	TX2＋	出力	＋データ・赤出力
12	TX2－	出力	－データ・赤出力
13	GND	－	ケーブル・グランド
14	GND	－	ケーブル・グランド
15	TX0＋	出力	＋データ・青出力
16	TX0－	出力	－データ・青出力
17	NC	－	未接続
18	HPD	－	＋5V
19	SDA	入出力	データ
20	SCL	入出力	データクロック

MIDI/JOYSTICK 端子



ピンNo.	信号名	方向	内容
1	＋5V	－	電源
2	JOYF0	入力	ジョイスティックAボタン1
3	JRC0	入力	ジョイスティックA X座標
4	GND	－	グランド
5	GND	－	グランド
6	JRC1	入力	ジョイスティックA Y座標
7	JOYF1	入力	ジョイスティックAボタン2
8	＋5V	－	電源
9	＋5V	－	電源
10	JOYF2	入力	ジョイスティックBボタン1
11	JRC2	入力	ジョイスティックB X座標
12	MIDIOUT	出力	MIDI出力
13	JRC3	入力	ジョイスティックB Y座標
14	JOYF3	入力	ジョイスティックBボタン2
15	MIDIIN	入力	MIDI入力

本体のコネクタ／ジャックで使用できるケーブル

パラレルコネクタ	D-SUB25 ピンコネクタ付きケーブル
シリアルコネクタ	D-SUB9 ピンコネクタ付きケーブル
USB コネクタ	USB ケーブル
MIDI/JOYSTICK 端子	D-SUB15 ピンコネクタ付きケーブル
LINE/PHONE 端子	モジュラーケーブル
SPK OUT/LINE OUT/LINE IN 端子	ミニプラグ（ステレオ）ケーブル
MIC IN 端子	ミニプラグ（モノラル）ケーブル
ヘッドホン端子／光デジタルオーディオ出力端子	ミニプラグ（ステレオ）ケーブル 光デジタルオーディオ（モノラル）ケーブル （丸型ミニプラグ）

2 本パソコンのリソースについて

本パソコンのIRQ（割り込み要求）、DRQ（DMA 要求）、I/O ポートアドレスを、どのハードウェアが使っているかの一覧と、リソース（IRQ、DRQ）の解放のしかたを説明しています。

リソース一覧

ご購入時の本パソコンのIRQ、DRQ、I/O ポートアドレスは、次のように設定されています。

IRQ（割り込み要求）

お使いの機種により若干異なります。

IRQ（割り込み要求）	使っているハードウェア
0	システムタイマ
1	キーボード
2	スレーブ割り込みコントローラ
3	PC カード用リザーブ
4	シリアルポート（COM1）
5	内蔵 FAX ／ボイスモデム（COM2）
6	フロッピーディスクコントローラ
7	パラレルポート
8	リアルタイムクロック
9	ACPI
10	USB、サウンド
11	PC カードコントローラ、ビデオ
12	マウス
13	浮動小数点コプロセッサ
14	ハードディスク
15	DVD-ROM ドライブ（C2/55L, C2/50L, C2/507） CD-ROM ドライブ（C2/46L, C2/465）

DRQ（DMA 要求）

DRQ（DMA 要求）	使っているハードウェア
0	**空き**
1	**空き**
2	フロッピーディスクコントローラ
3	**空き**
4	DMA コントローラ
5	**空き**
6	**空き**
7	**空き**

アドバイス

リソースの値は変更されることもあります

ここに記載しているリソースの値は、ご購入時のものです。拡張カードなどのオプション機器を増設すると、値が変更されることがあります。

現在のリソースを確認するには

拡張カードなどのオプション機器を増設すると、リソースの値が変更されることがあります。現在のリソースは、次の手順で確認できます。

1. **「スタート」ボタンをクリックし、「設定」にマウスポインタを合わせ、「コントロールパネル」をクリックします。**
2. **（システム）をクリックします。**
3. **「デバイスマネージャ」タブをクリックします。**
4. **「コンピュータ」が反転表示されていることを確認し、「プロパティ」をクリックします。**
5. **「リソースの表示」タブで、リソースの種類をクリックします。**
   リソースの値の一覧が表示されます。

I/O ポートアドレス

I/O ポートアドレス	使っているハードウェア
201H	サウンド
220H ～ 22FH	サウンド
2F8H ～ 2FFH	内蔵 FAX ／ボイスモデム（COM2）
330H ～ 331H	サウンド
378H ～ 37FH	パラレルポート
388H ～ 38FH	サウンド
3F8H ～ 3FFH	シリアルポート（COM1）

コラム

リソース、IRQ、DRQ、I/O ポートアドレスとは

リソース

本パソコンの各周辺機器（キーボード、マウスなど）や、拡張カードなどに割り当てられているIRQ、DRQ、I/Oポートアドレスなどを総称して「リソース」と呼んでいます。これらのリソースには識別のための番号が割り当てられます。

IRQ（割り込み要求：Interrupt Request）

周辺装置が要求する処理はすべて CPU が行いますが、CPU はどの装置からいつ「こういう処理を行ってほしい」という要求がくるかを予想できません。CPU が常にすべての装置を監視していると、処理を行っている時間よりも、監視している時間のほうが長くなってしまい、非効率的です。そこで、各周辺装置や拡張カードのほうで、CPU に実行してほしいことが発生したときに、IRQ の番号を使って現在 CPU が行っている処理に「割り込み」、「自分のほうを優先してほしい」と要求します。
CPU は、どの装置から要求が来たのかを IRQ から判断して、処理を行います。それが終われば、CPU はふたたび元の処理に戻ります。

DRQ（DMA 要求：Direct Memory Access Request）

CPU がひんぱんに使うデータやプログラムは、処理にかかる時間を短縮するためにメモリにおかれます。
DMA（Direct Memory Access）とは、それらのデータやプログラムなどをハードディスクなどの装置から読み込み、メモリに書き込む作業を CPU が行うのではなく、かわりに専用のプロセッサ（制御回路）が行うというしくみのことです。その間、CPU は他の処理を行えるために、CPU の作業効率が上がります。その専用のプロセッサのことを DMA コントローラと呼びます。
DRQ とは DMA コントローラが、どの周辺装置から DMA 要求が出されたかを認識するための番号のことです。

I/O（Input/Output）ポートアドレス

CPU と個々の周辺機器との間には、それぞれ情報をやりとりする出入り口があります。その出入り口に割り当てられる番号が「I/O ポートアドレス」です。

リソースを解放する

オプション機器をお使いになる場合には、オプション機器を取り付ける前に次の設定が必要になることがあります。

取り付けるオプション機器が必要とするリソースが本パソコンですでに使われているときは、そのままではそのオプション機器を使えません。オプション機器を取り付ける前に、オプション機器が必要とするリソースを本パソコンで空ける必要があります。この作業を「リソースの解放」といいます。
本パソコンのリソースの使用状況について詳しくは、「リソース一覧」(☛P.136)をご覧ください。
ここでは、シリアルポートまたはパラレルポートのIRQを解放する手順を例に、リソースを解放する方法を説明します。

重要

リソースを解放したデバイスは使えません

リソースを解放すると、それまでそのリソースを割り当てられていたデバイスは、使えなくなりますのでご注意ください。

再びお使いになるときは、リソースを再設定してください。

リソースは不用意に解放しないでください

リソースは、不用意に解放すると、本パソコンが動作しなくなることがあります。「リソース一覧」(☛P.136)でよくご確認のうえ、リソースを解放してください。

1 **「スタート」ボタンをクリックし、「設定」にマウスポインタを合わせ、「コントロールパネル」をクリックします。**

2 **(システム)をクリックします。**

3 **「デバイスマネージャ」タブをクリックします。**

本パソコンのハードウェアの一覧が表示されます。

4 **解放したいリソースを使っているデバイスをクリックして選びます。**

IRQ4を解放するには「ポート(COM/LPT)」内の「通信ポート(COM1)」を選びます。
IRQ7を解放するには「ポート(COM/LPT)」内の「プリンタポート(LPT1)」を選びます。

5 **「プロパティ」をクリックします。**

デバイスのプロパティの「全般」が表示されます。

6 **「デバイスの使用」の「このハードウェアプロファイルで使用不可にする」の□をクリックして☑にし、「OK」をクリックします。**

「デバイスマネージャ」タブに戻ります。
リソースを解放したデバイスに×印が付きます。

アドバイス

拡張カードのリソースを解放するには

お客様が取り付けた拡張カードが使っているリソースを解放したいときは、拡張カードを取り外してください。そのあと、本パソコンの電源を入れると、リソースが自動的に解放されます。

用語

デバイス

パソコン本体内部の装置(メモリ、拡張カードなど)や、パソコンに接続する機器(マウス、キーボードなど)のことをデバイスと呼びます。

アドバイス

リソースを解放すると

それまでそのリソースを割り当てられていたデバイスは使えなくなります。
IRQ4を解放すると、パソコン本体背面のシリアルコネクタ(COM1)(☛P.7)が使えなくなります。
IRQ7を解放すると、パラレルコネクタ(☛P.7)が使えなくなります。
これらのコネクタにオプション機器を接続している場合は、そのオプション機器も使えなくなります。

7 「閉じる」をクリックします。

「システムのプロパティ」ウィンドウが閉じます。

デバイスによっては、「閉じる」をクリックしたあとに、再起動するメッセージが表示されるものがあります。この場合は「はい」をクリックし、本パソコンを再起動してください。再起動したら、操作は終了です。

8 「スタート」ボタンをクリックし、「Windows の終了」をクリックします。

9 「再起動する」をクリックして、「OK」をクリックします。

本パソコンが再起動します。

3 ドライバのインストール

パソコンの調子が悪いとき、その原因がドライバにある場合があります。ゲームなどをインストールして、パソコンに合わないドライバに更新されてしまうと、パソコンは正しく動作しません。パソコンの状態に合わせて、ドライバを再インストールしてください。
画面が正しく表示されない場合はディスプレイドライバをインストールします。
音が正しく出ない場合はサウンドドライバをインストールします。

インストールのときに気をつけること

正常にインストールを行うために、次の点にご注意ください。

アクティブデスクトップの解除

アクティブデスクトップに設定されたままインストールを行うと、正常にインストールを終了できない場合があります。インストールの前に、次の手順に従ってアクティブデスクトップの設定を解除します。

1 「スタート」ボタンをクリックし、「設定」、「アクティブデスクトップ」の順にマウスポインタを合わせ、「Webページで表示」をクリックし、チェックマークを外します。
Windows98 の標準画面に切り替わります。
インストール終了後、改めてアクティブデスクトップに設定してください。

アドバイス
アクティブデスクトップを解除する別の方法
デスクトップの何もないところで右クリックし、「アクティブデスクトップ」にマウスポインタを合わせ、「Web ページで表示」をクリックしても、アクティブデスクトップを解除できます。

アプリケーションの終了やスクリーンセーバーの解除

開いているウィンドウや、起動しているアプリケーションをすべて終了させてください。「VirusScan」や「FM 便利ツール」など、タスクバーに常駐するタイプのアプリケーションを終了させ、スクリーンセーバーを解除してください。
また、操作中、何度もパソコンが再起動されるので、スタートアップに登録されているアプリケーションは、そのつど終了させる必要があります。

「バージョンの競合」ウィンドウが表示された場合

インストール中に、「バージョンの競合」ウィンドウが表示されることがあります。
その場合は、表示されたメッセージの内容をよくお読みになり、必ず「アプリケーションCD 2」に入っているファイルがインストールされるように、「はい」または「いいえ」を選んでください。

▶ ディスプレイドライバをインストールする場合

☛「ディスプレイドライバをインストールする」(P.141)をご覧ください。

▶ サウンドドライバをインストールする場合

☛「サウンドドライバをインストールする」(P.143)をご覧ください。

ディスプレイドライバをインストールする

インストールを始める前に、必ず「インストールのときに気をつけること」(☞P.140)をご覧ください。
ディスプレイドライバのインストールは「アプリケーション CD 2」から行います。

1. **それまで本パソコンで行っていた作業を終了します。**
   必要に応じて作業中のデータを保存し、アプリケーションを終了してください。

2. **「スタート」ボタンをクリックし、「設定」にマウスポインタを合わせ、「コントロールパネル」をクリックします。**

3. **「アプリケーション CD 2」をDVD-ROMドライブまたはCD-ROMドライブにセットします。**

4. **「コントロールパネル」ウィンドウの（画面）をクリックします。**
   「画面のプロパティ」ウィンドウが表示されます。

5. **「設定」タブをクリックし、「詳細」をクリックします。**

6. **「アダプタ」タブをクリックし、「変更」をクリックします。**
   「デバイスドライバの更新ウィザード」ウィンドウが表示されます。

7. **「次へ」をクリックします。**
   「検索方法を選択してください。」というメッセージが表示されます。

8. **「特定の場所にあるすべてのドライバの一覧を作成し、インストールするドライバを選択する」のをクリックし、にします。**

9. **「次へ」をクリックします。**
   「モデル」の一覧が表示されます。

10. **「ディスク使用」をクリックします。**
    「ディスクからインストール」ウィンドウが表示されます。

11. **「配布ファイルのコピー元」に次のように入力し、「OK」をクリックします。**
    e:\update\display\intel\810e
    └ eには、お使いのDVD-ROMドライブ名またはCD-ROMドライブ名を入力してください。

12. **「モデル」一覧の中の「Intel(R) 810e Chipset Graphics Driver（DC133 FSB133）PV2.1」をクリックします。**
    「Intel(R) 810e Chipset Graphics Driver（DC133 FSB133） PV2.1」が2つ表示される場合には、上段をクリックしてください。

13. **「OK」をクリックします。**
    「ドライバ更新の警告」ウィンドウが表示された場合は、「はい」をクリックしてください。
    「次のデバイス用のドライバファイルを検索します。:Intel(R) 810e Chipset Graphics Driver（DC133 FSB133）PV2.1」というメッセージが表示されます。

14. **「次へ」をクリックします。**
    ファイルのコピーが始まります。
    「バージョンの競合」ウィンドウが表示された場合には、「いいえ」をクリックしてください。

15 **「Intel(R) 810e Chipset Graphics Driver（DC133 FSB133） PV2.1ハードウェアデバイス用に選択したドライバがインストールされました。」というメッセージが表示されたことを確認し、「完了」をクリックします。**

「Intel(R) 810e Chipset Graphics Driver（DC133 FSB133） PV2.1のプロパティ」ウィンドウに戻ります。

16 **「アダプタ」タブの「リフレッシュレート」がC2/55L, C2/50L, C2/46L, C2/465をお使いの方は、「最適」に、C2/507をお使いの方は、「75Hz」になっていることを確認し、「閉じる」をクリックします。**

上記以外になっている場合は、「リフレッシュレート」の▼をクリックし、選択します。メッセージが表示されたら、「OK」または「はい」をクリックしてください。

17 **「閉じる」をクリックします。**

「画面のプロパティ」ウィンドウに戻ります。

18 **「閉じる」をクリックします。**

「システム設定の変更」ウィンドウが表示されます。

19 **「はい」をクリックします。**

本パソコンが再起動します。

20 **「コントロールパネル」ウィンドウの右上の×（閉じるボタン）をクリックします。**

「コントロールパネル」ウィンドウが閉じます。

21 **「スタート」ボタンをクリックし、「ファイル名を指定して実行」をクリックします。**

22 **「名前」に次のように入力し、「OK」をクリックします。**

e:\update\display\intel\810e\810fjutl.exe

└ eには、お使いのDVD-ROMドライブ名またはCD-ROMドライブ名を入力してください。

「設定が変更されました。設定を有効にするためにシステムを再起動します。よろしいですか？」というメッセージが表示されます。

23 **「アプリケーションCD 2」をDVD-ROMドライブまたはCD-ROMドライブから取り出します。**

24 **「はい」をクリックします。**

本パソコンが再起動します。

アドバイス

画面の設定を変更するには

解像度や発色数などの画面の設定を変更するには、「画面の解像度や発色数を変える」（☞P.53）をご覧ください。

「モニターを設定してください」というメッセージが表示されたときは

「はい」をクリックします。モニターの設定について詳しくは、『トラブル解決Q & A』の「画面が乱れる」をご覧ください。

アクティブデスクトップに設定してください

ご購入時の状態に戻すには、このあと、次の手順に従ってアクティブデスクトップに設定してください。

1 **「スタート」ボタンをクリックし、「設定」、「アクティブデスクトップ」の順にマウスポインタを合わせ、「Web ページで表示」をクリックし、チェックマークを付けます。**
アクティブデスクトップに切り替わります。

ディスプレイドライバはバージョンアップされることがあります

最新版のドライバは、パソコン通信やインターネットなどのオンライン情報サービスにてご案内します。

ー @nifty 富士通 FM シリーズ情報「FM INFO」
（GO INFO でアクセスできます）

ー インターネット富士通パソコン情報ページ「FM WORLD」
（http://www.fmworld.ne.jp）

サウンドドライバをインストールする

インストールを始める前に、必ず「インストールのときに気をつけること」（☞P.140）をご覧ください。
サウンドドライバのインストールは、「アプリケーション CD 2」から行います。

1 それまで本パソコンで行っていた作業を終了します。
必要に応じて作業中のデータを保存し、アプリケーションを終了してください。

2 「アプリケーション CD 2」を DVD-ROM ドライブまたは CD-ROM ドライブにセットします。

3 「スタート」ボタンをクリックし、「設定」にマウスポインタを合わせ、「コントロールパネル」をクリックします。

4 （アプリケーションの追加と削除）をクリックします。
「アプリケーションの追加と削除のプロパティ」ウィンドウが表示されます。

5 「インストール」をクリックします。
「フロッピーディスクまたはCD-ROMからのインストール」ウィンドウが表示されます。

6 「次へ」をクリックします。
しばらくすると、「インストールプログラムの実行」ウィンドウが表示されます。

7 **「インストールプログラムのコマンドライン」に次のファイル名を入力し、「完了」をクリックします。**

e:\yamaha\uninst\dsuninst.exe

└ eには、お使いのDVD-ROMドライブ名またはCD-ROMドライブ名を入力してください。

「YAMAHA DS-XG Driverの削除を開始します。」というメッセージが表示されます。

8 **「次へ」をクリックします。**

9 **「次へ」をクリックします。**

「アンインストールは完了しました。コンピューターを再起動します。」というメッセージが表示されます。

10 **「完了」をクリックします。**

本パソコンが再起動されます。

「新しいハードウェアの追加ウィザード」ウィンドウが表示され、「次の新しいドライバを検索しています：PCI Multimedia Audio Device」というメッセージが表示されます。

11 **「次へ」をクリックします。**

「検索方法を選択してください。」というメッセージが表示されます。

12 **「使用中のデバイスに最適なドライバを検索する（推奨）」が◉になっていることを確認し、「次へ」をクリックします。**

13 **「検索場所の指定」以外の項目で、☑になっているものをクリックして☐にします。**

14 **「検索場所の指定」の☐をクリックして☑にし、次のフォルダ名を入力します。**

e:\yamaha

└ eには、お使いのDVD-ROMドライブ名またはCD-ROMドライブ名を入力してください。

15 **「次へ」をクリックします。**

「次のデバイス用のドライバファイルを検索します。：YAMAHA DS-XG PCI Audio CODEC」というメッセージが表示されます。

16 **「次へ」をクリックします。**

ファイルがコピーされ、「YAMAHA DS-XG PCI Audio CODEC 新しいハードウェアデバイスに必要なソフトウェアがインストールされました。」というメッセージが表示されます。

17 **「完了」をクリックします。**

しばらくすると「YAMAHA DS-XG FM&MPU401」、および「YAMAHA DS-XG GamePort」がインストールされます。

18 **「コントロールパネル」ウィンドウの（システム）をクリックします。**

「システムのプロパティ」ウィンドウが表示されます。

19 **「デバイスマネージャ」タブをクリックします。**

アドバイス

「!」や「×」が表示されていたり、画面例のように表示されていないときは

「!」や「×」が表示されていたり、画面例のように表示されていない場合は、手順4（☞P.143）からやり直してください。それでも「!」や「×」が表示されている場合は、弊社パーソナルエコーセンターまたはFMインフォメーションサービスにご連絡ください。

20 **「サウンド、ビデオ、およびゲームのコントローラ」の[+]をクリックします。**

一覧が表示されます。

このように表示されることを確認します。



（お客様のお使いの状況により、表示される画面が異なる場合があります）

21 **「OK」をクリックします。**

次に、MIDIの設定を行います。

22 **「コントロールパネル」ウィンドウの（マルチメディア）をクリックします。**

「マルチメディアのプロパティ」ウィンドウが表示され、「オーディオ」タブが前面に表示されます。

23 **「再生」の「優先するデバイス」が「DS-XG Wave Playback」に、「録音」の「優先するデバイス」が「DS-XG Wave Recording」になっていることを確認します。**

他のデバイスになっている場合は、右側の[▼]をクリックし、「DS-XG Wave Playback」、および「DS-XG Wave Recording」をクリックします。



24 **「MIDI」タブをクリックします。**

25 **「単一の機器」に「DS-XG Synthesizer」が選択されていることを確認し、「OK」をクリックします。**

選択されていない場合は、「DS-XG Synthesizer」をクリックします。



26 **「コントロールパネル」ウィンドウの（ヤマハ DS-XG 設定）をクリックします。**

「ヤマハ DS-XG 設定」ウィンドウが表示されます。

27 **「デジタル出力」タブをクリックします。**

28 **「PCM 出力」に「ON（デジタルソースのみ出力)」が選択されていることを確認します。**

選択されていない場合は、「ON（デジタルソースのみ出力)」をクリックします。

29 **「OK」をクリックします。**

30 **「コントロールパネル」ウィンドウの右上にある（閉じるボタン）をクリックします。**

31 **「アプリケーションCD 2」をDVD-ROMドライブまたはCD-ROMドライブから取り出します。**

32 **「スタート」ボタンをクリックし、「Windowsの終了」をクリックします。**

33 **「再起動する」をクリックし、「OK」をクリックします。**

本パソコンが再起動します。

アドバイス

アクティブデスクトップに設定してください

ご購入時の状態に戻すには、このあと、次の手順に従ってアクティブデスクトップに設定してください。

1 **「スタート」ボタンをクリックし、「設定」、「アクティブデスクトップ」の順にマウスポインタを合わせ、「Webページで表示」をクリックし、チェックマークを付けます。**

アクティブデスクトップに切り替わります。

4 その他の注意事項

インテル® プロセッサ シリアル ナンバについて(C2/55L, C2/50L, C2/507をお使いの方)

インテル プロセッサ・シリアル・ナンバ

インテル® Pentium®IIIプロセッサに組み込まれた電気的に読み取り可能なシリアル番号で、ウェブ上でのセキュリティ向上や情報管理・資産管理などに利用することができます。
プロセッサ・シリアル・ナンバはBIOSセットアップ(☞P.105)を使用して読み取り機能の「有効」/「無効」を設定することができます。

注意事項

BIOSセットアップについて

BIOSセットアップ(☞P.105)の「詳細」メニュー内の「CPU L2 Cache Ecc Checking」で、プロセッサ・シリアル・ナンバの読み取り機能の設定をすることができます。

プロセッサ・シリアル・ナンバについての詳細情報

プロセッサ・シリアル・ナンバの詳細については、http://www.intel.com/jp/pentiumiii を参照してください。

液晶ディスプレイの特性(C2/55L, C2/50L, C2/46Lをお使いの方)

TFT液晶ディスプレイは高度な技術を駆使し、一画面上に235万個以上(解像度1024×768の場合)の画素(ドット)より作られております。このため、画面上の一部に点灯しないドットや、常時点灯するドットが存在する場合がありますが、これらは故障ではありませんので、あらかじめご了承ください。

液晶ディスプレイの廃棄(C2/55L, C2/50L, C2/46Lをお使いの方)

液晶ディスプレイ内の蛍光管の中には水銀が含まれています。本パソコンの廃棄にあたっては、地方自治体の条例または規則に従ってください。

液晶ディスプレイの接続(C2/55L, C2/50L, C2/46Lをお使いの方)

液晶ディスプレイは、必ずパソコン本体の電源を入れる前に接続しておいてください。
また、液晶ディスプレイの電源はパソコン本体の電源を入れる前に入れておいてください。
パソコン本体の電源を入れた後にディスプレイを接続したり、電源を入れたりすると、画面が表示されないことがあります。

PS/2 マウスの表示

本パソコンでは次の2ヵ所でエラーのメッセージが表示されます。故障ではありませんので、お使いになるうえで問題はありません。

- 「システムのプロパティ」ウィンドウの「デバイスマネージャ」タブで、「PS/2 互換マウスポート」に「！」マークが表示されます。
- システム情報の「問題のあるデバイス」に「PS/2 互換マウスポート」と表示されます。

モデムについて

内蔵モデムに電話回線を接続するときの注意

警 告

感 電

近くで雷が起きたときは、パソコン本体の電源プラグをコンセントから、モジュラーケーブルをモジュラージャックから抜いてください。
そのまま使用すると、場合によっては本パソコンを破壊し、火災の原因となります。

注 意

感 電

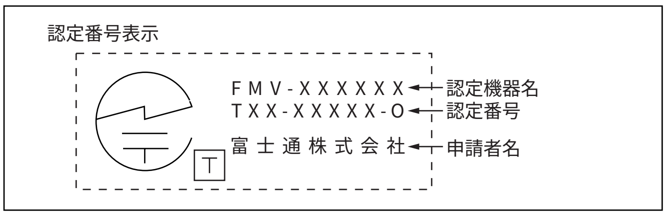
モジュラージャックやモジュラーコネクタに指などを入れないでください。
感電の原因となることがあります。

- **モデムが使用可能な回線**
  本モデムは、接続する電話回線がNTTの一般公衆電話回線の電気的な仕様と同じでないと正常に動作しません。
- **ホームテレホン、ビジネスホンなどには接続できません**
  本モデムが接続できる回線は、一般のNTT公衆電話回線のみです。ホームテレホン、ビジネスホン、キーテレホン、ボタン電話などは、NTTの電話回線と電気的な仕様が異なるため接続できません。接続前に電話装置メーカーや保守業者にお問い合わせください。
- **デジタル回線に接続する場合**
  本モデムはデジタル網（ISDN等）やデジタル構内交換網（デジタルPBX）の回線に直接接続することはできません。モデムカードが故障するおそれがありますので、ターミナルアダプタ等を経由して、アナログポートに接続してお使いください。
- **PBX に接続する場合**
  PBX に接続される通信回線の仕様が NTT の電話回線と電気的な仕様が異なる場合、本モデムがお使いになれないことがあります。たとえば、呼出信号の電圧や周期、ダイヤルトーンの条件などについては NTT 回線の仕様に準拠しています。接続する前に、PBX の製造メーカーや保守業者にお問い合わせください。
  ただし、"0"発信によって外線に接続する PBX 内線電話の場合、お使いのアプリケーションの設定で初期化コマンドにATX3を追加するか、または発信音をチェックしない設定をすることで、発信できることがあります。
- **キャッチホン 1 契約をしている場合**
  パソコン通信や FAX 送受信中に他から電話がかかると、回線が一時的に切断されます。その場合は、通信データが壊れたり、送受信が中止されたりすることがあります。キャッチホン 2 に変更するか、または同一の回線ではお使いにならないでください。

- **FAX 受信時の注意**
  自分側からダイヤルした場合、またはハンドセットで通話している間は、相手側からの FAX を受信できません。
- **通信アプリケーションをお使いになるときの注意**
  通信アプリケーションでデータのアップロード／ダウンロードを行う場合は、パソコンがスタンバイ状態にならないように設定してください。アップロード／ダウンロードの途中でスタンバイ状態になると、データ転送が中断することがあります。
- **リダイヤル抑制機能について**
  電気通信事業法に準じて、本モデムのリダイヤル（最初のダイヤリングは含まれません）は、3 分間に最大 2 回までしかできません。3 回以上リダイヤルすると、リダイヤル抑制がかかります。
  リダイヤル抑制中は、次のように応答を返します。
  DELAYED（残り時間）
- **電源ケーブルなどは離してお使いください**
  電源ケーブルなどは、ノイズを発生して電話回線に影響を及ぼす場合があります。モデムをお使いになる場合は、これらのノイズ源と回線を影響のない程度に離してお使いください。
- **他のモデムを接続しないでください**
  他の外付けモデム、または電話機付きのモデムなどが、本モデムの「TEL」端子に接続されている場合は取り外してください。
- **分岐アダプタを使用してインターネットやパソコン通信をしているときの注意**
  通信中は電話機の受話器を外さないようにしてください。受話器が外れると、通信の妨害となり、通信が中断されることがあります。
  分岐アダプタをお使いになる場合は、なるべく 2 分岐以内にしてください。
- **モジュラーケーブルの長さが足りないとき**
  添付のモジュラーケーブルで長さが足りないときは、十分な長さの市販品をお買い求めください。
- **AT コマンドについて**
  本モデムのATコマンドについては、「アプリケーションCD 2」にあるPDFマニュアルをご覧ください。
  e:\Fx52z1\README.pdf
  └ e は、お使いの DVD-ROM ドライブ名または CD-ROM ドライブ名に読みかえてください。
  PDF マニュアルの使いかたは、『使いこなす本 ソフト編』の「付録 3 PDF マニュアルの使いかた」をご覧ください。

認定番号の表示

本モデムの技術基準適合認定番号は、モジュラージャック差し込み口の横に表記されています。



ACPIのスタンバイモード設定の変更について

本パソコンでは、スタンバイモードを標準（ACPI S1）と高度（ACPI S3）のどちらかを選んでお使いになれます。ご購入時の設定は、標準（ACPI S1）となっています。

- 標準（ACPI S1）：スタンバイ時にCPUの動作を停止し節電します。消費電力は高度設定ほど小さくなりませんが、すぐに復帰できます。
- 高度（ACPI S3）：スタンバイ時にメモリにデータを保存し、メモリ以外の電源を切り大幅に節電します。消費電力は最小になりますが、標準設定に比べ復帰に時間がかかります。

スタンバイモード設定を変更するには、「スタンバイモード設定ツール」を使用して、次の手順に従って操作してください。

重要

拡張カードなどのオプション機器はACPI S3に対応している必要があります

スタンバイモードを高度（ACPI S3）へ設定を変更する前に、増設したオプション機器がACPI S3に対応していることを確認してください。オプション機器が対応していない場合は、スタンバイ状態から復帰しなかったり、復帰した後に正しく動作しない、などの不具合が発生する場合があります。

スタンバイモードを高度（ACPI S3）へ設定を変更した場合

キーボードやマウスの操作では、スタンバイから復帰しません。電源スイッチを押して、スタンバイから復帰させてください。

マルチユーザー環境でご使用の場合

ログインするユーザーごとにスタンバイモードを同じ設定にする操作が必要です。

スタンバイモードを高度（ACPI S3）に設定する

1 それまで本パソコンで行っていた作業を終了します。

必要に応じて作業中のデータを保存し、アプリケーションを終了してください。

2 「アプリケーションCD 2」をDVD-ROMドライブまたはCD-ROMドライブにセットします。

3 「スタート」ボタンをクリックし、「ファイル名を指定して実行」をクリックします。

4 「名前」に次のように入力し、「OK」をクリックします。

e:\update\etc\chgsmode\chgsmode.exe

└ eには、お使いのDVD-ROMドライブ名またはCD-ROMドライブ名を入力してください。

「スタンバイモードの設定－注意事項」ウィンドウが表示されます。

5 「次の画面」をクリックします。

「スタンバイモードの設定」ウィンドウが表示されます。

6 「高度」の ○ をクリックし、◉ にします。

「高度」の下に「(現在の設定)」が表示されている場合は、スタンバイモードはすでに高度に設定されていますので、「キャンセル」をクリックして終了させてください。

アドバイス

「スタンバイモードの設定ー高度（ACPI S3）設定エラー」ウィンドウが表示される場合

内容をよくお読みのうえ、「次の画面」をクリックしてください。

「スタンバイモードの設定」ウィンドウが表示される前に「スタンバイモードの設定ー高度（ACPI S3）設定エラー」ウィンドウが表示された場合

「高度」の下に「(現在の設定)」が表示された状態で「OK」をクリックしてください。

BIOS設定の「標準設定値を読み込む」を行うと、スタンバイモードは標準（ACPI S1）に戻ります

もう一度高度（ACPI S3）にする場合は設定をやり直してください。

7 **「OK」をクリックします。**
「スタンバイモードを高度（ACPI S3）設定にします」というメッセージが表示されます。

8 **「OK」をクリックします。**
本パソコンが再起動します。

これでスタンバイモードを高度にする設定は終了です。

スタンバイモードを標準（ACPI S1）に設定する

スタンバイモードを標準（ACPI S1）の設定に戻すときは、次の手順に従って操作してください。

1 **それまで本パソコンで行っていた作業を終了します。**
必要に応じて作業中のデータを保存し、アプリケーションを終了してください。

2 **「アプリケーションCD 2」をDVD-ROMドライブまたはCD-ROMドライブにセットします。**

3 **「スタート」ボタンをクリックし、「ファイル名を指定して実行」をクリックします。**

4 **「名前」に次のように入力し、「OK」をクリックします。**
e:\update\etc\chgsmode\chgsmode.exe
└ eには、お使いのDVD-ROMドライブ名またはCD-ROMドライブ名を入力してください。
「スタンバイモードの設定－注意事項」ウィンドウが表示されます。

アドバイス
「スタンバイモードの設定－高度（ACPI S3）設定エラー」ウィンドウが表示される場合
内容をよくお読みのうえ、「次の画面」をクリックしてください。

5 **「次の画面」をクリックします。**
「スタンバイモードの設定」ウィンドウが表示されます。

6 **「標準」の ◯ をクリックし、◉ にします。**
「標準」の下に「（現在の設定）」が表示されている場合は、スタンバイモードはすでに標準に設定されていますので、「キャンセル」をクリックして終了させてください。

7 **「OK」をクリックします。**
「スタンバイモードを標準（ACPI S1）設定にします」というメッセージが表示されます。

8 **「OK」をクリックします。**
本パソコンが再起動します。

これでスタンバイモードを標準にする設定は終了です。

ACPI S3の注意事項

スタンバイモードを高度（ACPI S3）でお使いの場合に、MS-DOS プロンプトを起動していると、次のような現象が起こることがあります。

- スタンバイから復帰したときにウィンドウ内が黒く表示される
  MS-DOSプロンプトをウィンドウ表示で使用している場合に、スタンバイ状態になると起こる現象です。
  マウスを操作すると正常な表示に戻ります。
- スタンバイから復帰したときにウィンドウが最小化されている
  MS-DOS プロンプトを全画面表示で使用している場合に起こる現象です。
  タスクバーにある「MS-DOSプロンプト」をクリックして全画面表示に戻してください。

APMについて

本パソコンでは、省電力機能として、ACPI（Advanced Configuration and Power Interface）機能とAPM（Advanced Power Management）機能のどちらかを選んでお使いになれます。ACPI機能に対応していないオプション機器をお使いになるときにAPM機能に変更します。ご購入時の設定はACPI機能です。

> **重要**
>
> **ハードディスクをご購入時の状態に戻してください**
>
> Windows98のAPM機能に設定を変更するには、パソコンをご購入時の状態に戻す必要があります。ハードディスク（Cドライブ）内のファイルはすべて消えることになるため、お客様が作成したデータなどの大切なファイルは、事前にフロッピーディスクなどにコピーして保存してください。
>
> また、ご購入後にインストールされたアプリケーションは、もう一度インストールし直す必要があります。
>
> **電源を切るときは**
>
> アドバイス「その他の電源の切りかた」（☛P.17）をご覧になり電源を切ってください。電源ボタンを押すと、スタンバイ状態になります。
>
> **ACPI機能に戻すときには**
>
> 再度ハードディスクをご購入時の状態に戻す必要があります。
>
> ACPI機能へ設定を戻すには、『トラブル解決Q&A』をご覧になり、ご購入時の状態に戻してから設定を変更してください。

Windows98のAPM機能を設定する

必要なものを用意する

APMの設定には、次のものが必要です。

- 『トラブル解決Q&A』
- 『取扱説明書』
- 「リカバリCD-ROM」（1/2）（2/2）
- 「アプリケーションCD 2」

APM切り替えプログラムを使う

いったんAPM機能に切り替えると、ACPI機能に戻すには、増設したオプション機器（拡張カードやプリンタ、スキャナなど）を取り外し、作成したデータを保存して、もう一度ハードディスク（Cドライブ）をご購入時の状態に戻す必要があります。前述の注意事項を確認して、内容にご同意いただける場合は、次の操作を行ってください。

1 **『トラブル解決Q&A』、『取扱説明書』をご覧になり、本パソコンをご購入時の状態に戻します。**

ご購入後に増設されたオプション機器（拡張カード類やプリンタ、スキャナなど）はすべて取り外してください。これらのオプション機器は、すべての作業が終了するまで取り付けないでください。

また、ご購入後に作成したデータ、インストールしたアプリケーションなどは、すべて削除されます。必要なデータは、あらかじめフロッピーディスクなどに保存しておいてください。

2 **パソコン本体の電源を入れます。**

3 **「アプリケーションCD 2」をDVD-ROMドライブまたはCD-ROMドライブにセットします。**

4 **「スタート」ボタンをクリックし、「ファイル名を指定して実行」をクリックします。**

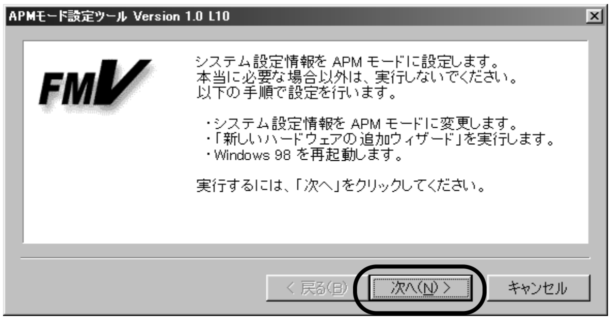
5 **「名前」に次のように入力し、「OK」をクリックします。**

e:\chgapm\chgapm.exe

└ eには、お使いのDVD-ROMドライブ名またはCD-ROMドライブ名を入力してください。

「APMモード設定ツール」ウィンドウが表示されます。内容をよくお読みください。

6 **「次へ」をクリックします。**



7 **「APMモードに設定する」の□をクリックし、☑にします。**

8 **「次へ」をクリックします。**

9 **「完了」をクリックします。**

「新しいハードウェアの追加ウィザード」ウィンドウが表示されます。

10 **「次へ」をクリックします。**

「システムにあるプラグアンドプレイ機器を検索します。」というメッセージが表示されます。

11 **「次へ」をクリックします。**

「インストールするデバイスは一覧にありますか？」というメッセージが表示されます。

12 **「デバイスは一覧にない」の○をクリックして◉にし、「次へ」をクリックします。**

「新しいハードウェアを自動的に検出しますか？」というメッセージが表示されます。

13 **「はい」をクリックし、「次へ」をクリックします。**

「プラグアンドプレイで検出されなかった新しいデバイスを検索します。」というメッセージが表示されます。

14 **「次へ」をクリックします。**

新しいデバイスの検索が始まります。検索には数分かかります。

「ハードウェアの検出が完了し、インストールの準備ができました。」というメッセージが表示されます。

15 **「完了」をクリックします。**

「今すぐ再起動しますか?」というメッセージが表示されます。

アドバイス

メッセージが表示されたら

- 「ドライバ更新の警告」ウィンドウが表示された場合は「はい」をクリックしてください。
- 「Windows98 のCD-ROM」を要求するメッセージが表示された場合には、c:\windows\options\cabs と入力し、「OK」をクリックしてください。
- 「ディスプレイ設定に問題があります」というメッセージが表示された場合は「OK」をクリックし、続いて表示される「画面のプロパティ」ウィンドウで「キャンセル」をクリックしてください。

16 **フロッピーディスクがセットされていないことを確認し、「はい」をクリックします。**

Windows98 が再起動し、新しいハードウェアの検出が実行されます。
「今すぐ再起動しますか？」というメッセージが表示されます。

17 **「はい」をクリックします。**

Windows98 が再起動します。

18 **DVD-ROMドライブまたはCD-ROMドライブから「アプリケーションCD」を取り出します。**

19 **「スタート」ボタンをクリックし、「設定」にマウスポインタを合わせ、「コントロールパネル」をクリックします。**

20 **（ハードウエアの追加）をクリックします。**

「新しいハードウェアの追加ウィザード」ウィンドウが表示されます。

21 **「次へ」をクリックします。**

「システムにあるプラグアンドプレイ機器を検索します。」というメッセージが表示されます。

22 **「次へ」をクリックします。**

「インストールするデバイスは一覧にありますか？」というメッセージが表示されます。

アドバイス

C2/55L, C2/50L, C2/46L をお使いの方は

「すべてのデバイスがインストールされましたか？」というメッセージが表示されたら、「ほかのデバイスもインストールする」のをクリックしてにし、「次へ」をクリックします。

23 **「デバイスは一覧にない」のをクリックしてにし、「次へ」をクリックします。**

「新しいハードウェアを自動的に検出しますか？」というメッセージが表示されます。

24 **「はい」をクリックし、「次へ」をクリックします。**

25 **「次へ」をクリックします。**

新しいデバイスの検索が始まります。検索には数分かかります。

アドバイス

「詳細」ボタンが表示されたら

検出が完了すると「詳細」ボタンが表示されます。このボタンをクリックして、「アドバンスト パワーマネジメント サポート」が検出されたことを確認してください。

26 **「完了」をクリックします。**

27 **「スタート」ボタンをクリックし、「Windows の終了」をクリックします。**

28 **「再起動する」をクリックし、「OK」をクリックします。**

本パソコンが再起動し、「RealPlayer G2 の設定」ウィンドウが表示されます。

29 **「OK」をクリックします。**

画面の設定をする

1 **「スタート」ボタンをクリックし、「設定」にマウスポインタを合わせ、「コントロールパネル」をクリックします。**

2 **（画面）をクリックします。**

3 **「設定」タブをクリックし、「色」を「High Color（16 ビット）」に設定します。**

4 **「OK」をクリックします。**

「今すぐ再起動しますか？」というメッセージが表示されます。

5 **「はい」をクリックします。**

本パソコンが再起動します。

6 **画面を設定します。**

ご購入時の状態に戻すには、解像度や発色数などの画面の設定を変える必要があります。詳しくは、「画面の解像度と発色数を変える」（☛P.53）をご覧ください。

画面を設定したら、必ず本パソコンを再起動してください。

7 **「スタート」ボタンをクリックし、「Windows の終了」をクリックします。**

8 **「再起動する」をクリックし、「OK」をクリックします。**

本パソコンが再起動します。

9 **APM機能に設定されたことを確認するため、「スタート」ボタンをクリックし、「Windows の終了」をクリックします。**

「Windows の終了」ウィンドウで「スタンバイ」が表示されることを確認し、「キャンセル」をクリックします。

3 モードフロッピードライバを再インストールする

1 **「コントロールパネル」ウィンドウの****（システム）をクリックします。**

2 **「デバイスマネージャ」タブをクリックし、「フロッピーディスクコントローラ」の[+]をクリックします。**

3 **「Fujitsu3-modeFloppy（FMVSeries）」をクリックし、「削除」をクリックします。**

「デバイス削除の確認」ウィンドウが表示されます。

4 **「OK」をクリックします。**

5 **「閉じる」をクリックします。**

6 **「コントロールパネル」ウィンドウの****（ハードウェアの追加）をクリックします。**

「新しいハードウェアの追加ウィザード」ウィンドウが表示されます。

7 **「次へ」をクリックします。**

「システムにあるプラグアンドプレイ機器を検索します。」というメッセージが表示されます。

アドバイス

C2/55L, C2/50L, C2/46Lをお使いの方は

「すべてのデバイスがインストールされましたか？」というメッセージが表示されたら、「ほかのデバイスもインストールする」の○をクリックして◉にし、「次へ」をクリックします。

8 「次へ」をクリックします。

「インストールするデバイスは一覧にありますか？」というメッセージが表示されます。

9 「デバイスは一覧にない」の○をクリックして◉にし、「次へ」をクリックします。

「新しいハードウェアを自動的に検出しますか？」というメッセージが表示されます。

10 「いいえ」の○をクリックして◉にし、「次へ」をクリックします。

11 「ハードウェアの種類」で「フロッピーディスクコントローラ」をクリックし、「次へ」をクリックします。

12 「ディスク使用」をクリックします。

13 「アプリケーションCD 2」をDVD-ROMドライブまたはCD-ROMドライブにセットします。

14 「配布ファイルのコピー元」に次のように入力し、「OK」をクリックします。

e:\3mode

eには、お使いのDVD-ROMドライブ名またはCD-ROMドライブ名を入力してください。

15 「次へ」をクリックします。

16 「完了」をクリックします。

ファイルのコピーが始まり、しばらくすると「今すぐ再起動しますか？」というメッセージが表示されます。

17 「はい」をクリックします。

本パソコンが再起動します。

18 DVD-ROMドライブまたはCD-ROMドライブから「アプリケーションCD 2」を取り出します。

APMシステム情報設定ツールを使う

1 「アプリケーションCD 2」をDVD-ROMドライブまたはCD-ROMドライブにセットします。

2 「スタート」ボタンをクリックし、「ファイル名を指定して実行」をクリックします。

3 「名前」に次のように入力し、「OK」をクリックします。

e:\fixapm\fixapm.exe

eには、お使いのDVD-ROMドライブ名またはCD-ROMドライブ名を入力してください。

「APMシステム情報設定ツール」ウィンドウが表示されます。

4 「OK」をクリックします。

「今すぐ再起動しますか？」というメッセージが表示されます。

5 「はい」をクリックします。

本パソコンが再起動します。

6 **DVD-ROMドライブまたはCD-ROMドライブから「アプリケーションCD 2」を取り出します。**

電源の管理の設定をする

1 **「スタート」ボタンをクリックし、「設定」にマウスポインタを合わせ、「コントロールパネル」をクリックします。**

2 **（電源の管理）をクリックします。**
「電源の管理のプロパティ」ウィンドウが表示されます。

3 **「詳細」タブをクリックします。**

4 **「コンピュータのスリープボタンを押したとき」の右側のをクリックし、「シャットダウン」をクリックします。**

5 **「OK」をクリックします。**

6 **「スタート」ボタンをクリックし、「Windowsの終了」をクリックします。**

7 **「再起動」をクリックし、「はい」をクリックします。**
本パソコンが再起動します。

8 **「スタート」ボタンをクリックし、「設定」にマウスポインタを合わせ、「コントロールパネル」をクリックします。**

9 **（電源の管理）をクリックします。**
「電源の管理のプロパティ」ウィンドウが表示されます。

10 **「詳細」タブをクリックします。**

11 **「コンピュータのスリープボタンを押したとき」の右側のをクリックし、「スタンバイ」をクリックします。**

12 **「OK」をクリックします。**

これでAPM機能の設定は終了です。このあとにオプション機器の接続、アプリケーションのインストールを行ってください。

索引

索引

使いこなす本　ハード編

B3FH-5531-01-01

発 行 日　　1999年10月

発行責任　　富士通株式会社

Printed in Japan

㋐ 9911-2



箱を開けたら…

箱の中身を確認してください。ご購入後、できるだけ早く添付品を確認しましょう。

はじめに読む本

まず最初に…

1 取扱説明書



ビデオを見てから本を見よう!



パソコンが初めてなら…

2 かるがるパソコン入門



CD-ROMが付いています!

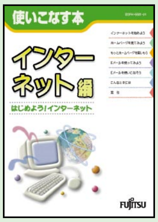


FMVを知ろう!

3 FMV総合案内



使いこなす本



インターネット編

- インターネットをはじめる
- ホームページを見る
- Eメールで手紙を出す



ソフト編

- デジタル写真を利用する
- はがきを作る
- 電車の経路を調べる
- 地図で調べる



ハード編

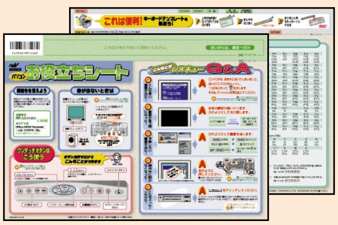
- 各部の名称を知る
- プリンタをつなぐ
- メモリを増やす

困ったときの本

お役立ちシート

お手元に置いてお使いください

- ありがちなトラブルの解決
- 文字入力早わかり



トラブル解決Q＆A

- パソコンが動かない!
- サポート情報
- パソコンをふりだしにもどす



画面で見る パソコン情報ランド

今すぐ役立つ情報がいっぱいです!

- 豊富なQ&A情報
- マニュアル検索
- パソコン用語集
- トラブル解決のヒント



ちきゅうにやさしい
古紙の利用

このマニュアルはエコマーク認定の再生紙を使用しています。

T4988618874168